

第9章 社会教育

第1節 概要

(1) 社会教育一般

県社会教育委員の会議では、公募委員2名を含む16名に委員を委嘱した。

学校・家庭・地域がそれぞれの役割を自覚し、連携・協力しながら、地域社会全体で子どもたちの教育を支援していくための体制づくりや人材育成等のあり方を審議するとともに、本県における社会教育推進や地域の教育力向上を目指した施策から、成果及び課題を整理し、平成30年3月に提言作成に向けて協議を進めた。

(第2章 第7節に記載)

(2) 地域コミュニティの再生

震災からの復興のために、地域コミュニティを再生していくことが重要である。そのために、地域の実情に即して、学校・家庭・地域住民の連携を進めるとともに、それぞれが主体的かつ確実にその役割を果たしながら、地域の教育力向上を図ることができるよう、子どもたちの健全育成と安心安全な活動拠点づくりを推進するための「放課後子ども教室推進事業」や、地域人材や社会教育団体などの参画を得て、学校と地域の連携の構築を図り、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進する「学校支援地域本部事業」を実施するとともに、「学校・家庭・地域連携サポート事業」において、コーディネーターやボランティアを対象とした研修等を実施した。

また、災害記録の保存と県民への情報提供に活用する資料の収集を行い、移動図書館や協力車の巡回を実施して読書普及を通じた支援を行った。

(3) 家庭教育

家庭教育は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につける上で重要な役割を担っている。しかしながら、少子高齢化、高度情報化等、社会環境が激しく変化する現在、子育てに関する課題等も多様化している。そこで、PTAや企業との連携する等、地域ぐるみで子どもたちを育む仕組みの構築に努め、「地域でつながる家庭教育応援事業」等を実施した。

(4) 青少年教育

青少年の豊かな人間性や社会性を育むためには、異年齢の子ども同士や地域の大人等の関わりのもと、自然体験、ボランティア活動、職業体験、交流体験、スポーツ・文化活動等の様々な体験の機会の充実や社会環境づくりが促進されることが必要である。そのために、「体験活動・ボランティア推進センター事業」を実施するとともに、学校・家庭・地域が連携を進めながら、地域ぐるみで青少年を育成する環境づくりが推進されるよう、子どもと大人が、共通の体験をとおして、感動したことや共感したことを話し

合い、また、震災からさらなる復興を願った「ふくしま」への思いを、日本古来の五・七・五の十七音で表現した作品を募集、表彰、広報する「ふくしまを十七字で奏でよう絆のふれあい支援事業」を実施した。

(5) 成人教育

地域における大人の持つ知識や技能、公民館等において学習した成果などを、地域社会に還元する活動の重要性が高まっていることから、地域の教育力の向上への取組と関連させながら、成人の学習活動や社会参加活動を促進するよう努めた。

(6) 子どもの読書活動推進

第三次「福島県子ども読書活動推進計画」に基づき、関係機関と連携して、地域で子どもの読書活動を推進するボランティアの資質向上を図り、学校図書館への支援等もできる人材の養成に努めるとともに、福島県子ども読書活動推進会議を開催し、読書活動推進に向けた協議を行った。

また、読書の楽しさや自ら進んで読書に親しむきっかけとして、高校生によるビブリオバトルを開催した。

(7) ユネスコ活動

ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に広めるよう努めた。

(8) ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業

子どもたちの豊かな人間性や生きる力を育むために「ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業」を実施し、東日本大震災の経験を踏まえ、再発見した郷土の良さを伝え合い発信していく様な交流活動を行う団体や充実した自然体験活動等を行う団体に対し、補助金を交付した。

(9) 子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業

子どもたちが福島の今を伝える活動を行う中で主体的に復興に寄与する社会体験活動に取り組むことなど、その想いを具現化できる機会を提供するため、「子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業」を実施し、市町村や青少年育成団体等が実施する事業に対し、補助金を交付した。

第2節 社会教育一般

1 社会教育推進体制の充実

(1) 社会教育行政の推進

社会教育担当者会議

第1回 日時 平成28年4月8日(金)

場所 中町ビル

第2回 日時 平成29年2月3日(金)

場所 公立学校共済組合飯坂保養所

(2) 社会教育主事の設置

社会教育活動の充実を図るため、県立自然の家へ社会教育主事を配置するなど設置促進に努めた。

(3) 社会教育関係職員の研修

ア 市町村の社会教育主事や公民館職員、図書館職員、社会教育指導員などの社会教育関係職員を対象とした研修機会の充実を図り、その資質向上に努めた。

イ 国立教育政策研究所等で実施する専門的な研修講座への計画的な派遣に努めた。

(4) 各種社会教育関係団体等との連携

地域の教育力向上を図る観点から、各種社会教育関係団体等の果たす役割や学校・家庭・地域住民の連携を促進するための活動が重要であるため、各種社会教育関係団体等との連携に努めた。

2 社会教育施設の整備充実

(1) 県立社会教育施設の整備充実

ア 県立図書館の整備充実

県民への図書館サービスの向上を図るため、図書館資料や設備・備品等の整備充実に努めるとともに、「県立図書館情報ネットワークシステム」を活用して公立図書館や公民館図書室、学校図書館等との連携の強化に努めた。

イ 福島県自然の家の整備充実

自然の中での集団宿泊体験を通して青少年の健全育成を図る場や機会を拡充するため、自然の家の整備充実に努めた。

(2) 市町村立社会教育施設の整備促進

ア 公民館の整備促進

地域住民のための学習の拠点となる社会教育施設として、多様化した学習ニーズに的確に対応し、充実した公民館活動が行われるよう、市町村に対し、長期的な展望に立った施設・設備の在り方について助言した。

イ 市町村立図書館の整備促進

市町村立図書館を26自治体巡回し、図書館の運営相談や相互貸借資料等の搬送等を行った。

また、高等教育機関にも巡回しその連携体制の強化に努めた。

(3) 災害復旧国庫補助事業

激甚災害に指定された東日本大震災で被災した、公立社会教育施設の災害復旧事業を補助するため、災害査定（現地調査）等の事務を行った。また、未だ申請できない双葉地区等の市町村について情報収集を行い、復旧に向けての準備ができるよう働きかけた。

3 社会教育関係職員の研修

(1) 公民館職員研修会

ア 期日 平成28年5月18日(水)～19日(木)

イ 会場 福島県男女共生センター

ウ 参加対象 市町村公民館職員でおおむね3年未満の者及び社会教育関係者

エ 参加者数 38名

オ 講師

教育庁社会教育課主幹

平久井 淳

白河市中央公民館長

双石 正義

福島大学地域創造支援センター

副センター長

准教授 木暮 照正

須賀川市西袋公民館生涯学習インストラクター

大柿 重子

教育庁社会教育課主任社会教育主事 渋川 卓也

(2) 福島県市町村社会教育担当者研修会

ア 期日 平成28年9月1日(木)～2日(金)

イ 会場 郡山市立中央公民館

ウ 参加対象

社会教育関係行政職員（公民館職員、社会教育主事等の社会教育関係事業担当2年目以上の職員）、社会教育指導員等

エ 参加者数 54名

オ 講師

棚倉町教育委員会生涯学習課生涯学習係主事

古市 裕幸

文部科学省生涯学習政策局社会教育課

地域・学校支援推進室

放課後子ども総合プラン連携推進室連携支援係長

鈴木 秀彦

国見町教育委員会生涯学習課課長兼公民館長

羽根 洋一

尚絅学院大学エクステンションセンター特任教授

松田 道雄

4 社会教育研究集会

※ 全国公民館研究集会 東北地区社会教育研究集会

東北地区公民館大会 福島県公民館研究集会との合同開催

(1) 主催

一般社団法人全国社会教育委員連合 公益社団法人全国公民館連合会 東北地区社会教育委員連絡協議会 東北地区公民館連絡協議会 福島県市町村社会教育委員連絡協議会 福島県公民館連絡協議会

(2) 共催

福島県教育委員会 福島市教育委員会 会津若松市教育委員会

(3) 後援

文部科学省 青森県教育委員会 岩手県教育委員会 宮城県教育委員会 秋田県教育委員会 山形県教育委員会 福島県 福島市 会津若松市 他

(4) 日程・内容

ア 期日 平成28年10月20日(木)～21日(金)

イ 会場 とうほう・みんなの文化センター

コラッセふくしま 福島市アクティブシニアセンターA・O・Z(アオウゼ)

ウ 参加対象 全国及び東北各県や市町村の社会教育委員

公民館関係者、社会教育関係者、生涯学習・社会教育・学校教育関係者 社会教育に関心のある方

- エ 参加者数 2日間のべ1, 214名(福島県782名)
- オ 記念講演
講師 一般社団法人ふくしま学びのネットワーク
理事・事務局長 前川 直哉
演題 「ふくしまから始まる新しい学び」
- カ 分科会
第1分科会「地域を拓く社会教育と社会教育委員の役割」
第2分科会「今日的な社会の課題に対応する社会教育活動」
第3分科会「発信！震災からの復興に向けた学び」
第4分科会「公民館を取り巻く波 指定管理とコミセン化」
第5分科会「公民館の存在意義を問う」

5 社会教育指導員の設置

(1) 設置数

- ア 県北 48名
イ 県中 17名
ウ 県南 10名
エ 会津 58名
オ 南会津 11名
カ 相双 12名
キ いわき 6名 合計 162名

(2) 福島県市町村社会教育指導員研修会(年2回)

- ア 第1回
(ア) 期日 平成28年5月9日(月)
(イ) 場所 郡山市公会堂
(ウ) 対象 福島県市町村社会教育指導員
(エ) 参加者数 146名
(オ) 講師 社会教育課主幹 平久井 淳
- イ 第2回
(ア) 期日 平成28年10月7日(金)
(イ) 場所 白河市表郷公民館
(ウ) 対象 福島県市町村社会教育指導員、青少年教育指導員、社会教育主事、公民館職員等社会教育関係者
(エ) 参加人数 121名
(オ) 講師 (株)楽市白河社長 鈴木 雅文
演題「社会教育とまちづくり」

6 社会教育主事の市町村派遣

※ 平成22年度より派遣していない。

7 社会教育研修会

(1) 内容

社会教育推進上の諸問題についての協議等を通してその方策を明らかにし、市町村における社会教育の振興・充実に資する。

市町村職員及び社会教育委員等を対象として希望市町村の計画に基づき実施する。

(2) 対象

公民館職員、公民館運営審議会委員、社会教育委員、社会教育関係者

(3) 期日・会場

域内	期日	実施市町村等	参加者
県北	9月15日	国見町	39名
	9月28日	大玉村	28名
県中	7月20日	天栄村	8名
	8月9日	石川地社連	25名
	10月4日	田村市	37名
県南	6月29日	矢祭町	10名
	7月5日	金山町	8名
会津	7月22日	猪苗代町	12名
	11月9日	柳津町	8名
	8月3日	下郷町	26名
南会津	11月21日	檜枝岐村	4名
	6月23日	広野町	8名
相双	8月9日	相馬市	10名
	9月28日	飯舘村	12名

合計 14箇所 参加者 235名

8 福島県公民館研究集会

※ 全国公民館研究集会・東北地区社会教育研究大会
・東北地区公民館大会と同時開催

(1) 期日 平成28年10月20日(木)～21日(金)

(2) 会場 とうほう・みんなの文化センター
コラッセふくしま

福島市アクティブシニアセンターA・O・Z

(3) 参加対象 公民館職員、公民館運営審議会委員等

(4) 参加者数 2日間のべ1, 214名(福島県782名)

(5) 記念講演

講師 一般社団法人ふくしま学びのネットワーク
理事・事務局長 前川 直哉
演題「ふくしまから始まる新しい学び」

分科会

第1分科会「地域を拓く社会教育と社会教育委員の役割」

第2分科会「今日的な社会の課題に対応する社会教育活動」

第3分科会「発信！震災からの復興に向けた学び」

第4分科会「公民館を取り巻く波 指定管理

9 社会教育職員研修派遣

(1) 東北大学社会教育主事講習

ア 主催 東北大学教育学部

イ 期日・会場

平成28年6月16日(木)～6月17日(金)

地方共済組合飯坂保養所 飯坂温泉みちのく荘
福島市飯坂学習センター

平成28年7月4日(月)～8月10日(水)

国立磐梯青少年交流の家
東北大学教育学部

ウ 受講者数 12名

エ 修了者名

域内	氏名	勤務先
県北 (2)	青木 秀正	国見町立県北中学校
	千葉 和則	伊達市立掛田小学校
県中(1)	岡部 史則	古殿町立古殿中学校
県南 (2)	鈴木 英雄	白河市立みさか小学校
	中畑 哲	塙町教育委員会
会津 (3)	石原信太郎	会津若松市立第二中学校
	佐藤 亮	会津若松市立小金井小学校
	土屋 浩行	猪苗代町立長瀬小学校
相双 (2)	安倍 聖	楡葉町立楡葉中学校
	佐藤 大志	広野町立広野小学校
いわき(1)	菊池 明彦	いわき市立泉北小学校
県立(1)	今井 康貴	県立勿来高等学校

(2) 国立教育政策研究所主催講習

ア 社会教育主事講習

(ア) 会場 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

(イ) 期日

a A講習 平成28年7月20日(水)～8月25日(木)

b B講習 平成29年1月18日(水)～2月23日(木)

(ウ) 受講者数

a A講習 0名

b B講習 3名

(エ) 修了者名

域内	氏名	勤務先
B講習 (3)	葛岡 丈治	国立磐梯青少年交流の家
	鈴木 悠愛	福島県会津自然の家
	吉田 浩子	福島県いわき海浜自然の家

イ 専門講座等

講座名	期間	受講者数
社会教育主事専門講座	12月13日(火) ～16日(金)	0

10 出版資料

資料名	部門	規格	頁数	広報手段
社会教育 No.337	社会教育	A4	12	ホームページ掲載

第3節 地域コミュニティの再生

1 放課後子ども教室推進事業

(1) 目的

すべての児童を対象とし、地域の方々の参画を得て、様々な体験活動や交流活動を行う「放課後子ども教室」を設置し、放課後等の子どもたちの安全で健やかな居場所をつくる。

(2) 県事業

○ 放課後子ども教室の実施

県立特別支援学校(3教室)

- ・ 福島県立聾学校福島分校
- ・ 福島県立聾学校平分校
- ・ 福島県立平養護学校

(3) 市町村事業

ア 運営委員会の実施

イ 子ども教室の実施

37市町村 114教室実施

2 学校支援地域本部事業

(1) 目的

地域人材や団体などの参画を得て、学校と地域が連携し、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進する。

(2) 市町村委託

20の市町村(福島市、桑折町、国見町、大玉村、本宮市、鏡石町、天栄村、石川町、玉川村、田村市、三春町、西郷村、会津若松市、北塩原村、西会津町、相馬市、双葉町、大熊村、富岡町、楡葉町)に44の学校支援地域本部が設置され実施した。

(3) 市町村補助

2町(柳津町、三島町)に2の学校支援地域本部が設置され実施した。

3 学校・家庭・地域連携サポート事業

(1) 目的

未来を担う子どもたちを健やかに育むために、学校、家庭、地域住民等がそれぞれの役割と自覚し、地域全体で教育活動を支援する体制づくりを目指す。特に、震災後の子どもたちを取り巻く環境の変化に対応した要望に応えることのできる支援を行うことにより、教育環境の復興を加速させる。

(2) 県事業

ア 放課後子ども教室地区別研修会 6箇所

県北地区

第1回

期 日：平成28年8月3日（水）
会 場：国見町観月台文化センター
参加者数：59名
内 容：実践参観・講演

第2回

期 日：平成28年10月13日（木）
会 場：本宮市立本宮まゆみ小学校
参加者数：70名
内 容：講話・実践参観

県中地区

期 日：平成28年10月3日（月）
会 場：須賀川市東公民館
参加者数：101名
内 容：講演・実践発表・情報交換・実践参観

県南地区

期 日：平成28年8月29日（月）
会 場：白河市 新白信ビル
参加者数：63名
内 容：実践発表・ワークショップ・グループ協
議

会津地区

期 日：平成28年7月28日（木）
会 場：道の駅あいづ湯川・会津坂下
参加者数：43名
内 容：実践発表・ワークショップ・グループ協
議

南会津地区

期 日：平成28年8月26日（金）
会 場：下郷町ふれあいセンター
参加者数：40名
内 容：講演・実技講習

相双地区

第1回

期 日：平成28年10月3日（月）
会 場：相馬市民会館
参加者数：44名
内 容：講話・実践発表・グループ協議

第2回

期 日：平成28年10月4日（火）
会 場：三春町三春交流館
参加者数：13名
内 容：講話・実技講習・グループ協議

イ 学校支援実践研修会（本庁）

- (ア) 期日 平成28年6月7日（火）
- (イ) 場所 郡山市公会堂
- (ウ) 内容
○講演

「学校と地域の新たな試み」

特定非営利活動法人まちと学校のみらい
代表理事 竹原 和泉

○事例発表Ⅰ

「放課後子ども教室げんき山の紹介」
南会津町放課後子ども教室げんき山
コーディネーター 中山 美華 様

○事例発表Ⅱ

「玉川村学校支援地域本部の事例」
玉川村学校支援地域本部
コーディネーター 我妻 亜希子 様

○グループ協議

「効果的な教育プログラムの実践に向けて」
～子どもたちを元気にする取組を目指して～

(エ) 参加者 120名

ウ 学校支援実践研修会各地区研修会（事務所）

県北地区

(ア) 期 日 平成28年10月17日（月）

(イ) 場 所 半田醸芳小学校

(ウ) 参加者 25名

県中地区

(ア) 期 日 平成28年11月16日（水）

(イ) 場 所 滝根小学校

(ウ) 参加者 27名

県南地区

(ア) 期 日 平成28年11月15日（火）

(イ) 場 所 中島村輝ら里

(ウ) 参加者 26名

会津地区

(ア) 期 日 平成28年10月14日（金）

(イ) 場 所 喜多方プラザ

(ウ) 参加者 43名

南会津地区

(ア) 期 日 平成28年11月 8日（火）

(イ) 場 所 下郷ふれあいセンター

(ウ) 参加者 44名

相双地区

(ア) 期 日 平成28年11月 9日（水）

(イ) 場 所 三春町交流館

(ウ) 参加者 13名

4 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業

(1) 目的

災害記録の保存と県民への情報提供のため、関連資料の収集を行う。資料は館内での提供と貸出に加え、出張展示にも活用する。また、避難自治体の教育委員会と連携し学校等への移動図書館（あづま号）の巡回を実施し、資料の貸出による支援を行う。

(2) 内容

- ア 震災及び原発事故関連資料収集
資料収集件数 10,646件
- イ 避難自治体支援
移動図書館(あづま号)による資料貸出
稼働18回 貸出2,664冊
(開催場所 飯館村、檜葉町他 計23ヶ所)

第4節 家庭教育

1 地域でつながる家庭教育応援事業

(1) 目的

本県の家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支援するために、PTAと連携し、家庭教育について親自身が学ぶ機会が充実するよう支援する。また、各地域で主体的に家庭教育の支援が行えるよう学習プログラムを作成するとともに、家庭教育支援者をリードする人材を育成する。さらに、企業と連携し地域の家庭教育を推進する。

(2) 家庭教育応援プロジェクト

- ア 福島県地域家庭教育推進協議会
 - 第1回 平成28年5月24日(火)
杉妻会館
 - 第2回 平成29年2月23日(木)
杉妻会館
- イ 地域家庭教育推進各地区ブロック会議
各教育事務所域内(7箇所)
各地区2回実施(6月~1月)
- ウ 家庭教育応援企業推進活動
連携企業数
 - 県北地区 52社(88社)
 - 県中地区 107社(175社)
 - 県南地区 9社(17社)
 - 会津地区 35社(65社)
 - 南会津地区 22社(51社)
 - 相双地区 0社(2社)
 - いわき地区 2社(20社)
 - 計 227社(418社) ※ () 累計
- エ 親子の学び応援講座
県北地区
 - 大玉村立大玉中学校 340名
期日 平成28年7月16日(土)
講演
「映像メディアが子どもの発達に及ぼす影響」
講師: 国立病院機構仙台医療センター
田澤 優作 氏
 - 川俣町PTA連絡協議会 70名
期日 平成28年8月1日(月)
講演
「インターネットを安心・安全に活用するために」

- 講師: 株式会社 情報文化総合研究所
佐藤 佳弘 氏
- 伊達市立伊達中学校 510名
期日 平成28年11月12日(土)
講演「情報モラルを学ぼう」
講師: 福島県教育センター情報教育チーム
主任実習講師 目黒 朋子 氏
- 福島市立鎌田小学校 260名
期日 平成28年11月26日(土)
講演「情報モラルを学ぼう」
講師: 福島県教育センター情報教育チーム
主任実習講師 目黒 朋子 氏

県中地区

- 天栄村立牧本小学校 160名
期日 平成28年7月1日(金)
実技研修
「子どもたちを健康に導く運動プログラム
"BALLGAME"体験」
講師: 東 秀樹 氏・安藤 太郎 氏
- 浅川町立浅川幼稚園 109名
期日 平成28年7月13日(水)
実技研修
「子どもたちを健康に導く運動プログラム
"BALLGAME"体験」
講師: 東 秀樹 氏・安藤 太郎 氏
- 田村市立西向小学校 167名
期日 平成28年9月28日(水)
実技研修
「子どもたちを健康に導く運動プログラム
"BALLGAME"体験」
講師: 東 秀樹 氏・安藤 太郎 氏

県南地区

- 近津小学校PTA 300名
期日 平成28年9月23日(金)
講演「親子で遊ぼう心のケア教室」
講師: NPO法人明日飛子ども自立の里
理事長 清水 国明 氏
- 泉崎第一小学校父母と教師の会 201名
期日 平成28年10月8日(土)
講演「思春期の子どもとの関わり方」
講師: 親業訓練インストラクター
大屋 弘子 氏
- 中島村立中島中学校PTA 95名
期日 平成28年12月10日(土)
講演「受験というストレスに勝つ方法」
講師: スクールカウンセラー
スーパーバイザー 成井 香苗 氏
- 塙町立常豊幼稚園保護者会 11名
期日 平成29年1月20日(金)
講演「子どもに愛が伝わっていますか」

講師：親業訓練インストラクター
大屋 弘子 氏
白河市立関辺幼稚園PTA 70名
期日 平成29年2月17日(金)
講演「子どもたちに魔法の杖を！」
講師：NPO法人明日飛子ども自立の里
理事長 清水 国明 氏

会津地区

認定こども園 40名
期日 平成28年10月29日(土)
講演「幼児期に与えるメディアの影響について」
講師：株式会社スキット 梅北 勝夫 氏
会津美里町立新鶴小学校 106名
期日 平成28年11月27日(日)
講演「スポーツにおける水分補給と栄養について」
講師：大塚製菓株式会社 野崎 石松 氏
会津美里町立宮川小学校父母と教師の会 139名
期日 平成28年12月15日(木)
講演「461個の弁当は、親父と息子の男の約束」
講師：ミュージシャン 渡辺 俊美 氏

南会津地区

檜枝岐村立檜枝岐中学校PTA 82名
期日 平成28年6月27日(月)
講演「メディアコントロール」
講師：会津大学短期大学部
准教授 中澤 真 氏
南会津町立伊南小学校PTA 58名
期日 平成28年7月5日(火)
講演「メディアが子どもの生活に与える影響」
講師：株式会社スキット 梅北 勝夫 氏
南会津町立檜沢中学校父母と教師の会 68名
期日 平成28年7月8日(金)
講演「メディアコントロール」
講師：秋田大学 阿部 昇 氏
南会津町立南会津中学校父母と教師の会 80名
期日 平成28年7月15日(金)
講演「親子で学ぼう！情報モラル」
講師：福島県教育センター情報教育チーム
主任実習講師 目黒 朋子 氏
南会津町立館岩小学校PTA 39名
期日 平成28年7月8日(金)
講演「食卓を囲むことの大切さ」
講師：福島学院大学短期大学部食物栄養科
准教授 鈴木 礼子 氏
南会津町立荒海中学校父母と教師の会 50名
期日 平成28年7月13日(水)
講演「インターネット・スマホ子どもにどう使わせる？」
講師：会津大学短期大学部産業情報学科
准教授 中澤 真 氏

只見町立明和小学校PTA 142名
期日 平成28年12月6日(火)
講演「家族みんなで楽しむ読書～『家読』のすすめ～」
講師：国見町立国見小学校長 阿部 雅好 氏
フリーアナウンサー 村木 彩子 氏

相双地区

川内村立川内小学校PTA 78名
期日 平成28年7月2日(土)
講演「家庭学習の習慣化」
講師：相双教育事務所
社会教育主事 稲垣 隆一 氏
南相馬市立石神第二小学校PTA 209名
期日 平成28年11月7日(月)
講演「メディアコントロール」
講師：国立病院機構仙台医療センター
田澤 雄作 氏
飯舘村立草野・飯樋・白石小学校PTA 104名
期日 平成28年12月2日(金)
講演「コミュニケーション能力や表現力の向上」
講師：松竹芸能株式会社 じなんぼ～いず 氏

いわき地区

いわき市立鹿島小学校PTA 334名
期日 平成28年11月1日(火)
講演「ケータイ・インターネットにご用心」
講師：いわきメディア指導員 染谷 昌彦 氏
いわき市立好間第一小学校PTA 191名
期日 平成28年12月9日(金)
講演「メディアコントロール」
講師：国立病院機構仙台医療センター
田澤 雄作 氏
いわき市立小名浜第一小学校PTA 298名
期日 平成29年2月9日(木)
講演「ネットいじめの現状と情報モラル教育」
講師：いわき明星大学教養学部
地域教養学科教授 中尾 剛 氏

(3) 家庭教育応援リーダー育成事業

家庭教育支援者の実践力向上と学習プログラムの開発
ア 家庭教育全県研修 106名
期日 平成28年7月2日
場所 国立磐梯青少年交流の家
内容 選択研修
「発達障がい理解と支援」
「子どもの食が将来に及ぼす影響とは」
「今時の子ども達のネット事情」
実践発表
「自分が輝くために」
演習
「家庭教育講座の企画・運営の仕方」

イ フォローアップ研修

代表 麻乃 じゅん 氏

県北地区 33名

期日 平成28年11月28日(月)

場所 福島県青少年会館

内容 講演

「小中高校生が安全安心してインターネットを利用するために、家庭ですべきこと、地域ですべきこと」

講師：株式会社情報文化総合研究所
代表取締役 佐藤 佳弘 氏

県中地区 47名

期日 平成28年10月28日(金)

場所 福島県環境創造センター

内容 講演

「ひとりの百歩より百人の一步」
「家庭教育支援者が知っておきたいコーチングの基礎」

講師：有限会社スタイルプロデュース
代表 門馬 俊光 氏

県南地区 35名

期日 平成28年12月7日(水)

場所 新白信ビル

内容 講演

「今時の子ども達のネット事情～子ども達のトラブル背景から情報モラル教育を考える～」

講師：福島県教育センター情報教育チーム
主任実習講師 目黒 朋子 氏

会津地区 28名

期日 平成28年11月30日(水)

場所 道の駅あいづ 湯川・会津坂下

内容 講演

「食育を考えよう」
事例発表
「私たちにできること～自然体験から学ぶこと～」

講師：会津大学短期大学部
准教授 鈴木 秀子 氏

南会津地区 38名

期日 平成28年12月9日(金)

場所 御蔵入交流館

内容 実践発表

「私たちにできること～自然体験から学ぶこと～」

講師：家庭教育インストラクター
会津さざなみの会会長
増子 恵二 氏

講演

「子どもの将来は”幼児期の食”で決まる」

講師：Jフードハーモニー

相双地区 30名

期日 平成29年1月30日(月)

場所 原町区福祉会館

内容 講演

「子ども達に魔法の杖を！～自信を育む家庭教育～」

講師：NPO法人明日飛子ども自立の里
理事長 清水 国明 氏

講演

「家庭・地域でみまもる特別支援教育
～『キッズサポートかのかのん』の取組から～」

講師：特定非営利活動法人きぼう
副理事長 新妻 直恵 氏

いわき地区 31名

期日 平成29年1月20日(金)

場所 いわき市生涯学習プラザ

内容 講演

「子どもの貧困を考える」

講師：いわき明細大学
教授 鎌田 真理子 氏

ウ 親育ち応援学習プログラム

作成委員会 平成29年3月8日(水)

杉妻会館「鈴蘭」

※プログラムは県内の新入学児童保護者等に配付

第5節 青少年教育

1 体験活動・ボランティア推進センター事業

(1) 目的

青少年の社会性や思いやりの心など豊かな人間性を育むため、学校内外を通じた体験活動やボランティア活動の機会の充実を図ることを目的に情報提供やコーディネート等を行う推進センターを県に設置し、市町村並びに市町村センターにおける体験活動・ボランティア活動の推進体制を支援する。

(2) 内容

ア 本部センターの設置

(ア) 構成

- ・センター長(社会教育課長)
- ・副センター長(社会教育課主幹)
- ・コーディネーター(社会教育主事兼指導主事)

(イ) 内容

- ・各種研修会に関すること
- ・連絡調整、情報収集、調査研究に関すること
- ・人材登録に関すること
- ・地域センターの統括、指導助言に関すること

イ 地域センターの設置

(ア) 構成

- ・センター長（教育事務所総務社会教育課長）
- ・コーディネーター（社会教育主事、指導主事）

(イ) 内容

- ・公民館及び学校の訪問指導に関すること
- ・連絡調整、情報収集、調査研究に関すること
- ・人材登録に関すること
- ・市町村センターとの連携に関すること

ウ 学校における推進体制の整備

(ア) 体験活動等推進委員会の開催

(イ) 体験活動等推進委員会主任（教頭又は社会教育主事有資格者等）の配置

エ 学習支援ボランティアの登録推進

(ア) 目的

青少年の体験活動の支援にあたるボランティアの登録を促進するとともに、学校内外における青少年の体験活動を支援することにより、地域の教育力の向上に寄与する。

(イ) 対象 ボランティアを推進する県民一般

(ウ) 内容

学習支援ボランティア、読書活動ボランティア、ノートテイクボランティア、外国出身者支援ボランティア、家庭教育支援ボランティア、病院訪問学習支援ボランティアの登録や活動を支援する。

・学習支援ボランティア登録人数	4 2 7 名
・読書活動ボランティア登録人数	2 6 4 名
・ノートテイクボランティア登録人数	2 名
・外国出身者支援ボランティア登録人数	2 5 名
・家庭教育支援ボランティア登録人数	2 0 5 名
・病院訪問学習支援ボランティア登録人数	1 9 名
計	9 4 2 名

2 ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業

(1) 目的

家庭や地域における人と人のかかわりの中で感じた思いや願いを十七音で表現することを通して、子どもの豊かな心を育成するとともに、人と人との絆を深め、家庭や地域の教育力の向上を目指す。

また、全国に避難している方からも作品を募集し「ふくしま」のことを考えるきっかけとする。

(2) 内容

ア 応募期間 平成28年7月1日（金）
～9月16日（金）

イ 応募総数 41,502組

ウ 最終審査会 平成28年12月7日（水）

エ 審査員 和合 亮一（県立本宮高等学校教諭）
佐々木孝司（新地町教育委員会教育長）
室井 君男（福島県公立学校退職校長会副会長）

オ 表彰式 平成29年1月6日（金）

ホテルサンルートプラザ福島

カ 入賞数 絆部門・復興部門 最優秀賞各5組
優秀賞各5組、佳作各10組

(3) 広報・普及活動

ア 募集・応募

県内各幼稚園、保育園、小・中学校、高等学校、特別支援学校、社会教育施設、教育事務所等にチラシ・応募用紙を配布した。また、社会教育課のホームページに掲載した。

イ 事後の広報

優秀作品を社会教育課のホームページに掲載したほか、ラジオ放送での紹介とYoutubeの動画配信にて紹介した。各教育事務所においては、域内の作品集を作成し、事業の普及に努めた。

第6節 成人教育

主に各関係団体の諸活動や研修会における指導助言や人的補助を行う。

第7節 子どもの読書活動推進

1 ふくしまの未来をひらく読書のカプロジェクト

(1) 福島県子どもの読書活動推進会議

【第1回】平成28年7月27日（水）

福島県庁本庁舎101会議室

【第2回】平成29年2月16日（木）

福島県自治会館1階101会議室

ア 目的

第三次「福島県子ども読書活動推進計画」に沿って、読書活動推進に向けた取組等について協議・評価を行う。

イ 子ども読書推進会議委員

氏名	職業等	区分
高野 保夫	国立大学法人福島大学名誉教授	学識経験者
田中 清美	福島県高等学校PTA連合会 会長	社会教育関係者
遠藤 俊彦	郡山市立富田小学校 長	学校図書館関係者
坂内香代子	会津若松市立会津図書館 長	公立図書館等関係者
矢吹 貴美	家庭教育インストラクター	家庭教育関係者
齋藤千江子	児童図書研究グループ「トトロ」	読書活動に係るボランティア団体関係者

(2) 読書活動支援者育成事業

- 【県北地区】 平成28年6月16日(木)
国見町観月台文化センター 受講者42名
平成28年6月23日(木)
福島市松川学習センター 受講者43名
平成28年6月30日(木)
あだたらふるさとホール 受講者31名
平成28年9月15日(木)
福島県立図書館 受講者99名
- 【県中地区】 平成28年6月17日(金)
郡山市労働福祉会館 受講者64名
平成28年9月16日(金)
郡山市労働福祉会館 受講者68名
- 【県南地区】 平成28年7月21日(木)
棚倉町立図書館 受講者69名
平成28年10月18日(火)
白河市立図書館 受講者44名
- 【会津地区】 平成28年9月8日(木)
会津大学 受講者78名
平成28年10月4日(火)
会津大学 受講者73名
- 【南会津地区】 平成28年6月15日(水)
只見町朝日振興センター 受講者43名
平成28年10月25日(火)
南会津町御蔵入交流館 受講者52名
- 【相双地区】 平成28年9月14日(水)
広野町公民館 受講者23名
平成28年10月17日(月)
南相馬市民文化会館「ゆめはっと」
受講者36名
- 【いわき地区】 平成28年10月26日(水)
いわき市生涯学習プラザ 受講者32名
平成28年11月4日(金)
いわき市文化センター 受講者23名

(3) 子どもの読書活動推進ネットワークフォーラム

期 日：平成28年9月24日(土)
場 所：ビッグパレットふくしま 142名
内 容
シンポジウム：「生涯にわたる読書習慣の形成について」
福島大学人間発達文化学類 教授 白石 昌子
国見町教育委員会教育長 岡崎 忠昭
会津若松市立会津図書館長 坂内香代子
元高等学校司書 長崎キヨ子
ビブリオバトル紹介
会津学鳳高等学校 2年 鈴木 祐亮
葵高等学校 3年 板橋 千夏
講演：「乳幼児期における読書活動の推進について」
絵本作家 山本 省三
ポスターセッション：「乳幼児期における読書活動推進
事業委託市町村による発表」

二本松市・田村市・西郷村・矢祭町・西会津町
金山町・猪苗代町

(4) 情報発信プロジェクト「ビブリオバトル福島県大会」

期 日：平成28年11月12日(土)
場 所：福島県立図書館
参加者：発表者15名 観戦者120名
優勝 福島県立安達東高等学校 菅野 望
「怪物はささやく」パトリック・ネス(あすなろ書房)
準優勝 福島県立葵高等学校 一ノ瀬彩香
「黒笑小説」東野圭吾(集英社)
第3位 福島県立福島工業高等学校 佐藤 裕太
「はしれディーゼルきかんしゃデーデ」
すとうあさえ 鈴木まもる(童心社)

(5) 子どもの本がつなぐスマイルプロジェクト

- ア 親子ふれあい読書フェスティバル「絵本はともだち」
期 日：平成28年7月3日(日)
場 所：白河市立図書館 参加者122名
内 容：講演「親子で楽しむおはなしの世界」
幼児教育専門家 藤田 浩子
- イ 親子ふれあい読書フェスティバル「本はともだち」
期 日：平成28年11月19日(土)
場 所：いわき市産業創造館 参加者35名
内 容：講演「おはなしや本の世界を楽しもう」
千葉県浦安市企画部 主査 伊藤 明美

(6) 乳幼児期における読書活動推進事業

県内7市町村に委託：二本松市
田村市
西郷村
矢祭町
西会津町
金山町
猪苗代町
「絵本はじめまして事業」「みんなの絵本事業」

第8節 ユネスコ活動

1 ユネスコ協会事務局一覧

協会名	会長名	事務局	事務局長	設立年月日
須賀川地方ユネスコ協会	岩田悦次郎	須賀川市教委文化・スポーツ課内 須賀川市牛袋町5	河村 朝子	S46.9.13
いわきユネスコ協会	松本 恒雄	いわき市教委生涯学習課内 いわき市堂根町4-8	佐久間静子	S51.10.23
郡山ユネスコ協会	過足 満雄	学校法人尚志学園高等学校内	宗像 金三	S53.1.24

		郡山市大槻町字担ノ腰2		
白河ユネスコ協会	小野 利廣	白河市教委生涯学習スポーツ課内 白河市八幡小路7-1	根本 克己	S53.11.19
福島ユネスコ協会	河田 亨	福島市中央学習センター内 福島市松木町1-7	阿部 隆	S55.7.19
会津ユネスコ協会	吉田 幸代	会津若松市教委生涯学習センター内 会津若松市栄町3-50	石田 明夫	S55.11.16
川俣ユネスコ協会	佐藤 好弘	川俣町教育委員会内 伊達郡川俣町字樋ノ口11	遠藤貴美子	H16.11.26
郡山次世代ユネスコ協会	大本 研二	学校法人こおりやま東都学園本部気付 郡山市図景2-9-3	遠藤 典雄	H28.1.16
福島県ユネスコ連絡協議会	河田 亨	福島市笹木野字中西表60-6 近野元洋宅	近野 元洋	S56.12.5

2千円を乗じた額を上限

(2) 幼稚園・保育所自然体験活動等支援事業

- ・対象者：県内の幼稚園・保育所・認定こども園（認可外保育施設も含む）、特別支援学校幼稚部の幼児及び引率者等
- ・対象期間：4月から3月末まで
- ・実施内容：幼稚園・保育所・認定こども園や特別支援学校幼稚部が、年間計画等に位置付けられている園行事などをよりよい環境（県内外）のもとで行う日帰り及び宿泊を伴う体験活動に宿泊費と活動費・交通費を補助する。
- ・補助基準：①宿泊費 一人当たり1泊5千円上限 13泊まで
②活動費・交通費 活動日数に一人当たり2千円を乗じた額を上限

(3) 社会教育団体自然体験活動支援事業

- ・対象者：県内の社会教育団体（子ども会、スポーツ少年団、PTA等）
- ・対象期間：7月から8月末、12月から1月末
- ・実施内容：社会教育団体（子ども会、スポーツ少年団、PTA等）が、よりよい環境（県内外）のもとで行う長期宿泊（6泊～）を伴う体験活動に宿泊費と活動費・交通費を補助する。
- ・補助基準：①宿泊費 一人当たり1泊5千円上限 13泊まで
②活動費・交通費 活動日数に一人当たり2千円を乗じた額を上限

(4) ふくしまっ子体験活動応援補助事業

- ・対象者：県内の社会教育団体等（子ども会、スポーツ少年団、PTA、公民館、ファミリーグループ等）
- ・対象期間：7月から8月末、12月から1月末
- ・実施内容：市町村や社会教育関係団体等が、よりよい環境（県内）のもとで体験活動や交流活動を実施する場合、宿泊費と交通費・体験活動費を補助する。
- ・補助基準：①宿泊費 一人当たり1泊5千円上限 5泊まで（食費を含む）
②交通費・体験活動費 一人当たり1回2千円上限

(5) ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業

- ・対象者：県内の幼児、小・中学生とその家族（乳児含む）
- ・実施回数：夏期間各1回、冬期間各1回
- ・場所：郡山自然の家、会津自然の家、いわき海浜自然の家
- ・内容：自然体験活動の日帰り開放プラン 計6回 交通費のみ参加者負担

2 福島県ユネスコ活動研修会

平成28年11月18日（金）福島市松川学習センター
参加者数 46名

第9節 ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業

1 内容

(1) 小・中学校自然体験・交流活動等支援事業

- ・対象者：県内の小・中学校、特別支援学校小学部・中学部の児童生徒及び引率者等
- ・対象期間：4月から3月末まで
- ・実施内容：小・中学校や特別支援学校小学部・中学部が、教育課程等に位置付けられている各教科、特別活動などをよりよい環境（県内外）のもとで行う宿泊を伴う体験活動に宿泊費と活動費・交通費を補助する。
- ・補助基準：①宿泊費 一人当たり1泊5千円上限 13泊まで
②活動費・交通費 活動日数に一人当たり

第10節 子どもがふみだす ふくしま 復興体験応援事業

1 内容

- ・事業1 避難者や被災者と交流して子どもたちが元気を発信する
- ・事業2 風評被害などを経験した地域との交流を行い、地域の復興を考え他県等へ復興をアピールする
- ・事業3 自分たちの専門性を生かして何ができるかを考え、実践することでふくしまを発信する

2 採択状況

- ・応募団体 42団体
- ・採択団体 38団体
- ・補助金額 57,351千円

第11節 公民館等社会教育施設

1 公民館を除く主な社会教育施設

※震災により休館中の施設を含む

(1) 図書館の設置状況

名 称	所在地・電話番号	設置者
県立 福島県立図書館	福島市森合字西養山1 024-535-3220	福島県
市 町 福島市立図書館	福島市松木町1-1 024-531-6551	福島市

名 称	所在地・電話番号	設置者
市 町 村 立 福島市西ロライ ブラリー	福島市三河南町1-20 024-525-4023	福島市
福島市子どもラ イブラリー	福島市早稲町1-1（こむ こむ内） 024-526-4200	福島市
伊達市 教育部 市立図書館	伊達市箱崎字川端7 024-551-2132	伊達市
二本松市立二本 松図書館	二本松市本町1丁目102 番地 0243-23-5082	二本松市
二本松市立岩代 図書館	二本松市小浜字藤町242 番地 0243-55-3255	二本松市
しらさわ夢図書 館	本宮市白岩字堤崎500 0243-44-2112	本宮市
郡山市中央図書 館	郡山市麓山一丁目5-25 024-923-6601	郡山市
郡山市中央図書 館 田村分館	郡山市田村町岩作字穂多礼 40-3 024-955-3842	郡山市
郡山市中央図書 館 喜久田分館	郡山市喜久田堀之内字下河 原1	郡山市

	024-959-2205	
郡山市中央図書 館 緑ヶ丘分館	郡山市緑ヶ丘東三丁目1- 21 024-944-0001	郡山市
郡山市中央図書 館 日和田分館	郡山市日和田町字小堰23 -4 024-958-2352	郡山市
郡山市中央図書 館 三穂田分館	郡山市三穂田町字東屋敷6 024-953-2820	郡山市
郡山市中央図書 館 中田分館	郡山市中田町下枝字大平3 85 024-973-2951	郡山市
郡山市中央図書 館 西田分館	郡山市西田町三丁目桜内2 59 024-972-2807	郡山市
郡山市中央図書 館 大槻分館	郡山市大槻町字中前田56 024-951-1512	郡山市
郡山市希望ヶ丘 図書館	郡山市希望ヶ丘1-5 024-961-1600	郡山市
郡山市安積図書 館	郡山市安積一丁目38 024-946-8850	郡山市
郡山市富久山図 書館	郡山市富久山町福原字泉崎 181-1 024-921-0030	郡山市
須賀川市図書 館	須賀川市八幡町134 0248-75-3309	須賀川市

名 称	所在地・電話番号	設置者
市 町 村 立 須賀川市長沼図 書館	須賀川市長沼字金町85 0248-67-2138	須賀川市
須賀川市岩瀬図 書館	須賀川市柱田字中地前22 番地 0248-65-3549	須賀川市
鏡石町図書 館	鏡石町旭町440-6 0248-62-1288	鏡石町
古殿町図書 館	古殿町松川字横川235 0247-53-2305	古殿町
三春町町民図書 館	三春町字大町12-1 0247-62-3375	三春町
小野町ふるさと 文化の館・図書 館	小野町大字小野新町字中通2 0247-72-2120	小野町
田村市図書 館	田村市船引町船引字扇田19 0247-82-1001	田村市
田村市図書館滝 根分館	田村市滝根町神俣字町48 -1 0247-78-2001	田村市
田村市図書館大 越分館	田村市大越町上大越字元池 87-5 0247-79-2161	田村市
田村市図書館常	田村市常葉町常葉字町裏1	田村市

葉分館	0247-77-2013	
田村市図書館都路分館	田村市都路町古道字本町3 3-4 0247-75-2063	田村市
白河市立図書館	白河市道場小路96-5 0248-23-3250	白河市
白河市立図書館表郷分館	白河市表郷金山字長者久保2 0248-32-4784	白河市
白河市東図書館	白河市東釜子字狐内47 0248-34-1130	白河市
白河市大信図書館	白河市大信町屋字沢田25 0248-46-3614	白河市
矢吹町図書館	矢吹町小松481 0248-44-3595	矢吹町
泉崎図書館	泉崎村大字泉崎字館24-9 0248-53-4779	泉崎村
棚倉町立図書館	棚倉町大字棚倉字棚倉字森 町21-1 0247-33-4342	棚倉町
塙町立図書館	塙町大字塙字栄町68-6 0247-43-0808	塙町
矢祭もったいな い図書館	矢祭町大字東館字石田25 0247-46-4646	矢祭町
鮫川村図書館	鮫川村大字赤坂中野字巡ヶ 作128 0247-49-3151	鮫川村

(休館中)	0244-44-3049	
浪江町図書館 (休館中)	浪江町権現堂字矢沢町6-1 0240-34-5024	浪江町
双葉町図書館 (休館中)	双葉町大字長塚字鬼木1 0240-33-4214	双葉町
大熊町図書館 (休館中)	大熊町大字下野上字大野 669-3 0240-32-3011	大熊町
富岡町図書館 (休館中)	富岡町大字本岡字王塚 622-1 0240-21-3665	富岡町
いわき市立総合 図書館	いわき市平字田町120 0246-22-5552	いわき市
いわき市立内郷 図書館	いわき市内郷綴町榎下40-1 0246-45-1030	いわき市
いわき市立小名 浜図書館	いわき市小名浜字愛宕上7-2 0246-54-9257	いわき市
いわき市立常磐 図書館	いわき市常磐関船町作田1 0246-44-6218	いわき市
いわき市立勿来 図書館	いわき市植田町南町1丁目 2-2 0246-62-7431	いわき市
いわき市立四倉 図書館	いわき市四倉町字東一丁目 50 0246-32-5980	いわき市

名称	所在地・電話番号	設置者
市町 村立	会津若松市立会津図書館 0242-22-4711	会津若松市
	猪苗代町図書館歴史情報館 猪苗代町字古城町132-7	猪苗代町
	喜多方市立図書館 喜多方市字柳原7503-1 0241-22-1855	喜多方市
	南会津町図書館 南会津町田島字宮本東22 0241-62-5522	南会津町
	相馬市図書館 相馬市中村字塚ノ町65-16 0244-37-2630	相馬市
	新地町図書館 新地町谷地小屋字樋掛田 40-1 0244-62-5031	新地町
	南相馬市立中央図書館 南相馬市原町区朝日町二丁目7-1 0244-23-7789	南相馬市
	南相馬市立鹿島図書館 南相馬市鹿島区寺内字迎田 22-1 0244-46-5116	南相馬市
	南相馬市立小高図書館 南相馬市小高区本町二丁目 89-1	南相馬市

名称	所在地・電話番号	設置者
法人	クローバー子供図書館 郡山市開成6丁目346-1 024-932-2118	(財)金森和心会

(2) 博物館の設置状況

ア 登録博物館及び相当施設

名称	所在地・電話番号	設置者 種別 登録・指定年月日
登録博物館	福島県立美術館 福島市森合字西養山1 024-531-5511	福島県 美術博物館 59.7.16
	福島県立博物館 会津若松市城東町 1-25号 0242-28-6000	福島県 総合博物館 61.11.28
	須賀川市立博物館 須賀川市池上町6 0248-75-3239	須賀川市 歴史博物館 46.7.10
	いわき市立美術館 いわき市平字堂根町4-4 0246-25-1111	いわき市 美術博物館 59.9.3
	郡山市立美術館 郡山市安原町字大谷地 130-2 024-956-2200	郡山市 美術博物館 平5.1.20
	南相馬市博物館 南相馬市原町区牛来字出 口194	南相馬市 総合博物館

	0244-23-6421	平8. 5. 9
野口英世記念館	猪苗代町大字三ツ和字前田81 0242-85-7867	(公財)野口英世記念会 歴史博物館 29. 10. 21
会津民俗館	猪苗代町大字三ツ和字前田33-1 0242-65-2600	会津民俗館 歴史博物館 55. 10. 3
白虎隊記念館	会津若松市一箕町大字八幡字弁天下33 0242-24-9170	(一財)白虎隊記念館 歴史博物館 63. 6. 30
奥会津博物館	南会津町糸沢字西沢山3692-20 0241-66-3077	南会津町 歴史博物館 平21. 6. 16
諸橋近代美術館	北塩原村大字桧原字剣ヶ峰1093-23 0241-37-1088	(公財)諸橋近代美術館 美術博物館 平11. 8. 17
藤田記念博物館(休館中)	白河市五郎窪37-1 0248-24-1780	(公財)藤田教育振興会 美術博物館 54. 9. 1
CCGA 現代グラフィックアートセンター	須賀川市塩田宮田1 0248-79-4811	(公財)DNP 文化振興財団 平25. 12. 25
博物館相当施設	やないづ町立齋藤清美術館 龍が城美術館(休館中)	柳津町 美術博物館 平11. 9. 28
	柳津町柳津字下平乙187 0241-42-3630	(一財)白龍会 美術博物館 30. 2. 10
	いわき市平字旧城跡27-1 0246-22-1601	(株)会津武家屋敷歴史博物館 56. 11. 25
	会津武家屋敷会津歴史資料館 0242-28-2525	

名称	所在地・電話番号	設置者 種別 登録・指定年月日
博物館相当施設	安積歴史博物館 郡山市開成5-25-63 024-938-0778	(公財)安積歴史博物館 歴史博物館 59. 9. 8
	磐梯山噴火記念館 北塩原村桧原字剣ヶ峰1093-36 0241-32-2888	(株)ゴールドハウス目黒 科学博物館 平5. 7. 1
	會津藩校日新館 会津若松市河東町南高野字高塚山10番地 0242-75-2525	(株)会津武家屋敷 歴史博物館 平12. 11. 28
	はじまりの美術館 猪苗代町新町4873 0242-62-3454	(社福)安積愛育園 歴史博物館 平28. 12. 6

イ 類似施設

名称	所在地・電話番号	設置者
ふくしま海洋科学館	いわき市小名浜字辰巳町50 0246-73-2525	福島県
福島県文化財センター白河館	白河市白坂一里段86 0248-21-0700	福島県
福島県歴史資料館	福島市春日町5-54 024-534-9195	福島県
ふれあい歴史館(福島市資料展示室)	福島市上町39-1 024-563-7855	福島市

福島市民家園	福島市上名倉字大石前地内 024-593-5249	福島市
福島市古関裕而記念館	福島市入江町1-1 024-531-3012	福島市
福島市写真美術館	福島市森合町11-36 024-523-1202	福島市
UFOふれあい館	福島市飯野町大字青木字小手神森1-299 024-562-2002	福島市
民俗資料展示室	福島市飯野町大字明治字北小戸明利60 024-525-3785	福島市
羽山の森美術館	伊達郡川俣町大字西福沢字山橋内20 024-566-3367	川俣町
伊達市梁川美術館	伊達市梁川町字中町10 024-527-2656	伊達市
伊達市保原歴史文化資料館	伊達市保原町大泉字宮脇265 024-575-1615	伊達市
霊山子どもの村遊びと学びのミュージアム	伊達市霊山町石田字宝司沢9-1 024-589-2211	伊達市
二本松市歴史資料館	二本松市本町1-102 0243-23-3910	二本松市
二本松市智恵子記念館	二本松市油井字漆原町36 0243-22-6151	二本松市
二本松市大山忠作美術館	二本松市本町2-3-1 0243-24-1217	二本松市
あだたらふるさとホール	大玉村玉井字西庵183 0243-48-2569	大玉村
本宮市歴史民俗資料館	本宮市字南町裡130 0243-33-2546	本宮市
本宮市白沢ふれあい文化ホール	本宮市白岩字堤崎494-44 0243-44-3185	本宮市
郡山市開成館	郡山市開成3-3-7 024-923-2157	郡山市
郡山市歴史資料館	郡山市麓山1-8-3 024-932-5306	郡山市
郡山市こおりやま文学の森資料館	郡山市豊田町3-5 024-991-7610	郡山市
郡山市ふれあい科学館	郡山市駅前2-11-1ビッグアイ20F~24F 024-936-0201	郡山市
須賀川市歴史民俗資料館	須賀川市長沼字門口186 0248-67-2030	須賀川市
古殿町郷土文化保存伝習施設	古殿町大字松川字横川235 0247-53-2305	古殿町
天栄村ふるさと文化伝承館	天栄村大字大里字八石1-2 0248-81-1030	天栄村
石川町歴史民俗資料館	石川町字高田200-2 0247-26-3768	石川町
浅川町歴史民俗資料館	浅川町大字浅川字背戸谷地144-6 0247-36-2134	浅川町
吉田富三記念館	浅川町大字袖山字森下287 0247-36-4129	財団法人
三春町歴史民俗資料館	三春町字桜谷5 0247-62-5263	三春町

三春郷土人形館	三春町字大町30 0247-62-7053	三春町	南郷館	0241-73-2829	
小野町ふるさと文化の館・郷土資料館	小野町大字小野新町字中通2 0247-72-2120	小野町	奥会津民族館	南会津町松戸原55	南会津町
田村市歴史民俗資料館	田村市船引町船引字四城内前196番地	田村市	館岩館	0241-78-2110	
白河市歴史民俗資料館	白河市中田7-1 0248-27-2310	白河市	奥会津民族館伊南館	南会津町青柳字久川24	南会津町
白河集古苑	白河市郭内1-73 0248-24-5050	白河市	檜枝岐村歴史民俗資料館	檜枝岐村字下ノ原887-2 0241-75-2342	檜枝岐村
中山義秀記念文学館	白河市大信町屋字沢田25 0248-46-3614	白河市	会津只見考古館	只見町大字大倉字窪田33 0241-86-2175	只見町
白河大信ふるさと文化伝承館	白河市大信町屋字沢田25 0248-46-3614	白河市	只見町ブナセンター	只見町字町下2590 0241-72-8355	只見町
泉崎資料館	泉崎村大字泉崎字館24-9 0248-54-1533	泉崎村	河井継之助記念館	只見町大字塩沢字上ノ台850-5 0241-82-2870	只見町
あぶくま高原美術館	塙町大字那倉字吉元86-1 0247-42-2510	塙町	相馬市歴史民俗資料館	相馬市中村字大手先13 0244-37-2191	相馬市
矢祭町歴史民俗資料館	矢祭町大字東館字石田25	矢祭町	鹿島歴史民俗資料館(廃止)	南相馬市鹿島区西町3-1 0244-46-4281	南相馬市
国指定名勝会津松平氏庭園	会津若松市花春町8-1 0242-27-2472	会津若松市	埴谷島尾記念文学資料館(休館中)	南相馬市小高区本町2-89-1 0244-44-3049	南相馬市
若松城天守閣	会津若松市追手町1-1 0242-27-4005	会津若松市	葛尾村郷土文化保存伝習館	葛尾村落合字落合11 0240-29-2008	葛尾村
茶室麟閣	会津若松市追手町1-1 0242-27-4005	会津若松市	双葉町歴史民俗資料館(休館中)	双葉町大字新山字本町27-1 0240-33-4763	双葉町
会津町方伝承館	会津若松市大町2-8-8 0242-22-8686	会津若松市	大熊町民俗伝承館(休館中)	大熊町大字下野上字大野669-3 0240-32-3011	大熊町
アクアマリンいなわしろカワセミ水族館	猪苗代町大字長田字東中丸344-4 0242-65-2481	猪苗代町	富岡町歴史民俗資料館(休館中)	富岡町大字本岡字王塚622-1 0240-22-2626	富岡町
喜多方市郷土民俗館	喜多方市柳原7503-1 0241-24-3821	喜多方市	檜葉町歴史資料館(休館中)	檜葉町大字北田字鐘突堂5-4 0240-25-2492	檜葉町
喜多方蔵の里	喜多方市市押切2丁目109 0241-22-6592	喜多方市	いわき市石炭・化石館	いわき市常磐湯本町向田3-1 0246-42-3155	いわき市
喜多方市美術館	喜多方市押切2丁目2 0241-23-0404	喜多方市	いわき市勿来関文学歴史館	いわき市勿来町関田長沢6-1 0246-65-6166	財団法人
喜多方市カイギュウランドたかさと	喜多方市高郷町西羽賀字和尚堂3163 0241-44-2924	喜多方市	いわき市アンモナイトセンター	いわき市大久町大久字鶴房147-2 0246-82-4561	いわき市
喜多方市高郷郷土資料館	喜多方市高郷町上郷字天神後戊417 0241-44-2765	喜多方市	いわき市考古資料館	いわき市常磐湯本町手這50-1 0246-43-0391	いわき市
会津坂下町五浪美術記念館	会津坂下町字台ノ下842 0242-84-1233	会津坂下町	いわき市立草野心平記念文学館	いわき市小川町高萩字下夕道1-39 0246-83-0005	いわき市
ほっとinやないづ縄文館	柳津町大字柳津字下平乙151-1 0241-41-1077	柳津町	いわき市草野心平生家	いわき市小川町上小川字植ノ内6-1 0246-83-0005	いわき市
会津美里町民俗資料館	会津美里町米田字堂ノ後甲149 0242-54-2368	会津美里町	いわき市暮らしの伝承郷	いわき市鹿島町下矢田字散野14-16 0246-29-2230	いわき市
三島町交流センター山びこ	三島町名入字諏訪ノ上418 0241-52-2165	三島町	原郷のこけし群西田記念館	福島市荒井字横塚3-183 024-593-0639	財団法人
からむし工芸博物館	昭和村大字佐倉字上ノ原1 0241-58-1677	昭和村	種徳美術館	桑折町字陣屋12 024-582-5507	桑折町
旧南会津郡役所	南会津町田島字丸山甲4681 0241-62-3848	南会津町	東北サファリパーク	二本松市沢松倉1 0243-24-2336	株式会社
久川城資料館	南会津町青柳字久川23 0241-76-2191	南会津町	デコ屋敷資料館	郡山市西田町高柴字福内41 024-971-3900	私人
奥会津民俗館	南会津町界字川久保552	南会津町	ふくしまの森科学体験センター	須賀川市虹の台100 0248-89-1120	財団法人

(有)大桑原つつじ園	須賀川市大桑原字竹ノ花13 0248-76-5857	有限会社
(株)エイトファーム三春ハーブガーデン	三春町大字齊藤字仁井道126 024-942-1138	株式会社
リカちゃんキヤッスル	小野町小野新町中通51-3 0247-72-6364	株式会社
白河フラワーワールド	白河市南湖59 0248-23-2100	私人
南湖神社宝物館	白河市字菅生館2 0248-23-3015	私人
木の博物館	塙町大字伊香字松原160-13 0247-43-1480	有限会社
會津宮泉酒造(旧會津酒造歴史館)	會津若松市東栄町8-7 0242-26-0031	株式会社
會津葵シルクロード文明館	會津若松市追手町4-6 0242-27-1001	株式会社
(社)福島県伝統産業会館	會津若松市大町1-7-3 0242-24-5757	社団法人
大和川酒造北方風土館	喜多方市寺町4761 0241-22-2233	私人
喜多方蔵品美術館	喜多方市梅竹7294-4 0241-24-3576	私人
うるし美術博物館	喜多方市字東町4095 0241-24-4151	株式会社
御蔵入細井家資料館	南會津町静川字風下甲175 0241-62-0906	私人
福島さくら遊学舎	三春町大字鷹巣字瀬山213 0247-61-6345	株式会社

(3) 青少年教育関係施設の設置状況

種別	施設名	所在地・電話番号	設置者
県設置	福島県郡山自然の家	郡山市逢瀬町多田野字中丸山46 024-957-2111	福島県
	福島県會津自然の家	會津坂下町大字八日沢字西東山 4495-1 0242-83-2480	福島県
	福島県いわき海浜自然の家	いわき市久之浜町田之網字向山53 0246-32-7700	福島県

名称	所在地・電話番号	設置者	
教育施設	国立那須甲子青少年自然の家	西郷村大字真船字村火6-1 0248-36-2331	文部科学省
教育施設	国立磐梯青少年交流の家	猪苗代町字五輪原7136-1 0242-62-2530	文部科学省
	市町村(条例)設置	25施設(別掲)	
	他県設置等	8施設(別掲)	

《市町村(条例)設置25施設》

名称	所在地・電話番号	設置者
福島県青少年会	福島市黒岩字田部屋53-5	公益財団

館	024-546-8311	法人
福島市社会教育会館「こぶし荘」	福島市庭坂字砥石山40-13 024-591-3366	福島市
福島市社会教育会館「立子山自然の家」	福島市立子山字金井作1 024-597-2951	福島市
福島市子どもの夢を育む施設	福島市早稲町1-1 024-524-3131	福島市
霊山子どもの村キャンプ場	伊達市霊山町石田字宝司沢9-1 024-589-2211	伊達市
二本松市青年の家	二本松市榎戸1-92 0243-23-5121	二本松市
二本松市二本松勤労青少年ホーム	二本松市榎戸1-92 0243-23-5121	二本松市
二本松市安達勤労青少年ホーム	二本松市油井字瀧石3-1 0243-23-3721	二本松市
本宮市勤労青少年ホーム	本宮市字矢来39-1 0243-33-2611	本宮市
郡山市青少年会館	郡山市大槻町字漆棒82 024-961-8282	郡山市
郡山市少年湖畔の村	郡山市湖南町横沢字村西112 024-982-2115	郡山市
郡山勤労青少年ホーム	郡山市麓山1丁目8-4 024-932-3027	郡山市
須賀川市市民の森	須賀川市塩田音森20	須賀川市
須賀川市勤労青少年ホーム	須賀川市和田字柏崎44 0248-63-2154	須賀川市
小野町勤労青少年ホーム	小野町大字小野新町字中道2 0247-72-2125	小野町
石川町勤労青少年ホーム	石川郡石川町字当町418番地の1	石川町
矢祭山友情の森	矢祭町山下字下河原1-1 0247-46-2162	矢祭町
會津若松市勤労青少年ホーム	會津若松市城東町14-52 0242-26-6662	會津若松市
會津若松市少年の家	會津若松市城東町15-62	會津若松市
喜多方市勤労青少年ホーム	喜多方市舞台田3119-1 0241-22-1403	喜多方市
喜多方市勤労青少年体育センター	喜多方市舞台田3119-1 0241-22-1403	喜多方市
びわ沢原森林公園	猪苗代町字琵琶沢原7095 0242-62-3291	猪苗代町
LVMH子どもアート・メゾン	相馬市中村2丁目2-15 0244-26-7415	相馬市
新地町勤労青少年ホーム	新地町大字福田字中里15-1 0244-62-3106	新地町
富岡町合宿センター(休館中)	富岡町小浜343 0240-22-7000	富岡町

参考 ※ いわき市生涯学習プラザ

いわき市平字一丁目1番地ティーンビル
4・5階

※ 財団法人福島県産業振興センター産業交流館
(ビッグパレットふくしま)

郡山市安積町日出山字北千保19-8

《他県設置等8施設》

名称	所在地・電話番号	設置者
小野田自然塾	塙町大字片貝字長久木363 0247-42-2311	財団法人

越谷市立あだたら高原少年自然の家	二本松市永田字長坂国有林14林班 0243-24-2561	越谷市
羽生市立あだたら高原少年自然の家	二本松市永田字長坂国有林14林班 0243-24-2859	羽生市
葛飾区立あだたら高原少年自然の家	二本松市永田字長坂国有林14林班 0243-24-2206	葛飾区
中野区常葉少年自然の家	田村市常葉町山根字鰯5-29 0247-77-2098	中野区
朝霞私立猪苗代湖自然の家	会津若松市湊町赤井戸の口53 0242-94-2434	朝霞市
さいたま市立館岩少年自然の家	南会津町宮里字向山2847-1 0241-78-2311	さいたま市
S Y Dばんだいふれあいぴあ	北塩原村桧原字南黄連沢山 1157-192 0241-33-2335	財団法人

2 文化施設の整備充実

(1) 県立美術館の整備充実

移動展等を開催するとともに、美術作品の収集と作品・作家等に関する調査研究を計画的に推進したほか、教育普及活動に努め、本県美術振興の中心的施設として機能の充実に努めた。

(2) 県立博物館の整備充実

展示資料の収集・整備に努め、調査研究を計画的に推進し、常設展・企画展等の充実を図るとともに教育普及のための各種事業を行い、県内博物館の中心的施設として機能の充実に努めた。

(3) 県文化財センター白河館（まほろん）

文化財の収蔵と被災した地域の文化財等の公開・活用及び埋蔵文化財担当職員等の研修を図り、文化財に親しみ、文化財への理解を深める施設として機能の充実に努めた。

第12節 福島県立図書館

1 概要

福島県立図書館は、平成17年10月に策定した『福島県立図書館「学びの環境づくり」』に基づき、県民の生涯にわたる多様な学習活動に応えるため、資料及び情報の計画的な収集を図るとともに市町村立図書館等との連携のもとに効果的な図書館活動の展開に努め、県民文化の向上に寄与することを目的とした事業を行っている。

さらに、平成25年度に策定した『福島県立図書館アクションプラン（第2次）』（平成25年度～29年度）の4つの方針・9つの行動に基づき読書環境、学習環境の整備やサービスの充実に努めた。

また、平成27年2月に策定された「第三次福島県子ども読書活動推進計画」（平成27年度～31年度）に基づき、計画実現のための事業推進にも取り組んでいる。

平成27年度から整備を進めてきた、福島市出身の詩人、故長田弘氏蔵書の寄贈資料について、平成28年度に「長田弘文庫」として開設をした。また、新たに立ち上げた寄贈制度により「県民のくらし応援文庫」を開設し、3企業（団体）から582冊（140万円相当）の寄贈を受けた。

『福島県立図書館アクションプラン（第2次）』

4つの方針・9つの行動

I 東日本大震災等により失われた読書環境、学習環境を取り戻します。

- 1 東日本大震災等の記録をのこします。
- 2 支援体制の基盤を整備します。
- 3 読書環境、学習環境の整備を通じて「ふるさと再生」を支援します。

II 県民一人ひとりのお役に立てるよう図書館環境を整えます。

- 1 県民が必要とする情報を提供します。
- 2 県民が利用しやすい環境を整備します。
- 3 県民と共に歩む図書館を目指します。

III 福島県の子どもの読書活動を推進します。

- 1 「第二次福島県子ども読書活動推進計画」に基づき、県立図書館の役割を果たします。※現「第三次」

IV 「図書館の図書館」として、図書館の振興を図ります。

- 1 図書館・公民館の活動を支援します。
- 2 高等教育機関、文化施設等関係機関との連携を図ります。

(1) 図書館協議会

ア 図書館協議会委員名

区分	氏名	所属団体等（主な役職名等）
学識経験者	千葉 養伍	福島大学人間発達文化学類（教授）
	土田 節子	いわき明星大学教養学部地域教養学科（非常勤講師）
	鎌田 喜之	株式会社福島民報社（編集局次長・地域交流室次長・販売局次長）
	加藤 卓哉	福島民友新聞社株式会社（取締役 論説委員長）
	山崎 由美	公募
	横山 秀人	公募
家庭教育	矢吹 貴美	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会
社会教育	渡辺 峯子	福島県公共図書館協会（元 須賀川市岩瀬図書館長）
学校教育関係	杉内 聡恵	福島県高等学校長協会（福島県立本宮高等学校長）
	田代 新一	福島県中学校長会（喜多方市立喜多方第二中学校長）

〔任期：平成27年10月21日～平成29年10月20日〕

※所属団体等はH29.4.1現在

（会長）千葉 養伍 （副会長）土田 節子

イ 会議

開催日 8月26日 於：県立図書館

議題等

- ・平成28年度図書館利用実績について（7月末現在）
- ・「福島県立図書館アクションプラン（第2次）」の取組状況について

2 資料の収集・整理

「福島県立図書館資料収集基本要綱」及び「福島県立図書館アクションプラン（第2次）」を踏まえ、県民からの資料要求に対応するために、各分野の基本資料を収集し迅速な整理に努めた。また、平成24年度に開設した「東日本大震災福島県復興ライブラリー」の整備充実に継続して行った。

(1) 図書館資料の収集

ア 一般資料の収集

新刊・既刊を問わず、資料的価値や利用的価値の高い資料の収集を行った。官公庁刊行物は主要なものを収集、年鑑白書や叢書等の継続資料については厳選し計画的な収集に努めた。文学作品は、受賞作品・候補作品や書評等で評価の高い作品を収集した。重点収集として、東日本大震災に関する資料をはじめ、調査相談に対応するために必要な各種参考図書、大活字本等のユニバーサルデザインに対応した資料の収集・整理に努めた。

イ 地域資料の収集

福島県に関する資料の収集に努め、福島県人著作の収集は話題性等を考慮し購入した。非売品等の資料については出版した個人・団体・機関等へ寄贈を依頼し収集に努めた。購入冊数919冊に対して寄贈を受けた冊数は5,000冊を越えた。

行政資料についても各自治体・部局へ収集の依頼を行い、県職員へは全員へメールで要請を行うなど積極的な収集に努めた。収集した資料は当館HPの「県立図書館所蔵 県内行政機関発行資料一覧」を更新し情報提供を行った。

震災関連資料及び東京電力福島第一原子力発電所事故に関する資料に関しては、HP上やチラシ等で寄贈のお願いを掲載し、約1,000冊を収集、地域資料の約16%に及んだ。重点収集とした歴史の変遷を辿る地形図は県下を網羅できず継続購入とした。

ウ 地域視聴覚資料の収集

震災関連資料及び合唱・吹奏楽関係の資料を主に96点を収集した。地元新聞のCD-ROMなど保存価値の高いものは継続的に収集し提供している。

エ 児童資料・研究資料の収集

(ア) 児童資料

市町村のモデルとして運営している「こどものへや」用児童資料として、子どもの読書活動推進に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

重点収集として、ユニバーサルデザインや多文化に対応した資料の収集に努めた。また、中学生・高校生向け資料にいても収集した。

(イ) 研究資料

「児童図書研究室」用研究資料として、児童図書に関する調査研究及び子どもの読書活動支援に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

また、読み聞かせ活動支援のための大型絵本や研究用児童資料としての主要な児童図書賞受賞作品も収集した。

重点収集として、子どもの読書や読書環境に関する資料の収集に努めた。

オ 逐次刊行物の収集と整備

雑誌は、資料価値を重視し、専門的な調査相談や相互貸借に対応できる資料を幅広く継続収集した。要望していた『福島民友新聞』過去紙面マイクロフィルム(昭和50-55年)101本を購入し、提供できるようになった。

新聞、雑誌の震災・原発事故関連記事についても収集に努めた。

カ 市町村支援用資料の収集

図書館未設置の自治体や、県立図書館の利用環境が十分ではない過疎・中山間地域、また、東日本大震災に伴う被災地地域の読書活動に役立たせるため、新刊書の中

心に、話題性の高い文芸書や生活に密着した情報が掲載された実用書・時事関係資料等を収集した。

逐次刊行物受入状況

(単位：種)

区分	購入	寄贈・他	計
新聞	25	59	84
雑誌	238	816	1,054
官報等	3	0	3
合計	266	875	1,141

資料受入状況

(単位：冊)

区分	購入	寄贈・他	計
一般資料	4,889	10,384	15,273
地域・行政資料	919	5,537	6,456
児童図書	2,145	851	2,996
児童図書研究書	574	365	939
市町村支援資料	1,132	1,284	2,416
合計	9,659	18,421	28,080

資料受入状況・推移

(単位：冊)

平成26年度	平成27年度	平成28年度
22,755	16,422	28,080

キ 特殊文庫の受入

福島県出身の詩人で、文芸評論家や児童文学者としても活躍した長田弘氏の遺族より、平成27年度に寄贈の申し出があった資料8,519冊(著作123冊 和書6,914冊 洋書1,605冊)を「長田弘文庫」として受入れ、平成29年2月より公開した。

開設記念として平成29年2月5日に「長田弘と出会う会」を開催し尾方邦雄氏(みすず書房 編集部)と井上卓弥氏(毎日新聞社 東京学芸部編集委員)による対談、原國雄とその仲間たちによる朗読会、終了後、希望者に書庫の見学会を行った。参加者240名。

また、平成29年3月12日には「長田弘文庫見学会」を開催し、特設展示と文庫資料収蔵の書庫を案内した。参加者8名。

分類（区分）	27年度累計	28年度増加	28年度除籍	利用替え	28年度累計	
一般資料	0 総記	31,984	382	7	0	32,359
	1 哲学	25,512	304	10	0	25,806
	2 歴史	63,529	587	32	-3	64,081
	3 社会科学	103,727	1,735	62	0	105,400
	4 自然科学	35,708	775	38	0	36,445
	5 工学・工業	34,501	734	28	0	35,207
	6 産業	27,708	568	10	-1	28,265
	7 芸術	39,682	577	20	-3	40,236
	8 語学	9,319	113	9	0	9,423
	9 文学	91,375	979	13	-3	92,338
計	463,045	6,754	229	-10	469,560	
地域資料	0 総記	16,867	665	0	0	17,532
	1 哲学	2,612	68	0	0	2,680
	2 歴史	35,758	1,073	3	4	36,832
	3 社会科学	61,799	2,178	6	0	63,971
	4 自然科学	9,198	315	0	0	9,513
	5 工学・工業	13,364	518	0	0	13,882
	6 産業	20,916	472	2	1	21,387
	7 芸術	15,765	545	3	3	16,310
	8 語学	865	29	0	0	894
	9 文学	27,053	593	1	3	27,648
計	204,197	6,456	15	11	210,649	
児童資料	研究資料	35,247	939	45	0	36,141
	児童図書	108,724	2,996	59	-1	111,660
	計	143,971	3,935	104	-1	147,801
逐次刊行物資料	雑誌	154,166	6,160	239	0	160,087
	新聞合本	15,050	184	0	0	15,234
	新聞記事ファイル	3,827	3	0	0	3,830
	計	173,043	6,347	239	0	179,151
特殊文庫	61,753	8,519	0	0	70,272	
館内用計	1,046,009	32,011	587	0	1,077,433	
市町村支援計	61,473	2,416	0	0	63,889	
合計	1,107,482	34,427	587	0	1,141,322	

3 館内奉仕

開館日は285日、入館者は167,650人、1日平均588人の利用があった。震災の影響で平成23年度に大きく落ち込んだ入館者数だが、震災前（平成22年度）の7割程度に回復してきている。しかし大きな伸びはない。

入館者数

開館日数	285日
入館者数	167,650人
（1日平均）	588人

入館者数・推移（単位：人）

平成26年度	平成27年度	平成28年度
167,097	162,594	167,650

(1) 調査相談（レファレンス）

県内外から、日常生活の中での質問、仕事上の調査研究等、多種多様な調査相談を受け、所蔵資料及び関係機関の協力を得て回答している。問い合わせは、口頭、電話、文書、FAX、電子メールにて受け付けている。総件数は昨年度より減少したが電話、文書、電子メール等の非来館での受け付けが増えている。

また、当館のホームページについては、トップページや「蔵書検索」へのアクセスが大きく伸びた。また、県内の図書館の所蔵資料を検索する「横断検索」も利用されている。

調査相談件数（単位：件）

	一般・地域・逐刊	児童資料	小計
口頭	7,015	2,697	9,712
電話	1,322	165	1,487
文書	46	0	46
FAX	25	1	26
電子メール	197	5	202
合計	8,605	2,868	11,473

調査相談件数・推移

(単位：件)

平成26年度	平成27年度	平成28年度
12,133	11,928	11,473

ホームページアクセス件数

(単位：件)

区 分	平成26年度	平成27年度	平成28年度
ト ッ プ ペ ー ジ	135,196	148,481	194,853
蔵 書 検 索	433,057	439,340	510,541
横 断 検 索	237,057	399,524	396,175
テ ィ ン タ ル ラ イ フ ラ リ ー	5,069	4,684	4,677
こ ど も の へ や	4,052	3,489	3,480
県内図書館(業務用)	13,408	—	—
利 用 案 内	13,247	14,128	14,634

(2) 館内サービス

「福島県立図書館アクションプラン(第2次)」を踏まえ、図書館資料の提供や各種講座の実施を通じ、地域の復興及び暮らしに役立つ情報の提供に努めた。

また、当館のホームページから全ての所蔵資料(貸出可能なもの)の予約ができる新Web予約サービスに加えて、平成29年2月より、Web予約した資料を市町村図書館で受取ることができる受取館指定サービスの試行を開始した。

(3) 館外個人貸出

登録者数は13,993人、貸出冊数は140,037冊、のべ人数は38,237人で、昨年度より若干減少した。

直接自宅へ資料が届く資料宅配サービス(有料)の利用は、31件、冊数は227冊で、利用冊数は昨年度より増加した。館外個人貸出状況

分 類	冊数	構成比(%)	分 類	冊数	構成比(%)
総 記	1,993	1.4	語 学	1,106	0.8
哲学・宗教	4,046	2.9	文 学	19,464	13.9
歴史・地理	6,387	4.6	地 域 資 料	7,884	5.6
社会科学	10,475	7.5	新 聞 雑 誌	7,715	5.5
自然科学	6,832	4.9	小 計	83,440	59.6
工学・工業	6,123	4.4	児 童	56,597	40.4
産 業	3,432	2.4	合 計	140,037	100.0
芸 術	7,983	5.7			

館外個人貸出状況・推移

区 分	平成26年度	平成27年度	平成28年度
冊 数	141,191	140,598	140,037
の べ 人 数	39,591	38,426	38,237

館外個人貸出登録者数(登録有効期間3年)(単位：人)

区 分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	合 計
新 規	3,577	3,145	3,130	9,852
更 新 者	1,260	1,422	1,459	4,141
合 計	4,837	4,567	4,589	13,993

館外個人貸出登録者数・推移

(単位：人)

平成26年度	平成27年度	平成28年度
14,595	14,141	13,993

(4) 特別貸出

特別貸出とは、類縁機関での展示等のための貸出を行う制度で、資料・冊数・期間などの面で配慮している。

特別貸出状況

貸 出 先	件 数	冊 数
官 公 庁 関 係	2	25
図 書 館 そ の 他	49	463
会 社 ・ 事 業 所	15	171
報 道 関 係	0	0
学 校	33	169
計	99	828

特別貸出状況・推移

(単位：冊)

平成26年度	平成27年度	平成28年度
1,134	889	828

(5) 一般資料

県民が必要とする多種多様な情報を迅速に提供するように資料整理等に努めた。

また、時事や季節、話題性のあるテーマで展示を行い資料の紹介に努めた。時事展示として、美術館企画展との関連展示「フェルメールとレンブラント展を楽しむ本」「描かれた動物たち」6月の食育月間に合わせた「おいしくたのしく食育月間」ノーベル賞発表の11月に合わせた「ノーベル文学賞の作家たち」など8回実施。ミニ展示としては、まほろん移動展に合わせた「縄文時代に関する本」や美術館企画展示関連の「エドワード・ゴッリーの優雅な秘密」「広重ビビッド関連本展示」の他、「芥川賞直木賞関連展示」「リオ・オリンピック開催国ブラジルを知る本」「冬を楽しむ」など6回実施した。

さらに、パスファインダー「本の森への道しるべ」を作成し、効率かつ有効的な情報の提供に努めた。

(6) 地域資料

地域資料については、県内外の個人・団体などから様々な調査相談が寄せられた。調査相談件数の26%が福島県に関するもの問い合わせであり、的確な回答を導き出せるよう調査に取り組むとともに、迅速な対応を心がけた。また、職員間で「事例検討会」を実施しスキルアップを図った。

館内では本年度より設置された「本のひろば」のコーナーを利用しミニ展示を10回実施した。「野口英世展」「福島県の郷土かるた」など企画や講座に併せたもの以外に、「高村智恵子生誕130年展」「祝・日本遺産認定～会津三十三観音と安積疏水」「田部井淳子さん逝く」など話題とな

った出来事をタイムリーで紹介した。

一つのテーマを絞って資料を案内するパスファインダー「本の森への道しるべ」は日本遺産に認定された「安積疏水」「会津の三十三観音めぐり」など新たに6本、「郷土まんが家」など改訂を3本作成した。

公開図書室内では「福島県出身の作家「小泉武夫」「風野真知雄」「玄侑宗久」のコーナーを整え、利用されやすい工夫を行った。地域資料の貸出冊数は前年度比109%と震災前平成22年度を大きく上回り、分野別に見ると歴史地理部門が多く貸出冊数の33%を占め、東日本大震災関連資料は15%に留まったが、県人文庫は前年度の15%から19%と大きく伸びた。

資料の撮影・展示及び掲載許可の申請は27件あり、所蔵する貴重資料も幅広く利用された。デジタル化は平成8年度より継続して実施し、今年度は『郷土誌』のうち浜通りの「上真野村」「金房村」等4点を作成、全64点となった。

(7) 逐次刊行物

東日本大震災・原発事故から5年が経過し、復興を記録する『地元新聞にみる原発関連見出し一覧』を平成29年1月31日現在までに更新し、ホームページに掲載した。

『福島県公立図書館 現行購入雑誌保存年限および保存館、現行受入新聞一覧』（平成28年度版）については、本年も避難している大熊町、富岡町、双葉町、浪江町の4町以外から回答を得て発行した。

ミニ展示・軽読書コーナー展示については、毎月展示替えを行い「みんなでおいしく、たのしくごはんを食べよう!」「あたらしい東北を、みつけよう」など、他の機関との連携や季節に配慮した。

パスファインダー「本の森への道しるべ」は、英国のEU離脱などの世界情勢を扱ったテーマで新規6本を作成した。

(8) 児童サービス

子どもの読書活動推進のために各種の事業を行った。

ア こどものへや・児童図書研究室の運営

資料の貸出や調査相談をはじめ、「絵本コーナー」や「新着図書コーナー」などで推奨する資料の展示を行った。また、「子ども読書活動支援コーナー」では、読書活動関係者に対して情報提供を行った。

イ おはなしかいの開催

乳幼児と保護者を対象とした「ちいさなおはなしかい」（毎月第2木曜日）や児童を対象に以下の「おはなしかい」を開催した。

・「夏の図書館ミステリーツアー」（8月18日、19日）

小学校の夏休みに合わせて、図書館の書庫探検を行い、併せて、図書館をテーマとしたおはなしかいを実施した。

・アートなおはなしかい（12月3日）

県立美術館と連携し、干支「鳥」をテーマとしたおはなしかいを実施した。おはなしかいの後、美術館で芸術鑑賞をし、図書館でステンシルによる鳥の絵を描い

た。

・クリスマス ミステリーツアー（12月17日）

年齢別に2グループに分けて見学し、それぞれを対象としたクリスマスのおはなしかいを開催した。

ウ 図書館見学の受け入れ

学校等の要望に応え、施設見学や利用案内、読み聞かせ等を行い、図書館や本に親しむ機会の提供に努めた。

エ 情報誌の発行

思春期の子どものための読書案内誌『LITTLE BIG』や児童サービス関連情報誌『児童図書研究ニュース』を発行し読書普及のための情報提供に努めた。

また、教科書改訂にあわせて『福島県立図書館 中学校国語教科書紹介図書 所蔵一覧』を発行した。

オ 「子育て支援コーナー」の運営

子育てに役立つ図書や雑誌の展示や関係各課からのパンフレット配布等、情報提供に努めた。また、親子で楽しむ「わらべうた・手遊びの本」「離乳食の本」「親子でたのしむ工作の本」などのテーマ展示を行った。

カ 子ども読書と科学のコラボ事業

科学のテーマ展示「からだをつくる食事・料理の本」「自由研究」「ノーベル賞」「動物のくらし」などを実施し資料を紹介した。

(9) 東日本大震災福島県復興ライブラリー

平成24年度より「東日本大震災福島県復興ライブラリー」を開設。常設コーナーとして、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の関連資料を中心に、地震、津波、体験記、放射線、除染、復興、防災、エネルギー問題等の資料を配架し、利用に供している。所蔵数は、平成29年3月11日現在で10,646タイトルとなっており、一覧リストを作成しHPにアップすると共に関係機関へ配布した。また、資料紹介として「ブックガイド」を刊行し利用促進を図った。

さらに、「巡回する福島県復興ライブラリー」として、資料やパネル等を出張展示用セットとして編成し活用を図っている。今年度は、新潟県長岡市立中央図書館（10月1日～11月29日）、神奈川県立海老名市立有馬図書館（平成29年3月1日～3月27日）の2箇所出張展示が開催された。

(10) 特殊文庫・貴重資料紹介コーナー

平成28年2月より新設。壁面にて各特殊文庫概要紹介パネルの掲示をはじめ、資料の一部配架や展示ケースにて貴重資料の展示などを行い、当館所蔵の特殊文庫や貴重資料の紹介に努めた。今年度は「江戸の流行画」（4月8日～5月5日）「戦前・戦中と戦後の教科書」（6月3日～8月3日）「くらべてみよう！おやこの教科書」（8月5日～8月31日）等を行った。

また、平成29年2月より「長田弘文庫」開設にともない文庫の一部を展示し紹介した。

(11) 複写サービス

コイン式コピー機は1台、レーザープリンター1台、カラープリンター1台、マイクロプリンター2台での対応となっている。保存のために資料の媒体を変えていることから、形態にあわせてそれぞれのプリンターで対応している。
複写利用状況

区 分	件 数	枚 数
自・他館処理	4,268	51,548

複写利用状況・推移 (単位：枚)

平成26年度	平成27年度	平成28年度
55,808	51,994	51,548

(12) 来館者用インターネットコーナー

来館者が利用できるインターネット端末を一般用に6台、こどものへやに1台設置し、情報提供の便宜を図っている。また、当館職員による「はじめてのインターネット使い方講座」を2回（12月9日と平成29年2月9日）実施し、インターネット利用の啓発を図った。
インターネット利用状況

区 分	人 数
一 般	6,539
児 童	64
合 計	6,603

インターネット利用状況・推移 (単位：人)

平成26年度	平成27年度	平成28年度
6,790	6,710	6,603

(13) 展示

ア 展示コーナー企画展示

当館入り口の展示コーナーにおいて、テーマに沿った資料の展示を行った。

(ア) 「とと姉ちゃんと「暮しの手帖」」

(4月8日～5月5日)

4月から始まるNHK朝の連続ドラマにあわせて企画。後に、暮しの手帖社を興した人物、大橋鎮子(オハシマコ)と花森安治(ハナモリ ヤスジ)を紹介した展示である。

創刊号から所蔵している「暮しの手帖」のバックナンバーを併せて展示し、二人や暮しの手帖社関連のパスファインダーを作成し配布した。

(イ) 「受賞児童図書展～日本の受賞図書」

(5月7日～6月1日)

「日本絵本賞」「日本児童文学者協会賞」「五山賞」など、最近の受賞作品を展示した。

(ウ) まほろん移動展「縄文土器の年代―その古さを読み解く」(6月3日～7月6日)

公益財団法人福島県文化振興財団との共催事業として、平成28年3月5日～5月8日にかけて、福島県文化財センター白河館で開催した同テーマによる収蔵資料展の移動展を行った。縄文時代草創期～前期初頭の土器を展示・解説し、縄文土器の年代はどのようにしてわかるのか。縄文人は何を食べていたのか等、縄文時代の暮らしを紹介した。

併せて、福島県文化財センター白河館の専門学芸員・三浦武司氏による関連講座「縄文土器の年代―スズとコゲからなぞをとく―」(第1回ふくしまを知る連続講座)を実施した。

(エ) 「ピーターラビットの世界展-ピートリクス・ポター生誕150年-」(7月8日～8月3日)

『ピーターラビット』シリーズの作者であるビアトリクス・ポターの生誕150年を記念して、関連資料を展示した。併せて、関連資料のパスファインダーを作成した。

(オ) 「オリンピック展 名場面のアスリートたち」(8月5日～8月31日)

ブラジルのリオデジャネイロ五輪開催にちなみ、歴代夏季オリンピックの名場面を展示した。出場する郷土福島の選手たちについても紹介した。

併せてブラジルについても紹介し、寄贈されたパンフレットや地図、展示した資料の一覧を作成して配布した。

(カ) 「美しい本たち」(9月2日～10月5日)

本には、文や絵などの内容だけでなく、印刷や装丁等にも工夫を凝らし表現した作品がある。その代表的なものとして、童画家であり童話作家であった武井武雄(1894-1983)が手掛け、会員限定で頒布された刊本作品がある。その刊本作品を中心に、芸術作品ともいえる、美しい本の数々を紹介した。

(キ) ふれあい歴史館移動展「「福島の引札Ⅱ」」(10月7日～11月3日)

福島市教育委員会との共催事業として、福島市ふれあい歴史館が所蔵する引札の展示を昨年に引き続き行った。江戸時代から大正末期にかけて、福島市内の商店等が配布した色鮮やかな引札を展示した。

併せて、福島市史編纂室の柴田俊彰氏による講座「引札が語る商業のまち福島の歴史Ⅱ(第2回ふくしまを知る連続講座)」を実施した。

(ク) 「生誕140周年記念 野口英世展」

(11月5日～12月27日)

生誕140周年を迎えた福島県を代表する偉人である野口英世に関する当館所蔵資料を展示するとともに、パスファインダー「本の森へのみちしるべ野口英世」を作成した。

併せて、野口英世記念会の森田鉄平氏による「医学者・野口英世を支えた人々(第3回ふくしまを知る連

続講座)」を開催した。

(ケ) 福島県歴史資料館移動展「名所図会の世界－江戸時代の観光ガイドブッカー」

(平成29年1月6日～2月12日)

公益財団法人福島県文化振興財団との共催事業として、4月23日～6月30日にかけて、福島県歴史資料館で開催した同テーマによる展示の移動展を行った。福島県ゆかりの名所が描かれたものを中心に、代表的な名所図会を展示した。

併せて、福島県歴史資料館の副主幹兼専門学芸員渡邊智裕氏による講座「名所図会の世界－ふくしまゆかりのものを中心に－」（第4回ふくしまを知る連続講座）」を実施した。

(コ) 「漱石と女性たち」（平成29年2月24日～4月5日）
2016年は日本の代表的な文豪夏目漱石の没後100年、2017年は漱石の生誕150年という、2年続けての記念の年となった。これを機に、漱石の研究資料など漱石関連の資料を「漱石と女性たち」という視点から紹介した。

イ ロビー展示

情報発信の一環としてロビー通路壁面を利用し、県民に作品発表の場を提供した。

(ア) 「中村勢津夫 色鉛筆の世界展」

(4月8日～5月5日)

(イ) 「ヨーロッパ・トルペイトの世界」 (5月7日～6月1日)

(ウ) 「藤守可江水彩画展」 (6月3日～7月6日)

(エ) 「えがく会 作品展」 (7月8日～8月3日)

(オ) 「風を感じて(パステル画)」 (8月5日～8月31日)

(カ) 「第8回網代澄亭と一門による刻字展」

(9月2日～10月5日)

(キ) 「さちこの押花展」 (10月7日～11月3日)

(ク) 「愛でつなぐ旅するパステルアート展」

(11月5日～11月30日)

(ケ) 「古城と風景展」 (12月2日～12月27日)

(コ) 「翡翠の世界写真展」

(平成29年1月6日～2月12日)

(サ) 震災パネル展」 (平成29年3月3日～3月20日)

ウ 「私のおすすめ本 メッセージカードコンテスト」展

県内の子どもたちが、感動や勇気をもらった本を1枚のカードで紹介するコンテストの優秀作品25点と、該当図書を展示した。

期間 12月20日～平成29年2月12日

場所 エントランスホール

(14) 普及事業

県内公共図書館及び公民館図書室等、図書館関係施設職員の資質の向上を図るため、講演会や講座を実施することで、幅広い知識の習得を目指し、また、一般県民に対しても開放し、図書館としての情報発信を行い、地域文化の進展に寄与した。

ア 文化講演会

(第1回)

(ア) 期 日 10月2日

(イ) 会 場 福島県立図書館

(ウ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員、一般県民等 80名

(エ) 演 題 「詩のこころ・雪のこころ」

(オ) 講 師 詩人 八木忠栄 氏

*福島県現代詩人の会主催事業

(第2回)

(ア) 期 日 12月10日

(イ) 会 場 福島県立図書館

(ウ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員、一般県民等 190名

(エ) 演 題 「地域づくり・人づくりと図書館」

(オ) 講 師 慶應義塾大学 教授 片山善博 氏

*福島市の図書館を育てる市民の会主催事業

イ ふくしまを知る連続講座

第1回「縄文時代の年代～ススとコゲからなぞをとく～」

6月19日

講師 福島県文化財センター白河館 三浦武司 氏

参加者32名

第2回「引札が語る商業のまち福島の歴史Ⅱ」10月23日

講師 福島市史編纂室 柴田俊彰 氏

参加者40名

第3回「医学者・野口英世を支えた人々」11月19日

講師 野口英世記念会 森田鉄平 氏

参加者20名

第4回「名所図会の世界～ふくしまゆかりのものを中心に～」 平成29年1月22日

講師 福島県歴史資料館 渡邊智裕 氏

参加者44名

ウ 衛生学予防医学講演会

福島県立医科大学の衛生学・予防医学講座との連携による講演会を、平成20年度より開催している。

開催日 8月27日

場所 福島県立図書館 第一研修室

内容

・講演1 テーマ「健康～そのわかっているようで深い意味」

講師 福島哲仁 (福島県立医科大学 衛生学・予防医学講座教授)

・講演2 テーマ「身近な『食』から考える健康」

講師 伊藤央奈 (管理栄養士、福島県立医科大学衛生学・予防医学講座 大学院 博士課程)

参加者 72名

エ 福島の文化を知る教室 「算額 (さんがく) って、なあに？」

福島県和算研究保存会との協力事業。福島の和算につ

以下の講座とワークショップを実施した。

- 開催日 8月7日
- 場 所 福島県立図書館 第一研修室
- 講 師 五輪教一氏・白岩信博氏（同保存会会員）
- 参加者 12名

オ 国立国会図書館連携文化事業

福島県公共図書館協会事務局として、国立国会図書館国際子ども図書館との共催により、ブラジルの画家・絵本作家で、2014年の「国際アンデルセン賞・画家賞」受賞のホジェル・メロ氏を招へいし、講演会とワークショップを行った。

- ・『講演会』
 - 開催日 7月27日
 - 場 所 福島県立図書館 講堂
 - テーマ 「本、それは差異の迷宮」
 - 参加者 120名
- ・『ワークショップ』
 - 開催日 7月28日
 - 場 所 南相馬市立中央図書館
 - 内 容 南相馬市立石神第一小学校の5～6年生と、ホジェル・メロ氏との造形活動。
 - 参加者 8名

カ 県教育委員会（義務教育課連携事業）

福島県教育委員会と、JAXA宇宙教育センターの連携協定に基づいた宇宙教育関連事業に協力した。

- 開催日 5月22日
- 場 所 福島県立図書館 講堂・第一研修室
- 内 容
 - ・記念講演「宇宙と子どもたちの未来」
 - 講師 JAXA名誉教授 的川泰宣 氏
 - ・宇宙に関する図書の紹介
 - 所蔵資料から関連資料を紹介・展示
 - ・研修会
 - 学校教育・社会教育関係者を対象にした宇宙教育の研修会
 - 講師 JAXA職員

4 館外奉仕

(1) 移動図書館「あづま号」

以下の目的により巡回事業を実施し、連携協力を図るとともに、合計23,026冊の資料を貸出した。

ア 図書館未設置町村支援

図書館未設置町村における図書館活動の促進を図ることを目的に、資料の貸出しと公民館図書室等の運営相談を行った。17自治体に巡回し、延べ19,323冊の資料を貸出した。

イ 避難自治体支援事業

東日本大震災等の影響により避難を余儀なくされ、図書館等の運営が困難な6自治体に対し、読書環境を改善することを目的に巡回し資料の貸出しを行った。

該当自治体が設置する、仮設校及び仮設住宅等を巡回対象とし、仮設校に対しては、大熊町・葛尾村・飯館村の3自治体の幼稚園、小・中学校を延べ8回巡回し、1,027冊の貸出しを行った。その他、葛尾村の仮設住宅及び川内村公民館、浪江町の仮設図書館に対し、1,637冊を貸出した。

ウ 特別支援学校読書活動支援事業
日常的に図書館や読書施設、書店等の利用が困難な子どもたちの読書環境の向上を目的に、西郷養護学校と富岡養護学校の2校を巡回し、延べ971冊の資料を貸出した。

エ 文化施設連携事業

県内文化施設間の連携を図ることを目的に、福島県文化財センター白河館の事業（まほろろ感謝祭）に参加し、移動図書館を県民に開放するとともに、延べ68冊の資料を貸出した。

移動図書館「あづま号」貸出状況・推移（単位：冊数）

平成26年度	平成27年度	平成28年度
25,589	26,330	23,026

(2) 市町村援助のための支援貸出

大規模な図書館事業を行う市町村に対して、長期にわたり一括大量に資料の貸出しを行い、図書館・公民館図書室の読書・学習環境を支援した。

平成28年度の利用状況は次のとおりである。

本宮市教育委員会	2,568冊
喜多方市教育委員会	469冊
川俣町教育委員会	470冊
平田村教育委員会	413冊
西会津町教育委員会	320冊
合 計	4,240冊

(3) 福島県立図書館資料の譲与

再活用が十分見込まれる資料を、県内市町村教育委員会及び高等学校等に対し譲与し、図書館施設の蔵書の充実を支援した。

平成28年度の利用状況は次のとおりである。

会津版下町教育委員会	130冊
福島刑務所	201冊
合 計	331冊

(4) 学校図書館活動支援貸出

県内高等学校及び県立特別支援学校の図書館活動の充実を図るために、長期にわたり一括大量に図書の貸出しを行い、学校図書館読書・学習環境を支援した。

平成28年度は、県立相馬高等学校に対し、125冊の資料を貸出した。

(5) 学校図書館活動支援セット貸出

県内の児童・生徒の学びの環境づくりを支援するため、県内の高等学校および特別支援学校、小・中学校等に対して、その図書館活動の充実を図ることを目的に、118テ

マ（延べ277セット）を編成し貸出を行った。

28年度の利用状況は、18団体にに対し54セット（2,198冊）を貸出した。

(6) 広報資料の発行

ア 館報「あづま」

「長田弘文庫」開設に関する記事を主たる記事構成とし、第66巻（通巻270号）を2月5日に発行した。

イ 平成28年版福島県公共図書館・公民館図書室実態調査報告書（データ版）

図書館活動の振興に資するため、昭和54年度から県内公共図書館・公民館図書室の実態調査を実施し、報告書としてまとめ、県立図書館ホームページに掲載している。

主な調査結果であるが、4月1日現在、県内図書館の合計蔵書冊数は5,899,233冊で、当該人口1人当たり3.44冊（前年度3.42冊）、年間増加冊数は181,584冊である。また、平成27年度中の貸出図書冊数は、6,710,125冊（当該人口1人当たり3.92冊）であり、前年度と比べると総冊数では、185,052冊の増である。

ウ 福島県郷土資料情報

第57号を発行。特集「ふくしまの城・城絵図」に棚倉城・小峰城など6つの城について当館所蔵の城絵図を紹介している。また、年度内に実施された「ふくしまを知る連続講座」の報告や、連載記事として「福島の児童文学者」「福島県関係書誌」をまとめた。100部発行し、当館HPへも掲載する等、郷土の情報発信を発信した。

5 図書館協力

(1) 相互協力和遠隔地返却

協力貸出（他館との資料の貸借）サービス、遠隔地返却（当館資料を他館に返却する）サービスを行っている。前年と比べて利用は減少した。

相互貸借状況

区分	県内		県外		合計	
	件数	冊数	件数	冊数	件数	冊数
貸出	1,094	4,955	392	660	1,486	5,615
借用	96	130	57	74	153	204
小計	1,190	5,085	449	734	1,639	5,819

相互貸借状況・推移

（単位：冊）

平成26年度	平成27年度	平成28年度
6,652	5,839	5,819

遠隔地返却冊数・推移（利用者が来館し、直接貸出しを受けた資料を県内公立図書館に返却した冊数）

（単位：冊）

平成26年度	平成27年度	平成28年度
6,205	5,924	6,551

(2) 図書館協力事業

県内市町村図書館などの運営を支援するため、各館を定期的に巡回し、情報の収集と提供、運営に関する相談を行った。

また、協力貸出（資料の貸借）などの資料の搬送支援を行った。平成28年度は、17コースを編成し、26自治体と2高等教育機関に対し巡回した。

(3) 県内図書館職員研修会

県内図書館職員の資質向上と専門的知識の涵養を図るため、毎年行っている。

ア 福島県図書館・公民館図書室職員等初任者研修会

（ア）テーマ 「図書館の意義と基本について」

（イ）期 日 5月27日

（ウ）会 場 福島県立図書館

（エ）参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 84名

（オ）講 師 県立図書館職員

イ 福島県図書館・公民館図書室職員等専門研修会

（ア）テーマ 「関係法令から図書館サービスを考える～危機管理としてのトラブル対応～」

（イ）期 日 平成29年1月27日

（ウ）会 場 県立図書館

（エ）参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 35名

（オ）講 師 元千葉県労働委員会事務局次長 鍵水三千男 氏

ウ 福島県内図書館初任者職員実務研修

（ア）期 日 （第1回）6月22日～24日

（第2回）9月14日・16日 *2日間

（イ）会 場 県立図書館

（ウ）参加者 （第1回）2名／（第2回）1名

（エ）講 師 県立図書館職員

(4) 第14回福島県図書館研究集会

図書館業務及び読書活動推進に関わる実務的な業研究会を行うとともに、情報交換や協議を行い図書館活動の振興を図ることを目的に、福島県公共図書館協会事務局として実施・運営している。

ア テーマ 「豊かな未来を見据えて

～図書館が果たすべきこと～」

イ 期 日 11月11日

ウ 会 場 福島県立図書館

エ 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 42名

オ 内 容

事例報告①

・テーマ「やすらぎ・つどい・ひろがる図書館～震災を経て新たな図書館をつくる～」

・報告者 名取市図書館館長 柴崎悦子 氏

事例報告②

・テーマ 「未来に向けた図書館を目指して

～さまざまな図書館づくりをとおして～

- ・報告者 アカデミック・リソース・ガイト株式会社ディレクター
野原海明 氏

研究協議①

- ・テーマ「地域の振興を踏まえた、新たな図書館の役割について」

- ・助言者 名取市図書館館長 柴崎悦子 氏
- ・司会者 白河市立図書館館長 田中伸哉 氏

研究協議②

- ・テーマ「図書館未設置地区における、図書活動の現状と課題」

- ・助言者 アカデミック・リソース・ガイト株式会社ディレクター
野原海明 氏

- ・司会者 県立図書館 専門司書 吉田 和紀

(5) 子どもの本がつなぐスマイルプロジェクト

東日本大震災で被災した子どもたちや親たちが、本とのふれあいを通して心を癒やすことを目的に、読み聞かせなどを行うフェスティバルを、平成26年度より開催している。

プロジェクト実施に併せ、子どもたちに出会って欲しい絵本を紹介したブックリスト「絵本はともだち～かがくやちしきの絵本～」 「本はともだち～読み聞かせに向く絵本～」を作成し配布した。

ア 「絵本はともだち」

(ア) 期 日 7月3日

(イ) 会 場 白河市立図書館

(ウ) 参加者 子どもと保護者・保育従事者・読書ボランティア・その他関係者等120名

(エ) 内 容

講演・実演（おはなしかい等）

- ・テーマ 「親子で楽しむおはなしの世界」
- ・講 師 幼児教育専門家 藤田浩子 氏

イ 「本はともだち」

(ア) 期 日 11月19日

(イ) 会 場 いわき産業創造館（LATOV 6階）

(ウ) 参加者 子どもと保護者・学校・保育関係者・読書ボランティア・その他40名

(エ) 内 容

講演・実演（おはなしかい等）

- ・テーマ「おはなしや本の世界を楽しもう」
- ・講 師 浦安市企画部主査 伊藤明美 氏

(6) 県内大学図書館間との連携

県内の大学図書館及び公共図書館間における、「図書館資料の相互貸借」「複写」「参考業務」及び「一般社会人への共通利用証発行」等の協力体制を推進するため、「福島県内大学図書館連絡協議会」の公共図書館唯一の加盟館として、「福島県内大学図書館間相互利用制度」の維持に努めた。

同協議会には、県立図書館の他、県内20の市町村立図

書館が参加館として参加している。参加している図書館は、福島市立図書館、二本松市立二本松図書館、郡山市中央図書館、須賀川市図書館、白河市立図書館、会津若松市立会津図書館、喜多方市立図書館、相馬市図書館、南相馬市立中央図書館、いわき市立いわき総合図書館、田村市図書館、小野町ふるさと文化の館、三春町民図書館、鏡石町図書館、矢吹町図書館、双葉町図書館、大熊町図書館、新地町図書館、浪江町図書館、本宮市立しらすわ夢図書館である。

さらに、福島大学附属図書館、及び、福島県立医科大学附属学術情報センター図書館とは、相互協力のための「ふくふくネット」を締結しており、それに基づき活動を行った。

第13節 福島県立美術館

1 概要

1984年に開館した福島県立美術館は、さまざまなテーマに基づく展覧会、創作や芸術鑑賞のための各種講座等の事業を実施している。また、文化財としての美術作品の収集保存、美術や地域の芸術運動に関する調査研究を継続的に実施している。これらの活動を基盤に、美術の情報センターとしての機能を担っている。

当年度の美術館活動の概要は以下のとおりである。

(1) 美術館運営協議会

ア 委員

山口 功	福島県中学校教育研究会美術専門部所属 (平成25.1.1～)
番匠あつみ	福島県高等学校教育研究会美術工芸部会所属 (平成27.1.1～)
杉 昭重	公益財団法人福島県文化振興財団理事長兼 福島県文化センター館長(平成29.1.1～)
坂本節子	福島県家庭教育インストラクターいわきの会事務局長 (平成25.1.1～)
齋藤勝正	福島県美術家連盟会長 (平成29.1.1～)
本保 晃	日本放送協会福島放送局長 (平成27.10.17～)
星眞智子	西会津国際芸術村事務局長 (平成27.1.1～)
清水眞砂	世田谷美術館分館長 (平成27.1.1～)
齋藤美保子	郡山女子大学短期大学部教授 (平成27.1.1～)
舟木藤弘	福島県立美術館友会の会理事 (平成29.1.1～)

イ 協議会の開催

- (ア) 期日 平成29年3月10日(金)
- (イ) 内容 ・運営協議会会長及び副会長の選出
・平成28年度事業実施の概要
・平成29年度事業計画案の概要
・県立美術館の運営等

(2) 他館等との連携

県内外の博物館施設および全国組織等との連携を図り運営・事業等に関する情報交換や研修等を実施した。

加盟団体	・全国美術館会議 (理事)
	・日本博物館協会 (会員)
	・日本博物館協会東北支部 (監事)
	・東北地区博物館協会 (監事)
	・福島県博物館連絡協議会 (理事)

2 美術品の収集・保存

優れた美術作品鑑賞の機会を提供し、文化財を保存継承するため、コレクション(収蔵作品)の収集活動を継続的に行っている(ただし平成22年度以降、作品購入実績はない)。

今年度は作品146点および美術資料23件を寄贈により収蔵した。

(1) 収蔵作品点数(平成29年3月31日現在)

海外作品	450点	
日本画	343点	
洋画	902点	
版画	1,148点	
立体	138点	
工芸	154点	
書	39点	
素描・下絵	204点	
写真	410点	
計	3,788点	美術資料62件

(2) 収集評価委員会

ア 委員

原田 光	元岩手県立美術館長 (平成23.12.1～)
村田眞宏	豊田市美術館長 (平成23.12.1～)
荒屋鋪透	元ポーラ美術館長 (平成23.12.1～)
三上満良	宮城県美術館副館長 (平成23.12.1～)
佐々木吉晴	いわき市立美術館長 (平成23.12.1～)

イ 委員会の開催

- (ア) 期日 平成29年2月23日(木)
- (イ) 内容 ・平成27年度収集作品の報告
・平成28年度収集候補作品について

(3) 平成28年度収蔵作品

ア 美術作品及び美術資料の収集

国内：日本画	小川芋銭	1点
	小川千甕	19点
	佐藤玄々(朝山)	1点
	米倉 兌	3点
国内：洋画	小川千甕	72点
	田口安男	18点
	平岡権八郎	1点
	米倉 兌	8点
国内：素描・下絵	田口安男	7点
国内：版画	亜欧堂田善	1点
	安部直人	4点
国内・立体	佐藤玄々(朝山)	9点
国内：書	小川芋銭	1点
	小川千甕	1点
国内：資料	小川千甕資料	1件

荻生天泉資料 21件
井上定雄旧蔵資料 1件
計144点 美術資料23件

イ 図書資料の収集(平成29年2月26日現在)

収蔵図書数 57,798冊

(4) 保存修復

美術品の状態を維持回復し、美術品の保管・展示の環境を良好に保つために、計画的に美術品の修復や館内の保存環境調査を実施している。

ア 保存環境調査の実施

(ア) 時期 平成28年6月6日～20日

(イ) 内容 展示室、収蔵庫等の虫菌害調査、酸アルカリ濃度測定等

イ 美術作品の修復

今年度は河野保雄コレクションのガラス絵作品53点、山口薫《水》、鎌田正蔵《裸体》、長谷川利行《カフェオリエント》他12点、村上華岳《秋谿図》の修復を実施した。

ウ 敷地内の放射線測定

(ア) 時期 毎月1回、計12回測定

(イ) 場所 美術館内および敷地内 計45か所

3 展示事業

(1) 常設展

収蔵および寄託の美術作品を展示している。美術の多様な領域や数多くの作家を紹介するとともに、作品の状態の保全に配慮して、年4回(版画は年8回)展示替えを行っている。

ア 常設展示

(ア) 第Ⅰ期常設展

会期 平成28年4月2日(土)～7月3日(日)

主な内容

- ・ 亜欧堂田善と渡辺光徳：《新訂万国全図》など
- ・ 関根正二と大正洋画：岸田劉生《静物》など
- ・ 佐藤玄々(朝山)の彫刻：《山風》《牛》など
- ・ 吉井忠の絵画とその周辺：《森林帯》など

(イ) 第Ⅱ期常設展

会期 平成28年7月9日(土)～10月10日(日)

主な内容

- ・ 荻生天泉特集：《花卉虫鳥類写生図巻》《霊夢》など
- ・ 草木のある風景：山川忠義《山村雪景》など
- ・ 石原コレクション：ロダン《影の頭部》など
- ・ 清宮質文の版画とガラス絵：《ある空間(蝶)》など

(ウ) 第Ⅲ期常設展

会期 平成28年10月15日(土)～12月25日(日)

主な内容

- ・ 日本画 三良と芋銭：小川芋銭《細道絵日記》など
- ・ 浮世絵とフランス美術：ルノワール《帽子を被る女》
- ・ 河野保雄コレクション：井上長三郎《花》など
- ・ 新東京百景：恩地孝四郎《邦楽座内景》など

(エ) 第Ⅳ期常設展

会期 平成29年1月7日(土)～3月20日(月・祝)

主な内容

- ・ 現代の日本画：朝倉撰《屏風》など
- ・ 新収蔵作品：織田彩子《ガラス器の静物》など
- ・ 抽象絵画：田中敦子《WORK1968》など
- ・ 山中現《木版画集 時の器》など

イ 移動美術館

当館所蔵作品の一部を、県内の文化施設で公開展示する事業で、開催館との協働でテーマ、作品選定から実務までを行う。

今年度は国見町観月台文化センターで開催した。

(ア) 石原コレクション名品展 国見に花開く美の精華

a 会期 平成28年6月11日(土)～19日(日)

b 会場 国見町観月台文化センター 大研修室

(伊達郡国見町大字藤田字観月台15)

c 展示数 40点

d 主催 国見町、国見町教育委員会、福島県立美術館

e 観覧料 無料

f 観覧者数 800名

g 概要

横浜市のコレクター、石原巖氏の美術コレクションが平成27年度に国見町と福島県立美術館に寄贈されたことを記念して、新収蔵の石原コレクションを公開する移動美術館を国見町で開催した。展示ではロダン、佐藤忠良、舟越保武、小磯良平など国内外の著名な作家のブロンズ彫刻、素描、版画など名品40点を紹介した。

h 関連事業

(a) ギャラリートーク

期日 6月11日(土)、19日(日)

解説 宮武弘(当館学芸員) 参加者50名

(2) 企画展

今年度は6回の企画展示を開催し、国内外の様々な文化を紹介した。

ア フェルメールとレンブラント：17世紀オランダ黄金時代の巨匠たち

(ア) 会期 平成28年4月6日(水)～5月8日(日)

(イ) 分野 絵画

(ウ) 展示数 57点

(エ) 主催 東日本大震災復興事業「フェルメールとレンブラント：17世紀オランダ黄金時代の巨匠たち」展実行委員会(構成員：福島県、福島県教育委員会、福島県立美術館、テレビユー福島、福島民報社、ラジオ福島)

特別協賛 東邦銀行

協賛 東北電力、福島トヨタ、ベスト学院グループ、ヤクルト、JAグループ福島

(オ) 観覧料 一般1,500(1,300)円、大学生1,100(900)円、高校生800(600)円

(カ) 観覧者数 104,150名

(キ) 概要

17世紀オランダ絵画をメトロポリタン美術館（ニューヨーク）、アムステルダム国立美術館などのコレクションから振り返る展覧会。「光の画家」として知られるデルフト出身のヨハネス・フェルメールの《水差しを持つ女》や独特な発想、技法と構図で人気を博したレンブラント・ファン・レインの《ベローナ》をはじめ、オランダ黄金時代を彩ったさまざまな画家たちによる57作品を取り上げた。実行委員会方式により開催。

(ク) 関連事業

a 講演会①「光と影のオランダ絵画」

日時 4月10日(日)

講師 宮下規久朗氏(神戸大学教授)

会場 コラッセふくしま4階多目的ホール

参加者 213名

b 講演会②「ブルーストが描いたフェルメール」

日時 4月23日(土)

講師 田村奈保子氏(福島大学教授)

会場 コラッセふくしま4階多目的ホール

参加者 197名

c 講演会③「澄み渡る窓辺—フェルメールの女のいる空間」

日時 4月30日(土)

講師 小林頼子氏(目白大学教授)

会場 A・O・Z(アオウゼ)多目的ホール

参加者 178名

d フォーラム福島連携企画

映画上映会「真珠の耳飾りの少女」

日時 4月9日(土)

会場 フォーラム福島(福島市曾根田町7-8)

参加者 78名

イ よみがえるオオカミ 飯舘村山津見神社復元天井絵

(ア) 会期 平成28年5月28日(土)～7月3日(日)

(イ) 分野 絵画

(ウ) 展示数 266点

(エ) 主催 福島県立美術館

共催 山津見神社、和歌山大学観光学部・国際観光学研究センター、東京藝術大学、認定NPO法人ふくしま再生の会

後援 飯舘村

助成 一般財団法人地域創造

(オ) 観覧料 一般・大学生270(210)円、高校生以下無料

(カ) 観覧者数 5,549名

(キ) 概要

全村避難が続く飯舘村佐須の山津見神社の拝殿が2013年4月に火災で焼失した。拝殿に描かれていた240枚のオオカミを描いた天井絵も焼失したが、このほど和歌山大学、東京藝術大学、NPO法人福島再生の会、福島県立美術館を中心にして復元プロジェクトが立ち

上がった。本展では、完成した242枚の復元天井絵を披露、さらに飯舘のオオカミ信仰や地域の文化を関連資料によって紹介した。

(ク) 関連事業

a フォーラム「山津見神社のオオカミ天井絵をめぐって」

日時 5月28日(土)

報告 「復元プロジェクトの経緯」加藤久美氏(和歌山大学観光学部教授)、サイモン・ワーン氏(和歌山大学観光学部特任助教)

「文化財保存の観点から」荒井 経氏(日本画家、東京藝術大学准教授)

「南東北のオオカミ信仰」石黒紳一朗氏(村田町歴史みらい館副参事)

「山津見神社と飯舘の文化」佐藤俊雄氏(元飯舘村教育委員会文化財担当)

司会 増渕鏡子(当館主任学芸員)

会場 当館講堂 参加者:200名

b ワークショップ「オオカミを杉板に描こう！」

日時 5月29日(日)

講師 荒井 経氏(日本画家、東京藝術大学准教授)

参加者 22名

c ギャラリートーク

日時 6月11日(土)、25日(土)

解説 増渕鏡子(当館主任学芸員)

ウ エドワード・ゴリーの優雅な秘密

(ア) 会期 平成28年7月16日(土)～8月28日(日)

(イ) 分野 絵画

(ウ) 展示数 374点

(エ) 主催 福島県立美術館

協力 福島県立図書館、Edward Gorey Charitable Trust、Brandywine River Museum、株式会社河出書房新社

助成 芸術文化振興基金

後援 日本国際児童図書評議会(JBBY)

企画協力 株式会社イデッブ

(オ) 観覧料 一般・大学生800(600)円、高校生500(400)円、小・中学生300(200)円

(カ) 観覧者数 8,239名

(キ) 概要

エドワード・ゴリー(1925-2000)は、モノクロームの緻密な線描と不思議な世界観で、世界中に熱狂的なファンをもつアメリカの作家である。ミステリー小説のような物語と、陰影や背景までもがペンで細かく描かれたイラストで数多くの作品を発表した。本展では貴重な原画・書籍・資料など約350点を日本で初めて展示し、ゴリーの多彩な制作活動に迫る展覧会となった。県立美術館と図書館の連携企画として開催。

(ク) 関連事業

a 講演会「エドワード・ゴリーを見る／読む／訳す

楽しみ」

日時 7月18日(月・祝)

講師 柴田元幸氏(アメリカ文学研究者、翻訳家)

会場 当館講堂 参加者:230名

b ギャラリートーク

日時 8月6日(土)

講師 濱中利信氏(本展出品者) 参加者:65名

c 映画上映「國民の創生」(東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品)

日時:7月23日(土)

会場:フォーラム福島

協力:東京国立近代美術館フィルムセンター

d 図書館展示

期間:7月8日(金)~8月31日(水)

会場:福島県立図書館公開図書室センターホール

エ 被災地からの発信 ふくしま3.11以降を描く

(ア) 会期 平成28年9月10日(土)~10月10日(月・祝)

(イ) 分野 絵画

(ウ) 展示数 75点

(エ) 主催 被災地からの発信・心の復興支援事業実行委員会(構成員:福島県立美術館、あだたら高原美術館-a0-, 美術館とまちづくり研究会、福島造形サークル)

*平成28年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

(オ) 観覧料 無料

(カ) 観覧者数 2,631名

(キ) 概要

東日本大震災とそれに続く原発事故から5年を経て、福島県の美術家たちが少しずつ震災を表現している。本展では、震災とその後の福島の状況をテーマに制作している作家7人の作品75点を展示し、作家たちが現状をどのように捉え、自己の表現に結びつけようとしているかに焦点を当てた。出品作家は片平仁、齋藤杏奈、坂内直美、松本良子、宮本興一郎、門馬美喜、油井ひろ子。

(ク) 関連事業

a シンポジウム「被災地の表現、その可能性を探る」

日時 9月10日(土)

講師 小勝禮子氏(美術史・美術批評、前栃木県立美術館学芸課長)、原田光氏(美術評論家、前岩手県立美術館長)、三上満良氏(宮城県美術館副館長)

司会 伊藤匡(当館学芸課長) 参加者:30名

b 出品作家によるギャラリートーク

①9月17日(土)

解説 片平仁、宮本興一郎、門馬美喜、油井ひろ子
参加者 30名

②10月1日(土)

解説 齋藤杏奈、坂内直美、松本良子 参加者:20名

c 移動展示

期間 10月5日(水)~16日(日)

会場 大崎市民ギャラリー緒絶の館

オ 原安三郎コレクション 広重ビビッド

(ア) 会期 平成28年10月29日(土)~12月11日(日)

(イ) 分野 版画

(ウ) 展示数 250点

(エ) 主催 福島県立美術館

共催 テレビユー福島、福島民報社

協賛 日本化薬株式会社

後援 (公財)アダチ伝統木版画技術保存財団

協力 伊達市

企画制作 TBS テレビ

(オ) 観覧料 一般・大学生1,000(800)円、

高校生600(500)円、小・中学生400(300)円

(カ) 観覧者数 17,001名

(キ) 概要

日本化薬株式会社創業者であった原安三郎(1884-1982)氏の本邦初公開となる連作を含む、美しい浮世絵風景版画展。歌川広重(1797-1858)の晩年の傑作、〈六十余州名所図会〉〈江戸名所百景〉の初摺り揃いは、大きな反響をよび、また葛飾北斎《富嶽三十六景》、同じく広重不朽の名作《東海道五拾三次之内》、さらに奇才歌川国芳の作品は、教科書でも見た名品として好評を博した。

(ク) 関連事業

a 講演会「名所江戸百景の今と昔」

日時 11月6日(日)

講師 市川信也氏(那珂川町馬頭広重美術館長)

会場 当館講堂

b ギャラリートーク

①11月11日(金) 解説:堀 宜雄(当館専門学芸員)

②12月3日(土) 解説:紺野朋子(当館副主任学芸員)

カ Gallery F コレクション再発見

(ア) 会期 平成29年1月21日(土)~2月12日(日)、
2月18日(土)~3月12日(日)

(イ) 分野 絵画、版画、資料

(ウ) 展示数 261点

(エ) 主催 被災地からの発信・心の復興支援事業実行委員会(構成員:福島県立美術館、あだたら高原美術館-a0-, 美術館とまちづくり研究会、福島造形サークル)

*平成28年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

(オ) 観覧料 無料

(カ) 観覧者数 1,988名

(キ) 概要

「Gallery F」とは、当館のコレクションの中から、今まで紹介できなかった作品や新収蔵・寄託作品を取

り上げ、あるいはテーマを絞って掘り下げる小さな展覧会を意味する。今年度は5つの「Gallery F」を2期に分けて開催した。第1期では、洋画家・鎌田正蔵と関根正二を取り上げた。第2期では秀島由己男と高橋由一の版画、さらに今年度制作した鑑賞用補助教材「福島県立美術館アートカード」を使って「福島四中からの発信・しあわせアートプロジェクト」を実施した。

(ク) 関連事業

a ギャラリートーク

- ①1月28日(土) 解説 伊藤 匡 (当館学芸課長)
- ②2月4日(土) 解説 坂本篤史 (当館副主任学芸員)
- ③2月11日(土) 解説 伊藤 匡 (当館学芸課長)
- ④2月18日(土) 解説 伊藤 匡 (当館学芸課長)
- ⑤2月25日(土) 解説 伊藤 匡 (当館学芸課長)
- ⑥3月4日(土) 解説 荒木康子 (当館専門学芸員)
- ⑦3月11日(土) 解説 荒木康子 (当館専門学芸員)
伊藤 匡 (当館学芸課長)

b スペシャル・ギャラリートーク

- 日時 1月21日(土)
- 解説 杉浦 聡氏 (郡山市立美術館学芸員)

4 調査研究事業

(1) 調査研究

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施している。

今年度は県内の美術品調査と、第二次世界大戦後に活躍した作家の調査を重点的に行った。

5 普及事業

美術をより深く知る喜びを得る機会を提供する事業として、さまざまな講座を開催している。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、学校と連携しての出張講座等を行っている。

(1) 館内解説

学校や公民館その他の団体での鑑賞者のために、鑑賞前に学芸員が美術館の概要、鑑賞のマナー、代表的な収蔵作品の解説、常設展示や企画展示の概要等のガイダンスを行っている。

今年度の団体総数は264団体10,860人、そのうち解説を行ったのは124団体6,039人である。

(2) 鑑賞講座

館長講座「みちのくの美—その源流をたどる旅」

講師：早川博明 (当館館長)

- 第1回「青森県」 日時 平成28年5月 参加者 9名
- 第2回「秋田県」 日時 平成28年7月 参加者 28名
- 第3回「岩手県」 日時 平成28年9月 参加者 28名
- 第4回「山形県」 日時 平成28年11月 参加者 22名

第5回「宮城県」 日時 平成28年1月 参加者 14名

第6回「福島県」 日時 平成28年3月 参加者 19名

(3) 実技教室

実技教室は、広く県民各層の美術に関する関心をふまえ、美術創作と鑑賞の理解を深める一助とする目的で、各種プログラムを実施している。今年度は長期休館にともない福島市内の施設を会場として開催した。

ア 実技講座

(ア) 「大堀相馬焼をつくる」

期日 平成28年6月18日(土)、7月2日(土)

講師 半谷菊枝氏 (相馬焼窯元：半谷窯)

参加者 9名

(イ) 「粘土で表現する『首像制作』」

期日 平成28年10月9日(土)、16日(土)、23日(日)

講師 高野正晃氏 (彫刻家・武蔵野美術大学非常勤講師)

参加者 9名

(ウ) 「カシューを使って抽象表現に挑戦」

期日 平成28年12月17日(土)、平成29年1月14日(土)、21日(土)、28日(土)

講師 松本良子氏 (モダンアート協会会員)

参加者 18名

(エ) 「みんなで、大きな1りんの花を作ろう！」

期日 平成29年2月18日(土)

講師 コーチはじめ氏 (イラストレーター)

参加者 19名

イ 技法講座

(ア) 「オオカミを杉板に描こう！」

期日 平成28年5月29日(日)

講師 荒井 経氏 (日本画家、東京大学准教授)

参加者 22名

(イ) 「パズル式木版画を体験しよう」

期日 平成28年11月27日(日)、12月4日(日)

講師 丸山浩司氏 (版画家、多摩美術大学教授)

参加者 15名

(ウ) 「コラージュでつくるブックカバー」

期日 平成29年3月12日(日)

講師 佐藤洋美氏 (デザイナー、コラージュ作家)

参加者 14名

ウ 親と子の美術教室

(ア) 「コマ撮りアニメをつくってみよう！」

期日 平成28年5月21日(土)

講師 松村泰三氏 (東北芸術工科大学准教授)

参加者 小学生の親子3組7名

(イ) 「みんなで絵本をつくろう！」

期日 平成27年8月7日(日)

講師 加藤志異氏 (絵本作家)

参加者 小学生の親子10組23名

(ウ) 「クリスマスを彩るどうぶつライトをつくろう！」

期日 平成 28 年 12 月 11 日(日)

講師 冬野朋子氏 (PAPERMOON 主宰)

参加者 小学生の親子 8 組 17 名

エ 一日創作教室

(ア) 「絵封筒をつくろう！」

期日 平成 28 年 8 月 28 日(日)

講師 白木ゆう美 (当館学芸員)、

佐藤恵子 (当館スタッフ)、博物館実習生 6 名

参加者 81 名

オ わんぱくミュージアム

(ア) 「ものの表面採集をして、描いてみよう」

期日 平成 28 年 7 月 31 日(日)

講師 海老塚耕一氏 (美術家、多摩美術大学教授)

参加者 16 名

(イ) 「キラキラつやつや七宝焼きバッジに挑戦！」

期日 平成 28 年 11 月 13 日(土)

講師 白木ゆう美 (当館学芸員) 参加者 23 名

(4) 美術館・学校教育連携事業

ア 学校連携共同ワークショップ

学校からの要望をもとに平成 15 年度より開催する連携事業。こどもたちが作家と触れ合う機会として、作家・学校・美術館の共同による創作活動を中心とした「出張ワークショップ」を開催している。この事業により相互の協力関係を密にし、新鮮な体験を通して美術や美術館への関心を高めるとともに、通常は美術館を利用しにくい地域へも文化事業の還元を図る。

今年度は幼稚園・小・中・高校合わせて 14 校で開催した。ワークショップ作品は平成 28 年 12 月 20 日(火)～25 日(日)、および平成 29 年 1 月 7 日(土)～15 日(日)の期間、当館企画展示室 B にて活動中のスナップ写真とあわせて展示した。

(ア) 「『うち』をつくる」

講師 アサノコウタ氏 (建築家)

開催校および参加人数

学校法人堀内学園富岡幼稚園 参加者 22 名

二本松市立塩沢幼稚園 参加者 14 名

福島県立福島東高等学校 参加者：8 名

(イ) 「大地のえのぐで絵をえがこう！」

講師 佐藤 香氏 (土絵作家)

開催校および参加人数

川俣町立川俣南幼稚園 参加者 13 名

福島市立森合幼稚園 参加者 53 名

白河市立関辺幼稚園 参加者 21 名

学校法人松韻学園蓬莱もみじ幼稚園 参加 15 名

福島市立福島養護学校高等部 参加者 21 名

学校法人鏡石学園岡ノ内幼稚園 参加者 60 名

三春町立三春中学校 参加者 120 名

(ウ) 「ことばと絵の音」

講師 フライデースクリーン (アートユニット)

開催校および参加人数

福島市立金谷川幼稚園 参加者 12 名

二本松市立渋川小学校 参加者 22 名

会津若松市立第一中学校 参加者 19 名

会津若松市立第二中学校 参加者 8 名

イ 先生のための美術館入門

小学校区画工作、中学校・高等学校美術の鑑賞指導について講座を開講する福島県教育センターと連携しながら、学校における美術館の活用方法を考える。

今年度は、前期 (県教育センター) 後期 (当館) の 2 回に分けて開催した。

期日 平成 28 年 8 月 24 日(水)、11 月 10 日(木)

参加者 小学校教諭 6 名、中学校教諭 5 名 計 11 名

(5) 友の会、協力会との連携事業

ア 友の会通常総会

期日 平成 28 年 6 月 4 日(土)

会場 美術館講義室 参加者 20 名

イ 友の会美術鑑賞講座

「イタリア・ルネサンス美術散策」

期日 平成 28 年 11 月 13 日(土)、12 月 18 日(日)

平成 29 年 2 月 12 日(日)

講師 坂本篤史 (当館副主任学芸員) 参加者 90 名

ウ 友の会実技講座

「はじめてでも簡単～つくって楽しい、飾ってうれしい、回転式木版画制作～」

期日 平成 28 年 11 月 19 日(土)

講師 國島 敏 (当館主任学芸員) 参加者 5 名

エ 友の会研修旅行

「風の沢ミュージアム、大崎市民ギャラリー緒絶の館、宮城県美術館」

期日 平成 28 年 10 月 15 日(土)

参加者 酒井哲朗 (当館名誉館長)、

伊藤匡 (当館学芸課長) ほか 計 43 名

オ 友の会アートチャリティ・バザー

会期 平成 28 年 12 月 4 日(土)

会場 当館エントランスホール

カ ミュージアム・コンサート

福島県立美術館協力会、福島県立美術館友の会との共同開催によるコンサート。

「仙台フィルメンバーによる クワテュール・ディゼール演奏会～おしゃべりな弦楽四重奏～」

期日 平成 29 年 3 月 12 日(土)

会場 当館エントランスホール (参加無料)

演奏 神谷未穂氏 (ヴァイオリン)、小池まどか氏 (ヴァイオリン)、清水暁子氏 (ヴィオラ)、八島珠子氏 (チェロ)

(6) その他の事業

ア 県立図書館との連携事業「アートなおはなし会」

小学生とその保護者を対象にした、図書館での絵本の読み聞かせとワークショップ。

期日 平成 28 年 12 月 3 日(土)

参加者 8 組 17 名

イ 「いま、被災地から―岩手・宮城・福島の美術と震災復興―」展の開催

東日本大震災から 5 年が経過したことを機に、被災地における美術館や博物館の被災状況と、文化財レスキューをはじめとする救援活動、そして現状の課題などについて報告。あわせて、岩手・宮城・福島県の代表的な美術作品を展示してその特質と魅力を紹介した。

会期 平成 28 年 5 月 17 日(火)～6 月 26 日(日)

会場 東京藝術大学大学美術館

主催 東京藝術大学、全国美術館会議、岩手県立美術館、宮城県美術館、福島県立美術館

ウ 館外での活動

(ア) 委員の委嘱等

- ・いわき市立美術館収集評価委員(荒木康子専門学芸員)
- ・福島市写真美術館運営委員(堀宜雄専門学芸員)
- ・裏磐梯猪苗代フォトコンテスト審査員(堀宜雄専門学芸員)
- ・宇都宮美術館収集評価委員(増渕鏡子主任学芸員)
- ・相馬市史調査編さん委員(増渕鏡子主任学芸員)
- ・須賀川市歴史文化基本構想策定委員(増渕鏡子主任学芸員)
- ・一般財団法人可月亭庭園美術館評議員(増渕鏡子主任学芸員)
- ・福島大学「芸術による地域創造研究所プロジェクト」客員研究員(増渕鏡子主任学芸員、國島敏主任学芸員)
- ・西会津国際芸術村公募展審査員(坂本篤史副主任学芸員)

(イ) 寄稿、発表、受賞等

- ・『奥州二本松』歴史春秋社 2016 年 12 月(共著 堀宜雄専門学芸員)
- ・三重県立美術館講演会「ベン・シャーン 一篇の詩の最初の言葉が生まれるまで」2016 年 9 月 18 日(荒木康子専門学芸員)
- ・岡山県立美術館講演会「国吉康雄と福島県立美術館コレクション」2016 年 10 月 16 日(荒木康子専門学芸員)
- ・目白大学社会学部メディア表現学科公開講演会「福島県立美術館のこれまで、そして今考えること」講師 2016 年 11 月 23 日(荒木康子専門学芸員)
- ・森のはこ舟アートプロジェクト「絵画やスケッチを通してみる磐梯山」講師 2016 年 10 月 1 日、2 日(増渕鏡子主任学芸員)
- ・東京文化財研究所オープンレクチャー「よみがえるオオカミ―飯館村山津見神社・天井絵の復元をめぐる―」講師 2016 年 11 月 4 日(増渕鏡子主任学芸員)
- ・第 28 回倫雅美術奨励賞(増渕鏡子主任学芸員:「小川千穂展―縦横無尽に生きる―」展覧会企画およびカタログ執筆)

第14節 福島県立博物館

1 概要

福島県立博物館は、資料収集・展示・調査研究・教育普及事業を中心に、内容の充実を図っている。平成28年度の博物館活動の概要は次のとおりである。

(1) 運営協議会

ア 委員

学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者10名に委嘱している。平成13年1月からは、委員の選考に一部公募方式を導入した。

学校教育	鈴木 充子	いわき市立長倉小学校
	三輪 晶子	郡山市立高瀬中学校長
	加藤 知道	県立会津学鳳中学校・高等学校長
社会教育	遠藤 俊博	(公財)福島県文化振興財団理事長
	鈴木 静人	いわき市中央公民館長
学識経験者	佐藤彌右衛門	合資会社 大和川酒造店代表社員
	長尾 修	県立博物館友の会幹事長
	一ノ瀬美枝	会津若松市教育委員会委員
	大友 靖子	家庭教育インストラクター 一連絡協議会理事
	齋藤 陽子	公募委員

イ 会議

第1回 平成28年7月7日(木)

議題

- ①副会長の選出について
- ②平成28年度の事業について
- ③中期目標の達成状況について
- ④入館状況について

第2回 平成29年2月23日(木)

議題

- ①平成28年度事業の概要について
- ②平成28年度実績中期目標(1月末現在)について
- ③平成29年度事業概要について

2 資料収集事業

(1) 収集展示委員会

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12人を委嘱している。

ア 収集展示委員会委員

氏名	役職名	備考
有賀祥隆	東北大学名誉教授	委員長
野沢謙治	郡山女子大学短期大学部文化学科教授	副委員長
入間田宣夫	一関市博物館館長	委員

大石雅之	岩手県立博物館研究協力員 東北大学総合学術博物館協力研究員	委員
岡田清一	東北福祉大学教授	委員
佐々木利和	北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員教授	委員
設楽博己	東京大学大学院人文社会系研究科教授	委員
原田一敏	東京芸術大学大学美術館教授	委員
三上喜孝	国立歴史民俗博物館准教授	委員
村川友彦	福島県史学会会長 元福島県歴史資料館課長	委員
柳田俊雄	東北大学名誉教授 東北大学総合学術博物館協力研究員	委員
玉川一郎	福島県考古学会会長	委員

イ 会議

平成28年8月4日(木)

議題

- ①今後3年間の展示計画について
- ②平成29・30年度開催予定企画展等について
- ③資料収集事業について

(2) 受贈・受託

ア 歴史資料

(ア) 受贈

江戸幕府老中返礼ほか 2件 個人
刀(表銘「陸奥大塚三善長道」)ほか3件 個人
柳津参詣図・土津神社参詣図屏風 1件 個人

(イ) 受託

鶴城風雅集 4件 個人
伊達政宗書状 1件 個人
大須賀清光筆「高砂図」ほか 2件 個人
藤田家関係写真 7件 個人
相馬藩士木幡家文書 1件 個人
松平容保和歌「冬日詠早梅」ほか1件 個人

イ 美術資料

(ア) 受贈

打敷ほか 3件 個人
津田徳民「養老の滝図蒔絵盃」ほか2件 個人
唐草蒔絵でんぶ台ほか 2件 個人
佐竹永海・遠藤香村・蒲生羅漢筆「松竹梅図」 1件 個人
漆器(膳・椀類)ほか 4件 個人

(イ) 受託

浦上秋琴「山水図」ほか 5件 個人
長尾家屋敷繪圖屏風 1件 個人
岩浅松石筆「十二月月図屏風」 1件 個人
佐藤玄玄「観音図」ほか 27件 個人
牡丹花鳥文染付土瓶ほか 10件

ウ 民俗資料

(ア) 受贈

パラシュート生地に着物	1件	個人
蚊帳ほか	12件	個人
唐箕ほか	13件	個人
山口弥一郎関連資料	28件	個人
島台ほか	4件	個人
柳行李ほか	9件	個人
男性用羽織ほか	4件	個人
笹川のあばれ地蔵写真パネル	1件	個人
微細彫刻	1件	個人
西会津町萱本のお人形様	1件	個人
大福帳ほか	2件	個人
錫杖	1件	個人
ハーモニカ	1件	個人
足踏みミシンほか	12件	個人
五月飾り	1件	個人
木炭ほか	2件	個人
宝舟ほか	18件	個人
エ 考古資料		
(ア) 受 贈		
土器片(岩谷遺跡出土)ほか	2件	個人
オ 自然資料		
(ア) 受 贈		
堀口層産動物化石	1件	個人
只見町野々沢布沢層産植物化石ほか	8件	個人
南極観測関係資料	5件	個人
(イ) 受 託		
梁川層産貝類化石	20件	
伊達市教育委員会教育長 アンモナイト化石 Haploceras spp	1件	個人
(3) 購 入		
ア 歴史資料		
大橋醒仙来簡集	1件	
イ 美術資料		
鶴川家所蔵 森川家旧蔵会津茶道資料及び会津本郷焼 資料	4件	
ウ 自然資料		
デボン紀植物化石ほか	13件	

3 保存管理事業

(1) 資料の収蔵

ア 博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数の、現在までの累計を示す。件数は概数であり、「一括」で受け入れた資料も1件と数える。

収蔵資料数 (平成29年3月31日現在)

分野	件数	備 考
考古	20,412	土器・石器・金属器ほか
民俗	13,404	生活・生業・交通・信仰・芸用具ほか
歴史	22,186	書籍・文書資料ほか
美術	6,481	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自然	49,481	化石・岩石・鉱物ほか
合計	111,964	

イ 図書および映像資料

(ア) 収蔵図書数 (平成29年3月31日現在)

考古分野：26,546冊 民俗分野：4,809冊
歴史分野：10,410冊 美術分野：4,197冊
自然分野：16,897冊 保存分野：1,714冊
その他：55,594冊 合計：120,167冊

(イ) 収蔵映像資料数 (平成29年3月31日現在)

収蔵映像資料総数：1,370点

(2) 登録・整理

ア 資料管理システムの運用

平成25年度中に、それまでのサーバクライアント方式による資料管理システムに換えて、新たにASP方式の博物館資料管理専用システムである早稲田システム開発株式会社製 I.B. Museum SaaS を導入した。新システムは県教育委員会のFKS回線を介してインターネットに接続した端末パソコンより使用するものとし、それまで使用してきた資料管理システム専用LAN回線はFKS回線に一本化した。

新システムでは多数のデータの一括登録や一括修正が可能となり、また、経年的なランニングコストが削減された。更に、インターネット上での資料情報の外部公開が可能となった。

資料管理システム本来の目的である資料の登録および資料情報の外部公開に関しては運用が軌道に乗り、各種登録作業などがほぼ順調に進められるようになった。しかし運用が本格化するにつれ、使用中に発見される書式や登録方法の設定ミス等は引き続き散見され、これらはそのつど修正に努めており、自力で修正出来ないものについては内容を書き出して、一括して早稲田システムに修正を依頼する必要がある。また、有償の改修が必要な一部項目の再構成については、予算措置を待って改修する予定である。

イ 資料の登録・資料情報の外部公開

整理が終了した資料のデータを資料管理システムに入力し、資料の登録を行った。表中の数値は登録済み資料の件数を示す。また、システムの資料情報外部公開機能を使用し、インターネット上で公開する所蔵資料情報を新たに追加した。資料情報の外部公開数は平成28年度中

期目標の評価指標を達成したが、資料の登録数は、わずかに目標に及ばなかった。引き続き資料情報の外部公開において検索機能をより使いやすく改良することが望まれるが、システムがASP方式であるため実施可能な修正に制限があり、相当の工夫と時間が必要となる。

登録資料数・資料情報の外部公開数

(平成29年3月31日現在)

資料類別	登録資料 (平成28 年度)	登録資料 (累計)	資料情報 の外部公 開 (平成28 年度)	資料情報 の外部公 開 (累計)
考古資料類	216	12,034	1,001	2,763
民俗資料類	217	14,030	1,016	2,397
歴史資料類	283	41,041	1,460	6,236
美術工芸品類	4	6,228	0	23
自然標本類	203	24,690	2,539	9,183
合計	923	98,023	6,016	20,602

(3) 貸出

ア 博物館資料

貸出資料一覧

資料名	貸出先	貸出期間	展覧会名
新島八重再現ドレス	かわまたおりもの 展示館	平成28年4月12日～6 月8日	「川俣シルクを使った 八重の桜衣装展」
ハドロサウルス類 (ヒロノリュウ) の頸椎 1点 ハドロサウルス類 (ヒロノリュウ) の歯 1点	北九州市いのちの たび博物館 大阪文化館	平成28年6月21日～平 成29年1月30日	「恐竜博2016」
紙本著色蒲生氏郷像 1幅 織田信長黒印状 1幅	滋賀県立安土城考 古博物館	平成28年4月8日～6月 25日	「信長の家臣たち」
九曜紋散懸盤 1基 九曜紋散三方 1基	南相馬市博物館	平成28年4月中旬～6 月下旬	「文化財にみる市制10 年の歩み―震災からの 心の復興―」
菊漆絵提重 1組 黒塗三段重箱 1組	スペース・アルテマ イスター	平成28年4月中旬～5 月下旬	第一回 会津漆と暮ら す「お弁当のある暮ら し」展
でんぶ台 2基 丸盆 1枚	奥会津博物館伊南 館	平成28年5月上旬～11 月初旬	常設展示
萱野権兵衛宛松平容保及び照姫書状類(当館受託資料) 4点	若松城天守閣郷土 博物館	平成28年9月1日～11 月30日	企画展「松平容保」
雪村周継筆「竹に鳩図」 1幅 雪村周継筆「蔬果図」 1幅 雪村周継筆「瀟々八景図帖」(当館受託資料)1帖	東京藝術大学大学 美術館 MIHO MUSEUM	平成29年2月中旬～9 月下旬	「特別展 展雪村 ― 奇想の誕生―」

ウ ボランティア

博物館資料の整理のため、次の通り資料整理ボランティアを受け入れ、資料の整理を行った

(ア) 自然資料整理

桑原 功 特集展「収蔵庫からこんにちは」の展示設
営協力1日

星総一郎 星総一郎氏寄贈化石標本の整理延べ3日

特集展「収蔵庫からこんにちは」の展示設営協力1日

(イ) 古文書整理

古文書整理ボランティア登録者のうち10名が延べ
54日参加し、松崎達夫家文書の整理作業(表題・年
代・法量などのデータ採取)を行った。終了したの
は191点。参加者は五十嵐晴日子、大堀義子、小関
栄助、小檜山裕二、佐藤敏子、佐藤紀子、佐野喜惣
次、庄司孝雄、鈴木清二、星弘明の諸氏。

貸出資料一覧

資料名	貸出先	貸出期間	展覧会名
浦上玉堂筆「青山弾琴図」 1幅 浦上秋琴筆「春景山水図」 1幅 浦上秋琴筆「秋溪独釣図」 1幅 浦上秋琴筆「山水図(為鷗降中田史兄)」 1幅 浦上春琴筆「白衣観音図」(当館受託資料) 1幅 浦上秋琴筆「四季山水図」(当館受託資料) 4幅 浦上春琴筆「双峰臨流図」(当館受託資料) 1幅 浦上秋琴筆「山水図」(当館受託資料) 1幅 浦上秋琴筆「山水図」(当館受託資料) 1幅 「浦上系図」(当館受託資料) 1幅 佐野龍雲「玉堂先生肖像」(当館受託資料) 1幅 『龍笛譜』(当館受託資料) 1冊 『箏譜 黄盤太』『箏譜 黄盤太』(当館受託資料)2冊 『横笛假名譜 龍笛假名譜』(当館受託資料) 1冊 『亂聲 音取 品玄 入調 三鼓』(当館受託資料) 1冊 『(壹越調 平調 他)』(当館受託資料) 1冊 浦上秋琴日記・書状 1巻	岡山県立博物館 千葉市美術館	平成28年9月中旬～12 月下旬	「文人として生きる 浦上玉堂と春琴・秋琴 父子の芸術」
火頭巾 1領 九戸出陣陣立書(天正19年) 1幅 蒲生記(乾坤) 2冊 梁川城本丸庭園跡復元模型 1点	福島県文化財セン ター白河館	平成28年9月13日～平 成29年1月20日	まほろん15周年記念指 定文化財展「城跡の考 古学」
(天正18年)11月10日付け蒲生氏郷書状 1幅(天正19年) 7月13日付け蒲生氏郷法度条目 1幅芦名氏家来筋宿老 中老近習外様衆記 1冊木造蘆名盛氏坐像(複製) 1軀 塵芥集(複製) 1冊	米沢市上杉博物館	平成28年9月20日～12 月10日	特別展「伊達氏と上杉 氏一館山城跡国史跡指 定記念一」
でんぶ台 2基 丸盆 1枚	奥会津博物館伊南 館	平成28年11月1日～平 成29年11月上旬	常設展示
ワーゲノセララス 1点 サラッソセララス 1点 サブディコトモセララス 1点 ヒボノチセララス 1点 パキスフィンクテス 1点 メソプゾシア 1点	ミュージアムパー ク茨城県自然博物 館	平成28年12月15日～ 平成29年6月30日	企画展「アンモナイト ・ワールドー恐竜時代 の海へいこうー」
荒屋敷遺跡出土脚付鉢(漆塗り) 1点 荒屋敷遺跡出土縄類 1点 荒屋敷遺跡出土籠類 1点 荒屋敷遺跡出土籠類 1点 荒屋敷遺跡出土籠類 1点	福島県文化財セン ター白河館	平成28年12月23日～ 平成29年2月12日	歴史再発見事業資料展 「手仕事ふくしまー編 み組技術」
三角縁神獣鏡模造品 1点	会津若松市歴史資 料センター	平成29年2月5日	会津大塚山古墳ワー クショップ
十二天図旧軸木(恵日寺旧蔵) 慶長六年銘 1点 延宝三年銘 1点	磐梯町磐梯山慧日 寺資料館	平成29年3月29日～12 月5日	常設展示

イ 写真資料

総数：126件238点

考古：22件 65点 民俗：7件17点

歴史：73件127点 美術：20件22点

自然：4件 7点

(4) 保存管理

収蔵資料を適切に保存するため、収蔵庫および展示室
など主要箇所での保存環境の定期調査、新規収蔵資料の生
物被害防除を実施している。

ア 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫

(一時、第1～第6収蔵庫)、エントランスホール
、体験学習室、講堂、事務室、会議室、研究室、図書
室、空調機械室など主要なスペースについて昆虫、室
内塵埃中昆虫、空中浮遊菌、空中浮遊塵埃数、化学物
質(環境モニター、ホルムアルデヒド、酢酸、アンモ
ニアの気中濃度)及び温度、湿度、照度等について調
査を行った。

調査は季節による生息害虫等の状況を確認するため
11月23日～12月22日、2月10日～3月1日の2回にわたり
実施した。

イ 生物被害防除

8月、9月、10月に各1回、新収蔵資料などを対象に燻蒸処理を実施した。燻蒸処理件数は、合計151件であった。平成27年度に燻蒸設備の故障が判明してから館内で燻蒸処理をできないため、平成28年度はトラックの荷台内部にビニールシートを貼り付けて、仮設の被覆とした。

4 展示事業

(1) 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々の暮らしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間の6つのテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。平成21年度から、常設展示室内においてテーマ展・ポイント展を実施している。

ア テーマ展

常設展示室内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として実施した。平成28年度が8年目である。全5回実施。うち「五幅対に見る絵師」は春の企画展の関連展として開催。「100年カエル館コレクション展 かえる曼陀羅～100年カエル館から河竹登志夫さんへのオマージュ～」では関連講演会も開催した

- ①「ふるさとの考古資料6【飯館村】遺跡探訪」
(部門：考古展示室)

平成27年6月20日(土)～平成29年5月14日(日)

- ②「五幅対に見る絵師」(部門：歴史美術展示室)
平成28年4月16日(土)～6月19日(日)
- ③「けんぱくの宝1」(部門：歴史美術展示室)
7月5日(火)～8月28日(日)

- ④「100年カエル館コレクション展 かえる曼陀羅～100年カエル館から河竹登志夫さんへのオマージュ～」(部門：歴史美術展示室)

9月10日(土)～11月10日(木)

関連講演会

「カエルに惹かれる理由とカエルグッズを集める楽しみ」

講師：高山ピッキさん(100年カエル館)

日時：11月5日(土) 13時30分

会場：当館講堂

- ⑤「けんぱくの宝2」(部門：歴史美術展示室)
11月22日(火)～平成29年1月22日(日)

イ ポイント展

常設展示室内において、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として実施した。平成28年度が8年目である。全14回実施。うち「会津年中行事屏風」は春の企画展の関連展として開催。「手塚治虫の漆絵皿」は会津若松市歴史資料センター「まなべこ」との連携事業として実施した。

- ①「会津年中行事屏風」(部門：民俗展示室)

- 4月22日(金)～6月19日(日)
- ②「落下傘で作った着物」(部門：民俗展示室)
6月22日(水)～8月17日(水)
- ③「ふくしまの戦争資料」(総合：近現代展示室)
7月16日(土)～8月21日(日)
- ④「手塚治虫の漆絵皿」(展示ロビー)
7月29日(金)～8月21日(日)
- ⑤「いろいろな“箕(み)”集まれ！」(部門：民俗展示室)
8月19日(金)～11月30日(水)
- ⑥「収蔵資料にみる戦国の群雄」
(総合：中世展示室)
9月6日(火)～10月23日(日)
- ⑦「初公開 斎藤一の肖像写真」(展示ロビー)
9月14日(水)～9月30日(金)
- ⑧「只見町野々沢の化石」(展示ロビー)
9月22日(木・祝)～10月23日(日)
- ⑨「ふくしまの教育」(総合：近現代展示室)
10月22日(土)～11月13日(日)
- ⑩「ふくしま最古の化石」(展示ロビー)
10月25日(火)～11月27日(日)
- ⑪「近世に書かれた中世の城絵図」
(総合：中世展示室)
10月25日(火)～12月18日(日)
- ⑫「むかしの道具～ご飯をつくる・おいしくたもつ～」
(部門：民俗展示室)
12月2日(金)～平成29年3月1日(水)
- ⑬「流す雛人形・飾る雛人形」(部門：民俗展示室)
平成29年3月3日(金)～3月30日(木)
- ⑭「猪苗代湖の水利用」(総合：自然と人間)
平成29年3月3日(金)～3月31日(金)

(2) 特別展

ア 「新たな国民のたから－文化庁購入文化財展」

文化庁は国宝・重要文化財の指定をはじめ、文化財の保存と活用に関する様々な事業を行っている。その中に貴重な国民の「たからもの」である文化財が散逸したり、海外に流出したりすることを防ぐため、国が文化財を購入する事業がある。これによりこれまで多くの文化財が国の所有するところとなり、国立博物館や各地の博物館における展覧会で活用されている。また国民に文化財の鑑賞の機会を提供するため「新たな国民のたから展」として、近年国が購入した作品の一部やこれまでに国が購入し所蔵する文化財を公開承認施設で展覧する事業も毎年行っている。

平成28年度は福島県立博物館を会場に文化庁と共催するところとなり、当館の開館30周年を記念する特別展示として常設展観覧料で観覧できることとした。

- (ア) 会期 9月3日(土)～10月2日(日)

開館日数：26日間

- (イ) 会場 福島県立博物館企画展示室

- (ウ) 入館者数 11,077人

- (エ) 担当学芸員 高橋満

(オ) 趣 旨

受け継がれてきた日本文化や文化財の多様性を再発見する機会とする。とくに会津・福島県・東北地方・東日本にゆかりのある文化財を紹介して東日本大震災からの復興を祈念する意味合いを込める。そして国宝・重要文化財やこれに準ずる優れた美術品を多数展示し、普段なかなか目にすることができない価値ある文化財に接する機会を広く提供する。

(カ) 展示構成

- a 祈りの形 古代から鎌倉時代の多様な信仰の姿を多様な考古資料および仏像・経典・仏画等で紹介し震災からの復興を祈念する。
- b 武士の時代と文化戦いの道具を芸術品の域まで高めた精神性、漆工芸の粋を集めた婚礼調度品、中世社会の場面を示す古文書、「クールジャパン」と評価される日本文化の代表例として能と茶の湯の世界を取りあげ、日本文化の基底の一つをなす武士の時代の文化財を紹介する。以下の5つの小テーマで展開する。①武具の美 ②文字が語る中世 ③婚礼調度 ④能の世界 ⑤茶の湯

- c 受け継がれる文化・芸術王朝文化の代表とされる和歌や物語ものが、教養・憧憬・鑑賞の対象として多様に姿を変えて中世・近世へ伝えられ、その主題が新たな文化・芸術作品として受け継がれてきた歴史を古筆や絵画等にみる。

出品点数43件（国宝1件、重要文化財25件、重要美術品1件を含む）

主な展示品 国宝 太刀 銘正恒 一口 重要文化財 群仙図（曾我蕭白筆）六曲一双、木造阿弥陀如来坐像一躯、松藤文兵庫鎖太刀拵一口、太刀銘守次革包太刀拵一腰、小袖繡箔風景四季花文一領、色絵若松図茶壺仁清作一口、松尾社法楽和歌一卷、流水文銅鐸一口

(キ) 関連事業

- a オープニングセレモニー（主催者あいさつ・来賓あいさつ・ゲスト紹介・テープカット）

日時：9月3日（土） 9時30分～

会場：エントランスホール

列席：今井敦氏（文化庁主任調査官）、角屋由美子氏（米沢市上杉博物館学芸員）、芳賀幸雄氏（福島県立博物館友の会会長）、山田英一（当館副館長）

- b ギャラリートーク

案内：今井敦氏（文化庁主任調査官）、横須賀倫達氏（文化庁調査官）、高橋満・塚本麻衣子（当館学芸員）

日時：9月3日（土） 10時～

会場：企画展示室

- c 講演会

演題：「上杉景勝御手撰三十五腰」とは何か？

講師：角屋由美子氏（米沢市上杉博物館学芸員）

日時：9月3日（土）13時30分～15時

会場：博物館 講堂

(3) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、期間を限定して開催している。平成28年度は、歴史分野が企画した展示を春に開催した。福島県立博物館は季節毎に年間の展示のコンセプトを設定している。春は、会津をテーマにした展示をとおして会津の魅力を再発見できるような内容を基本コンセプトとしている。

ア 春の企画展「幕末！若松！喜知松？ 大須賀清光の屏風絵と番付」

(ア) 会 期 4月23日（土）～6月12日（日）

開館日数 45日間

(イ) 会 場 福島県立博物館企画展示室

(ウ) 入館者数 2,907人

(エ) 担当学芸員 歴史分野：阿部綾子

(オ) 趣 旨

幕末に活躍した若松在住の町絵師・大須賀清光（1809～75）の作品を可能な限り集めた展覧会。代表作である一連の「若松城下絵図屏風」は若松城下を鳥瞰的に描いた作品で、同構図で撮影した現代の航空写真をならべて展示し、清光の仕事がいかに丹念に行われていたかを証明した。他にもさまざまな画題の屏風作品や、番付など一連の著作物もあわせて紹介し、パリエーションに富む手法で幕末会津を大胆かつ繊細に切り取って今に伝えている清光の魅力にせまった。

(カ) 展示構成

プロローグ 謎の絵師誕生

第一章 本領發揮、若松城下絵図屏風

第二章 注文された屏風たち—さまざまな画題の大作—

第三章 挿絵から番付まで！—ゆかりの小作品—

エピローグ 最期の仕事

出品点数 若松城下絵図屏風、追鳥狩図屏風、松下群鶴図屏風、賤ヶ岳戦陣図屏風、蛤御門の変図屏風、江戸城登城風景図屏風、万民心の鑑、鶴城風雅集など54点

(キ) 関連事業

a 記念講演会「江戸城登城風景図屏風をよみとく—江戸の名所“下馬先”とは何か—」

日時：6月12日（日）13時30分～15時

講師：岩淵令治氏（学習院女子大学教授）

場所：講堂

b こども向けイベント「めざせ江戸！清光の絵で道中すごろく」

日時：5月3日（火・祝）①10時30分 ②13時30分

講師：当館学芸員

場所：体験学習室

c こども向けイベント「みんなで仕上げる清光作品 若松城下ドリームプラン」

日時：5月4日（水・祝）13時30分～15時

講師：当館学芸員

場所：実習室

d 一般向け講座「江戸の番付で良妻チェック」

日時：5月15日（日）13時30分～14時30分

講師：阿部綾子（当館学芸員）

場所：実習室

e 一般向け講座「清光の挿絵で読む！メイドイン会津の教訓書」

日時：5月28日（土）13時30分～14時30分

講師：阿部綾子（当館学芸員）

場所：講堂

f 展示解説会

日時：4月23日（土）10時～ 5月15日（土）14時30分～ 5月28日（土）14時30分～ 6月11日（土）13時30分～

講師：阿部綾子（当館学芸員）

場所：企画展示室

（4） 特集展

特集展は、新しく収集した寄贈・寄託資料を中心に、特定のテーマに基づいて一定の期間開催する展示会である。平成28年度は、夏に開催した自然分野の特集展「南極の自然と南極観測」に加え、開館30周年記念事業の一環として、秋に分野合同で「収蔵庫からこんにちは」第2期中期目標で掲げている次世代ミュージアム機能の充実を図る活動として冬に「はま・なか・あいつ文化連携プロジェクト成果展」および「震災遺産を考える」の合計4本の特集展を企画展示室にて開催した。福島県立博物館は、企画展示と特集展に関して、季節毎に年間の展示のコンセプトを設定している。夏は、学校の夏休みの時期に、子どもたちが興味を持ち、家族や親子で楽しめる内容。秋は、福島をテーマにした展示をとおして県民が広く文化や歴史に親しむ機会を提供する内容。冬は東日本大震災や復興に関連する内容。

企画展示のように特別の観覧料金を設定せずに、特集展ごとに常設展観覧料で観覧できるか、無料で観覧できるように対応した。

ア 特集展「南極の自然と南極観測」

（ア）会 期 7月16日（土）～8月21日（日） 開館日数：32日間

（イ）会 場 福島県立博物館企画展示室

（ウ）入館者数 5,039人

（エ）担当学芸員 自然分野：相田優

（オ）趣 旨

この特集展は、県民に対し、南極の自然や南極観測隊の活動について理解を深め、地球の未来に目を向ける機会を提供することを目的として企画した。同時に夏休み期間中の子どもたちに自由研究のテーマを提供することもねらいとした。世代を問わず多くの県民に楽しみながら地球の自然と環境、その未来について考えてもらう機会を提供するものとした。

当館では、本県南相馬市出身の元南極観測隊員で元日本大学教授の小元久仁夫氏より、多数の南極観測関

連の資料の寄託を受けている。展示はこれらの資料を基本として構成したが、全体としてバランスの取れた展示を構成するために、国立極地研究所、国立科学博物館などからも資料・標本を借用し併せて展示した。

（カ） 主な展示資料

南極の岩石、鉱物、化石、風食岩、氷河擦痕、アザラシはく製、ペンギンはく製、魚類、藻類、隕石、観測機材、南極の氷 など
出品点数150点

（キ） 関連事業

a 記念講演会：演題「南極観測と基地生活の思い出」

日時：8月7日（日）13時30分～14時30分

場所：講堂

講師：元日本大学教授・元南極観測隊員 小元久仁夫氏

b 映画会

（a）「大いなる南極大陸」

日時：7月31日（日）13時30分～14時30分

場所：講堂

（b）「南極大陸の新たな幕開け」「白い大陸からのメッセージ」

日時：8月13日（土）13時30分～14時30分

場所：当館講堂

c 展示解説会

（a） 講師：小元久仁夫氏

日時：8月7日（日）15時～16時

場所：企画展示室

（b） 講師：当館学芸員

日時：7月23日（土）、30日（土）、8月14日（日）13時30分～14時30分

場所：企画展示室

d 展関連イベント：アクアマリンふくしま移動水族館 アクアラバン展示

日時：8月21日（日）11時～15時

場所：当館正面前（野外）

イ 特集展「開館30周年記念 収蔵庫からこんにちは—福島県立博物館収蔵名品展—」

（ア）会 期 10月15日（土）～11月27日（日）

開館日数：36日間

（イ）会 場 福島県立博物館企画展示室

（ウ）入館者数 3,952人

（エ）担当学芸員 内山大介・各分野担当学芸員

（オ）趣 旨

福島県立博物館の開館30周年を記念する特集展として、開館記念式典の行われた10月15日を皮切りに開催された。今回の展示は、全体として収蔵品を中心に学芸員選りすぐりの逸品を紹介すること、そして30年間の博物館のあゆみを皆さんに知っていただくことをコンセプトに構成した。

（カ） 展示構成

a 博物館を支えるしごと —調査研究30年の足あと・はじめに・・・原山1号墳・・・あり！

- ・こわれた古墳時代の象嵌から見つけた作り方
- ・心にふれる一手紙でひもとく歴史
- ・自然部門展示室事始め フタバクジラが辿った歴史

b 災害を乗り越える 一祈りと記憶を未来へ

- ・救い出された絵馬と祈り
- ・よみがえれ 祝いのうつわ
- ・震災の記憶をつなぐ
- ・被災文化財保全の取り組み

c 〈昭和・平成〉博物館ものがたり

- ・30年の世相と博物館のあゆみ
- ・展覧会いま・むかし
- ・博物館の顔—展示解説員制服コレクション
出品点数150件

(キ) 関連事業

a 学芸員リレー解説会 (全3回)

日時：各回とも13時30分～15時30分

10月16日(日) 担当分野／考古・保存・歴史・民俗・震災

11月3日(木・祝) 担当分野／自然・歴史・美術・震災

11月13日(日) 担当分野／考古・保存・自然・歴史・民俗・震災

講師：当館学芸員

場所：企画展示室

b 食のイベント「祝いの器・寿ぎの食」

日時：10月21日(金) 14時30分～16時30分

講師：中山晴奈氏(フードアーティスト)・平出美穂子氏(郷土料理研究家)

場所：レストラン

参加費：500円(材料費)

協力：食とものづくりスタジオFERMENT

c 記念講演会「原山一号墳の発掘調査」

日時：10月29日(土) 13時30分～15時

講師：辻秀人氏(東北学院大学教授)

場所：講堂

d トークイベント「祝いのうつわ～漆の力～」

日時：11月26日(土) 13時30分～15時

講師：鞍田崇氏(哲学者・明治大学准教授)／小林めぐみ(当館学芸員)

場所：企画展示室

e 解説会&トークイベント「絵馬からよみとく地域の歴史」

日時：11月27日(日) 13時30分～15時

講師：「須賀川知る古(しるこ)会」の皆さん／内山大介(当館学芸員)

場所：企画展示室

ウ 特集展「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展」

(ア) 会期

第1会場：2月4日(土)～4月11日(火) 開

館日数：57日間(3月31日時点で48日間)

第2会場：2月11日(土・祝)～4月11日(火) 開

館日数：51日間(3月31日時点で42日間)

(イ) 会場

第1会場：福島県立博物館常設展部門歴史美術展示室

第2会場：福島県立博物館企画展示室

(ウ) 入館者数 3,616人(3月31日時点では2,596人)

(エ) 担当学芸員 川延安直・小林めぐみ・塚本麻衣子

(オ) 趣旨

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から5年を迎え、その記憶も薄れつつある。しかし、巨大地震と原子力発電所事故が福島に限らない課題であることはこの国の多くの人が共有し続けなければならない課題である。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトは、文化・芸術の視点から2011年以降福島が抱えている課題に向き合ってきた。地域に新たなアートを定着させ、アーティストとともに被災地の記憶をとどめ、未来そのものである子供たちにアートワークショップを通じて触れあってきた。2011年以降の福島を伝え、ともに考えることを目的に制作されたはま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの成果作品を展示し、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの5年間の成果をまとめて公開した。

(カ) 展示構成

岡部昌生「被爆樹×被曝し続ける樹、他」【フロタージュ作品】、片桐功教「sacrifice」【写真作品】等、出品点数約100点

(キ) 関連事業

a トークセッション「アートでつなぐはま・なか・あいづ 震災とアート、そして対話」

講師：赤坂憲雄(当館館長/はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会委員長)

川延安直(当館学芸員)

日時：平成29年2月23日(木) 13時30分～15時

会場：講堂

b ギャラリートーク

講師：川延安直・小林めぐみ・塚本麻衣子(当館学芸員)

日時：平成29年2月26日(日)、3月26日(日)
各13時30分～14時30分

会場：展示室

エ 特集展「震災遺産を考える～6本の年輪～」

(ア) 会期 平成29年2月11日(土・祝)～4月11日(火)
開館日数：51日間(3月31日時点で42日間)

(イ) 会場 エントランスホール・企画展示室

(ウ) 観覧者数 3,616人(3月31日時点では2,596人)

(エ) 担当学芸員 森幸彦・栗原祐斗

(オ) 趣旨

ふくしま震災遺産保全プロジェクトは、東日本大震災を「歴史」と位置づけ、震災が産み出したモノや震災を示すパシヨを「震災遺産」と名付けて、収集・保全、そして公開する取り組みを平成26年から実施してきた。本展示では、これまでに収集・保全した震災遺産からふくしまが経験した東日本大震災を振り返り、未来のふくしまについて考える機会にしようとして実施し

たものである。

(カ) 展示構成

- a あの日・あの時から
- b 断絶する「日常」
- c 思いがけない「未来」

出品点数 火災で溶けた街頭、富岡町災害対策本部のホワイトボード、東京電力女子サッカー部マリーゼのマスコットキャラクター「マリちゃん」の着ぐるみ、飯館村綿津見神社大杉の輪切り、津波で被災したJR常磐線の線路など107件

(キ) 関連事業

a 展示解説会

会期中に2回実施した。参加者は15名である。

b 「3Dデジタル震災遺構アーカイブ体験展示」

東北大学と連携して平成26年度から開始した県内所在震災遺構の3Dポイントクラウドデータ取得によるデジタル記録保存事業の成果を県内で公開する事業である。展示室内のブースにマーカーを設置し、最新技術MR(複合現実Mixed Realityの略)による3次元バーチャル映像をヘッドマウントディスプレイで閲覧する催しを3月10日(金)～3月12日(日)にかけて実施した。参加者は76名である。

c 柏崎市被災者サポートセンター「あまやどり」活動報告パネル展示

エントランスホールにおいて3月5日(日)から4月11日(火)にかけて実施し、展示初日には渡邊浩二氏と筑波匡介氏による解説会が行われた。参加者は17名である。

d トークセッション「県外避難者のいま」

講師：渡邊浩二氏(柏崎市被災者サポートセンター「あまやどり」)、筑波匡介氏(中越沖地震メモリアル「まちから」)

日時：3月23日(木) 13時30分～15時

東日本大震災の中で発生した福島第一原子力発電所の事故は、多くの県外避難者を発生させた。本トークセッションでは、新潟県柏崎市において避難者の訪問・見守り活動をしている柏崎市サポートセンター「あまやどり」の渡邊浩二氏にご講演頂いた。また、中越沖地震メモリアル「まちから」の筑波匡介氏には、中越地震および中越沖地震の経験を生かした防災教育・資料保全等の取り組み・実践についてご講演頂いた。参加者は64名である。また、トークセッション終了後に、エントランスホールに移動して柏崎市被災者サポートセンター「あまやどり」のパネル展示解説会が行われた。参加者は35名である。

e 参加型パネル展示「はじまりのごはん」

3.11オモイデアーカイブ・3がつ11にちをわすれないためにセンター(せんだいメディアテーク)が企画し、エントランスホールにおいて2月16日(木)から4月11日(火)にかけて実施した。この展示は東日本大震災発生翌日の朝ごはんの思い出や震災当時のことを付箋に記し、ブースに貼り付けていく参加型展示である。

(5) 共催展

他の機関・組織との連携の一環として、共催による展示会を開催している。「東日本大震災復興祈念～東北新聞五社事業協議会連携企画 藤森武写真展 みちのくの仏像」は、福島民報社主催、当館共催という形で開催した。

ア 共催展「東日本大震災復興祈念～東北新聞五社事業協議会連携企画 藤森武写真展 みちのくの仏像」

(ア) 会期 8月30日(火)～10月2日(日)

開館日数：29日間

(イ) 会場 福島県立博物館エントランスホール

(ウ) 入館者数 3,722人

(エ) 担当学芸員 塚本麻衣子

(オ) 趣旨

東北6県にはそれぞれに歴史と伝統をもつ、地域色豊かな仏像が数多く残されている。写真家の藤森武は師の土門拳の遺志を受け継ぎ、東北各地の仏像を撮り続けている。本展では、深い傷跡の残る東日本大震災被災地の復興への祈りをこめ、東北各地に残る魅力的な仏像の数々を、藤森武の迫力ある写真を主として紹介した。

(カ) 展示構成

藤森武「みちのくの仏像」【写真作品】

出品点数100点

(キ) 関連事業

トークイベント「藤森武が出会ったふくしまの仏像と文化」

講師：藤森武氏(写真家)、佐藤弥右衛門氏(大和川酒造社長)

聞き手：塚本麻衣子(当館学芸員)

日時：9月4日(日) 13時30分～15時

会場：講堂

(6) 指定文化財の公開

平成28年度の展示で以下の指定文化財の公開を行った。(館蔵・寄託品などは除く)。

ア 国指定

〈国宝〉

(ア) 「太刀 銘正恒」一口 文化庁(東京国立博物館)
〈重文〉

(イ) 「群仙図(曾我蕭白筆)」六曲一双 文化庁(分室)

(ウ) 「西行物語絵詞」一卷 文化庁(京都国立博物館)

(エ) 「木造阿弥陀如来坐像」一躯 文化庁(東京国立博物館)

(オ) 「松藤文兵庫鎖太刀拵」一口 文化庁(東京国立博物館)

(カ) 「太刀 銘包永」一口 文化庁(分室)

(キ) 「太刀 銘安綱」一口 文化庁(分室)

(ク) 「太刀 銘守次 革包太刀拵」一腰 文化庁(東京国立博物館)

(ケ) 「劍 銘江州甘呂俊長 延文五年庚子」一口 文化庁(分室)

(コ) 「太刀 銘則重」一口 文化庁(分室)

- (サ) 「太刀 銘備州長船住景光 元亨二年□月日」 一口 文化庁 (分室)
 - (シ) 「色々威胴丸 附 大袖」 一領 文化庁 (東京国立博物館)
 - (ス) 「小袖 繡箔風景四季花文」 一領 文化庁 (分室)
 - (セ) 「黒楽茶碗(ムキ栗) 長次郎作」 一口 文化庁 (分室)
 - (ソ) 「色絵若松図茶壺 仁清作」 一口 文化庁 (京都国立博物館)
 - (タ) 「灰被天目茶碗(虹)」 一口 文化庁 (九州国立博物館)
 - (チ) 「松竹双雀葦手鏡」 一面 文化庁 (分室)
 - (ツ) 「紙本墨書大乘掌珍論〈巻上〉」 一卷 文化庁 (京都国立博物館)
 - (テ) 「紙本墨書孔雀経単字音義〈上巻〉」 一卷 文化庁 (京都国立博物館)
 - (ト) 「松尾社法楽和歌」 一卷 文化庁 (分室)
 - (ナ) 「彩牋墨書大和物語 附 梨子地蒔絵歌絵文様篋」 一帖 文化庁 (分室)
 - (ニ) 「紙本墨書源氏物語」 五十三帖のうち三帖 (一帖「藤壺」・五帖「若紫」・九帖「葵」) 文化庁 (分室)
 - (ヌ) 「後伏見天皇宸翰御消息(北山逗留之間)」 一幅 文化庁 (分室)
 - (ネ) 「流水文銅鐸」 一口 文化庁 (京都国立博物館)
 - (ノ) 「石製経筒」 一口 文化庁 (九州国立博物館)
 - (ハ) 「山城国花脊別所経塚群出土品」 一括のうち金銅貝沙門天立像 一体・銅筒 一口・火舎 二口・花瓶 二口・六器 六口 文化庁 (京都国立博物館)
- (以上、26件は特別展「新たな国民のたから—文化庁購入文化財展」で展示公開)
- 〈重文〉 磐城檜葉天神原遺跡出土品 檜葉町教育委員会 (福島県) (総合：原始展示室)

(7) 展示解説

ア 展示解説員

平成28年度の展示解説員は13名で前年度と変わらなかった。これに加えて前年度と同様に常設展示室内で2名分の監視員を委託できる予算を確保したが、展示解説員の増員を図ることができなかった。企画展についても、展示予算の中で監視員1名を予算化し、通常展示解説員1名に監視員1名を交えた体制で展示室の対応をせざるをえない状況であった。

さらに、企画展開催時には企画展示室の入口のモギリに人数を割かれるなどするため、常設展示室内に対応できる人員が不足する状況が恒常的に続いている。これらの状況に対して、学芸員による解説活動を増やし、定数減の状況を乗り切る対策をとっている。

このような展示解説員の減員により、過去に実施されていた解説員が主となる講座などは、今年度も実施できない状況であった。

また、展示解説員は来館者に展示を解説・案内することが第一の役割であるが、定数減により展示解説員1人

で対応しなければならないエリアが広がった関係で十分な解説活動ができない場合が少なくなく、最低限の監視業務を行うので精一杯の状況であることが多かった。きめ細やかな展示解説活動をはじめとしたより質の高い行政サービスを保障するために、展示解説員に対する研修を実施するなど、質的向上に向けた努力を行っているが、展示解説員の人数不足という量的課題については、引き続き検討をしていく必要がある。

展示解説員の業務は、総合ガイダンスと名付けられた受付での来館者への対応をはじめとして展示や館内の業務をよく知っている職員でなければ担当できない内容がほとんどである。現在の減員状況の中でどうにか対応している状況であるが、現在の定数では通常業務を実施する上では限界の状態であり、来館者への解説サービスを考えた場合、定数増が図られなければ、本来の業務にも支障を来す可能性が出てくる。

(ア) けんぱくハイライトツアー

展示解説員による常設展の定時解説で、開館30周年記念行事としてそれまで実施していた「やさしい展示解説会」をリニューアルさせたものである。原則的に他の行事の入っていない土曜と日曜日・祝日の午前11時、午後2時の2回開催を基本に実施している。1回の所要時間は約30分。各解説員が独自の解説ルートを開発し、それぞれ展示解説員ごとのテーマで解説会を実施している。今年度の「けんぱくハイライトツアー」は4月29日から3月26日の期間実施した。

〈実施状況〉 実施日数：101日 総参加人数：348人

(イ) 通し解説

不定期的に行われる常設展・企画展の解説。主として来館の個人・団体の要望に応じて展示解説員1名が全体を解説するもの。解説員の減員のため、通し解説は困難になってきているが、予約の団体の要望にこたえる形で実施してきていることが多い。

実施回数：39回

(ウ) 部屋送り解説

不定期的常設展・企画展の解説。主として来館する個人の要望に応じ、各展示室の担当として立っている解説員が順に引き継いで解説する。

実施回数：21回

(エ) 体験講座

体験講座などの解説員が主体となって実施する講座は解説員業務に比して人数が少ないために平成28年度も実施されなかった。

ただし、七夕の時期には竹飾り、クリスマスには手製のクリスマスツリー、小正月に合わせての団子飾り、ひな祭りの時期に自作の雛人形の段飾りなど、解説員が自分たちで作ったものを体験学習室内に展示することは継続している。

また、ゴールデンウィークを中心に時代衣装の試着体験に加え、期間限定で甲冑の試着体験も行うなど、体験的な活動の充実を図っている。

イ 学芸員

企画展および特集展の開催中は展示解説のために職員を配置する場が増えることになり、展示解説員だけでは解説員の昼休みや休憩時間の減員に対応できない状況であるため、学芸員が代わって展示室に立つことになっている。原則1コマ45分である。28年度は年間で285回を数えた。学芸員が展示室に立つことは単なる解説員の肩代わりではなく、実際に展示室に立つことにより得るもの、気づくものが多かったが、通常業務とのバランスの点で今後の検討が必要である。

また、企画展、テーマ展、特集展については、公民館研究団体などからの依頼に応じて、担当分野の学芸員が展示解説を実施した。

ウ 展示解説のための印刷物

(ア) 福島県立博物館ガイドブック

常設展の展示内容をコンパクトに解説。裏方の館活動も紹介。昭和61年発行。28 p.

(イ) Fukushima Museum Permanent Exhibition Guide Book

英文の展示解説パンフレット。希望する来館者に無償配布。平成18年発行。14 p.

(8) 体験学習室

エントランスホール隣に設置してある無料で使用できる場所。囲炉裏のついた畳敷きの座敷と木のフローリングの部分がある。昔のおもちゃが用意されていて、自由に遊べるほか、季節ごとに昔の着物を着ることができる。着付けは衣服の上からだがかなり本格的で好評を得ている。また、資料に触れるハンズオンコーナーは半年ごとの入れ替えになっている。この部屋には展示解説員が常駐し来館者に対応している。

ア 衣装

(ア) 衣装着付け

体験学習室で時代衣装の着付け体験を行っている。着衣のままその上に着る形ではあるが、かなり本格的な衣装着付けであり、展示解説員は着付けの技術をきちんと学ばなければならないし一回の時間もかかる。しかし、他の博物館ではここまできちんと着つけることはそれほど多くはないと思われ、当館の体験学習室のセールス・ポイントでもある。

a 衣装着付け件数 534件

b 着付けた衣装

春：打掛・半袴 夏：水干・直垂

秋：天武朝女官朝服・推古朝朝服

冬：白拍子・当世具足

衣装の着付けはかなり本格的なものなので、そのため解説員の研修時間も長くなり、多人数の要望には一度に比べ難い面もある。しかし、着終わった姿を鏡に映したり、デジカメで撮影したりして満足する来館者が多く見られる。

(イ) 衣装展示

春：壺装束・大鎧 夏：編綴・武士旅姿

秋：小袖・古墳時代男子 冬：素襖・稚児鎧

イ 手作り資料展示

季節に関する手作りの資料を展示した。製作は展示解説員が担当。

7月：七夕飾り / 12月：クリスマスツリー /

1月：団子さし / 3月：手作り雛人形

ウ おもちゃ

畳の上で幼児におもちゃで遊ばせるお母さんや家族連れが多くみられる。壁の引き出しに用意されているおもちゃの利用も多い。修理を必要とするおもちゃもあり、解説員の係で担当している。

おもちゃの修理：78件

エ ハンズオンコーナー

来館者が展示品を実際に手に取り使用法を体験できるコーナー

平成28年4月～平成29年3月「古代の音色と輝き」（考古分野）

平成28年7月～平成28年9月「蚊帳体験」（民俗分野）

(9) リニューアルの検討

リニューアルに向けて、調査・研究を行うためにプロジェクトチームを設置して活動した。会議は通年で13回実施し、下記の内容について協議した。

ア これまでの経緯の確認

イ 当館の現状の把握：リニューアルのための課題・問題点の抽出・整理

ウ 過去の常設展アンケートの見直し

エ 館長講座「みんなで、明日の博物館について語ろう」参加者意見などの記録

オ リニューアルの基本方針・スケジュールについての検討

今年度は、チームのメンバーが大きく入れ替わったために、①②のような昨年度までの活動の継承から始め、次年度以後の本格的な基本構想策定の基礎を固めることに努めた。

5 調査研究事業

(1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向けて、新たなる研究成果と展示資料の収集のため、考古・歴史・民俗・美術・自然の各分野がテーマを設定して調査を実施している。平成28年度は、以下の4テーマの調査を実施した。

ア 山口弥一郎調査資料の研究

(ア) 分野 民俗

(イ) 趣旨

山口弥一郎(1902-2000)は旧・新鶴村に生まれ、東北の地理学・民俗学研究に多大な業績を残した。近年では東日本大震災を経て著書『津浪と村』(1943年刊)が復刊され、津波災害と集落移動に関する研究が全国的に注目を集めている。しかし、磐梯山慧日寺資料館(磐梯町)に一括して収蔵されている山口が残した調査ノートや写真、蔵書などは、体系的な整理や目録作成にまで至っていない。本研究では磐梯町の協力のもと、同資料の整理・調査を進めることで、山口弥一郎の調査研究を見

直し、人文科学的側面からの災害研究の新しい方向性を探っていく。

(ウ) 調査概要

磐梯町と福島県立博物館で昨年度に取り交わした協約書にもとづき、平成28年度も引き続き山口弥一郎旧蔵資料の整理を進めた。調査ノートや文書類について標題・年代等を目録化し、また写真撮影等を行った。

イ 考古資料による原始・古代の画期の再検討

(ア) 分野 考古

(イ) 趣旨

縄文時代後半期から弥生時代初頭とⅡ古墳時代終末期から奈良時代（6世紀末～8世紀）の2つの時期を取り上げ、当館収蔵の当該期の考古資料を中心に取り上げ、資料の有する社会的背景を考察し、本県における原始・古代の時代変遷の画期を検討し考古地域史の確立を目指すものである。

(ウ) 調査概要

縄文時代では、南相馬市東町遺跡の複式炉土壌の水洗を行い、当時の周辺環境植生や燃料材や植物性植物の抽出を行い、量的に安定しているサンプルから周辺植生の把握に迫るデータを取得した。また県内出土古人骨の安定同位体分析に着手した。弥生時代では熊本大学と共同で土器付着炭化種子同定のための3次元計測を実施した。古墳時代では、大熊町棚和子古墳出土土器のデジタル図化を委託により実施した。また会津坂下町長井前の山古墳の発掘調査報告書を刊行した（紀要に掲載）。また福島市梅本古墳出土象嵌刀装具の調査知見を学会にて口頭発表した。

ウ 福島県産中生代軟体動物化石の研究

(ア) 分野 自然

(イ) 趣旨

福島県内には相馬地方にジュラ系相馬中村層群、いわき地方に白亜系双葉層群という中生代の地層が分布している。これらの地層からはアンモナイトや二枚貝や巻貝といった軟体動物化石を豊富に産することが知られ、特に近年は地元の化石収集家の努力によって多くの標本が発見されてきた。

しかし、これらの標本については鑑定が不十分なものもあり、論文などで発表されていないものも多い。そこで、これらの中生代軟体動物化石について鑑定内容を確認した上で成果を論文として記録・公表し、当館所蔵標本を充実させることを目指す。また、新たに追加した標本を展示する機会を設け、さらなる標本の発見・評価につなげる。

(ウ) 概要

相馬地方のジュラ系相馬中村層群の化石産地について現地調査を行った。現地調査の際には、特に巻貝のネリネア類の産状を確認、採取した。福島県立博物館に寄託されている巻貝化石について、写真撮影・鑑定作

業を進めている。

エ 戊辰戦争資料の研究

(ア) 分野 歴史

(イ) 趣旨

平成30年に戊辰戦争から150年の節目をむかえる。戦争の激戦地となり、日本の歴史が転換する舞台となった本県でも、改めて戊辰戦争の意義について問い直す必要がある。そのため戦争の経過及び戦後の復興過程までを対象として3年計画で資料調査を進め、新たな資料の発掘を行い、3年目の平成30年には調査成果を盛り込んだ企画展の開催を目指す。

(ウ) 調査概要

研究の初年度となる平成28年度は、戊辰戦争を題材とした絵画資料、白虎隊士関係資料、斗南藩関係資料を中心に調査を実施し、これまであまり知られていなかった新資料の掘りおこしにつとめた。

(2) その他の調査研究事業

ア 古文書整理事業

古文書類の調査・研究は、福島県の歴史をさぐるために欠かせない。しかし古文書を歴史資料として活用するためには、1点ずつ整理を行い、表題・年代・形態・法量・状態などのデータを採取した上で、博物館資料として登録する必要がある。このため、購入・寄贈・寄託などにより当館で受け入れた古文書の整理・登録作業を行っている。また古文書原本を状態よく保存し後世に伝えていくため、古文書をマイクロ撮影し、原本のかわりに閲覧用に提供している。

平成28年度は、前年度に引き続き松崎達夫家寄贈資料（若松城下葉種問屋文書）の整理を継続して実施したほか、新たに久米幹男家寄贈資料（絵はがき類）・斎藤恵美子家寄託資料（会津藩士篠澤家文書）・安斎勇雄コレクション等の整理作業を行った。また整理済だが未登録であった会津藩家世実紀の登録・公開、登録済だが未公開であった福島義子家寄贈資料（喜多方市福島家文書）・山本重義寄贈資料（会津藩士山本家文書）、鈴木安信コレクションの公開も合わせて行った。マイクロ撮影は前年度に引き続き「築田家追加寄託資料」の撮影を行った。

6 教育普及事業

(1) 講座・講演会

当館では館長と学芸員による各種講座を開催しているが、そのほかにも、外部に講師を依頼しさまざまな講座・講演会等を実施している。平成28年度の各講座開催数は120、総参加者数は8,229人であった。前年度（平成27年度）の開催回数は116回で今年度は4回多かった。総参加者数は前年度7,295人で、934人の増加、前年比113%であった。以下は個別講座・講演等の一覧である。

平成28年度講座・講演会等の回数と参加者数

テーマ	回数	参加者数
(1) 館長講座	12	598
(2) 考古学講座	10	160
(3) 民俗講座	3	75
(4) 歴史講座	5	342
(5) 自然史講座	1	6
(6) 保存科学講座	1	6
(7) ギャラリートーク	6	69
(8) 指導者向け研修 (中止)	0	0
(9) 実技講座	5	69
(10) 実演	2	66
(11) 企画展関連行事 (記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等)	27	1,335
(12) ミュージアムイベント	7	1,125
(13) 30周年記念イベント	17	2,250
(14) 復興応援パートナー事業	2	256
(15) 博学連携事業	5	110
(16) 共催事業	2	422
(17) 後援事業	7	621
(18) 企画展・特集展内覧会 (友の会)	8	719
計	120	8,229

平成28年度講座・講演会等行事一覧

ア 館長講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
館長講座1 『みんなで、明日の博物館について語ろう』 ①～博物館設立の経緯と考え方を聴く～	赤坂憲雄 (館長) 鈴木 啓 (初代学芸課長) 高橋 充 (学芸員)	4月21日 (木)	45
館長講座2 『みんなで、明日の博物館について語ろう』 ②～博物館を支えてくれた人たちの声～	赤坂憲雄 (館長) 芳賀幸雄 (友の会長) 鈴木幸治 (前友の会長) 佐藤弘子 (元友の会長) 田中 敏 (学芸課長)	5月19日 (木)	38
館長講座3 「みんなで、明日の博物館について語ろう」 ③ ～震災遺産と博物館～	赤坂憲雄 (館長) 高橋 満 (学芸員)	6月16日 (木)	42
館長講座4 「みんなで、明日の博物館について語ろう」 ④ ～福島県の自然史博物館のあり方と県立博物館の役割～	赤坂憲雄 (館長) 黒沢高秀 (福島大学教授) 竹谷陽二郎・猪瀬弘瑛 (学芸員)	7月21日 (木)	48
館長講座5 「みんなで、明日の博物館について語ろう」 ⑤ ～学校教育の中での博物館の役割～	赤坂憲雄 (館長) 荒木隆・江川トヨ子 (学芸員)	8月18日 (木)	35
館長講座6 「みんなで、明日の博物館について語ろう」 ⑥ ～「近世」・「近代」の展示を再考する～	赤坂憲雄 (館長) 阿部綾子・栗原祐斗 (学芸員)	9月15日 (木)	40
館長講座7 「みんなで、明日の博物館について語ろう」 ⑦ 博物館と地域～三十三観音めぐりでつなぐ会津仏教文化～	赤坂憲雄 (館長) 堀口一彦 (にしあいづ観光交流協会) 塚本麻衣子 (学芸員)	10月20日 (木)	54
館長講座8 「みんなで、明日の博物館について語ろう」 ⑧ 拡張する博物館～会津・漆の芸術祭から森のはこ舟アートプロジェクトまで～	赤坂憲雄 (館長) 伊藤達矢 (東京藝術大学特任准教授) 小林めぐみ (学芸員)	11月17日 (木)	43
館長講座9 「みんなで、明日の博物館について語ろう」 ⑨ 基本に立ち返る博物館～博物館の資料と展示とは～	赤坂憲雄 (館長) 内山大介 (学芸員)	12月15日 (木)	45
館長講座10 「東日本大震災を考える」 ①～会津から見た被災地～	赤坂憲雄 (館長) グローバルリーダー育成事業アメリカ研修生 (県立会津高等学校)	1月19日 (木)	63
館長講座11 「東日本大震災を考える」 ②～アートでつなぐはま・なか・あいづ 震災とアート、そして対話～	赤坂憲雄 (館長) 川延安直 (学芸員)	2月23日 (木)	81
館長講座12 「東日本大震災を考える」 ③～県外避難者のいま～	赤坂憲雄 (館長) 渡邊浩二 (地域活動サポートセンター柏崎) 筑波匡介 (中越沖地震メモリアル「まちから」)	3月23日 (木)	64

イ 考古学講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
考古学講座「縄文土器を作ろう」1	森 幸彦 (学芸員)	8月6日 (土)	9
考古学講座「縄文土器を作ろう」2	森 幸彦 (学芸員)	8月7日 (日)	9
考古学講座「縄文土器の野焼き」	森 幸彦 (学芸員)	10月2日 (日)	15
考古学講座「勾玉・ガラス玉を作ろう」	高橋 満 (学芸員)	3月25日 (土)	20
考古学講座「交通路からみた古墳時代」	荒木 隆 (学芸員)	11月23日 (水・祝)	35
交流会「サロン ド 考古学 1」	荒木 隆 (学芸員)	5月14日 (土)	14
交流会「サロン ド 考古学 2」	荒木 隆 (学芸員)	7月9日 (土)	12
交流会「サロン ド 考古学 3」	荒木 隆 (学芸員)	9月10日 (土)	11
交流会「サロン ド 考古学 4」	荒木 隆 (学芸員)	11月19日 (土)	14
交流会「サロン ド 考古学 5」	荒木 隆 (学芸員)	1月14日 (土)	10
交流会「サロン ド 考古学 6」	荒木 隆 (学芸員)	3月5日 (土)	11

ウ 民俗講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
「なぜ敷居を踏んではいけないの？ーあの世とこの世の民俗入門ー」	大里正樹 (学芸員)	11月12日 (土)	30
「大正月と小正月ってなにが違うの？ー正月行事の民俗入門ー」	江川トヨ子 (学芸員)	12月18日 (日)	25
「雛人形を早く片づけないと婚期が遅れるの？ー節句の民俗入門ー」	内山大介 (学芸員)	1月21日 (土)	20

エ 歴史講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
幕末維新期の人物①「“石”を愛した会津藩士・田村三省」	高橋 充 (学芸員)	2月4日 (土)	70
幕末維新期の人物②「知られざる斗南藩権大参事・原田五郎右衛門」	阿部綾子 (学芸員)	2月18日 (土)	81
幕末維新期の人物③「幕府の儒者とその弟子の活躍・安積良斎と中村正直」	佐藤洋一 (学芸員)	2月25日 (土)	68
幕末維新期の人物④「三春藩出身の自由民権家・河野広中」	栗原祐斗 (学芸員)	3月4日 (土)	65
幕末維新期の人物⑤「ふくしまの医療人ー近代医学の発展に貢献した人々ー」	田中伸一 (学芸員)	3月18日 (土)	58

オ 自然史講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
移動講座「化石をさがそう」 (中止)	猪瀬弘瑛ほか (学芸員)	9月18日 (日)	
移動講座「化石標本をつくろう」 (中止)	香内修ほか (学芸員)	9月19日 (月・祝)	
野外講座「鶴ヶ城の野鳥」	古川裕司 (野鳥研究家)	11月13日 (日)	6

カ 保存科学講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
高校生向け「文化財保存のための科学」	杉崎佐保恵 (学芸員)	5月21日 (土)	6

キ ギャラリートーク

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
ギャラリートーク 親子で楽しむふくしまの歴史と自然①「縄文時代のふくしま」	荒木 隆 (学芸員)	4月9日 (土)	12
ギャラリートーク 親子で楽しむふくしまの歴史と自然②「弥生時代のふくしま」	荒木 隆 (学芸員)	6月11日 (土)	10
ギャラリートーク 親子で楽しむふくしまの歴史と自然③「古墳時代のふくしま」	荒木 隆 (学芸員)	8月13日 (土)	11
ギャラリートーク 親子で楽しむふくしまの歴史と自然④「奈良・平安時代のふくしま」	荒木 隆 (学芸員)	10月8日 (土)	13
ギャラリートーク 親子で楽しむふくしまの歴史と自然⑤「鎌倉・室町時代のふくしま」	荒木 隆 (学芸員)	12月10日 (土)	12
ギャラリートーク 親子で楽しむふくしまの歴史と自然⑥「江戸時代のふくしま」	荒木 隆 (学芸員)	2月11日 (土)	11

ク 指導者向け研修

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
博物館利用指導者研修会（中止）	田中伸一ほか（学芸員）	8月3日（水）	

ケ 実技講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
唐人風ってなんだ？「ぷかぷか唐人風をつくろう」	斎藤歩美（山形大学工芸研究室）	4月30日（土）	12
「須賀川の絵のぼり・小旗をつくろう」	大野青峯・大野久子（伝統技術保持者）	5月5日（木・祝）	13
会津・三島の編み組み細工「ヒロロの小物入れ作り」	角田キイ子・海老名一子（伝統技術保持者）	7月9日（土）	10
会津・三島の編み組み細工「ヒロロの小物入れ作り」	角田キイ子・海老名一子（伝統技術保持者）	7月10日（日）	10
唐人風ってなんだ？「唐人和風をつくろう」	斎藤歩美（山形大学工芸研究室）	7月24日（日）	14
「縄文時代の編み物を再現しよう！」	本間一恵（バスケットリー作家）	1月15日（日）	10

コ 実演

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
「大堀相馬焼の絵付け」	山田慎一（大堀相馬焼窯元 いかりや商店白河工房）	6月19日（日）	41
「昔語り」	横山幸子（語り部）	9月17日（土）	25

サ 企画展関連行事（記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等）

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
企画展「幕末！若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」 展示解説会	阿部綾子（学芸員）	4月23日（土）	20
企画展「幕末！若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」 関連イベント 「めざせ江戸！清光の絵で道中すごろく」	阿部綾子（学芸員）	5月3日（火・祝）	56
企画展「幕末！若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」 関連イベント 「みんなで仕上げる清光作品 若松城下ドリームプラン」	阿部綾子（学芸員）	5月4日（水・祝）	14
企画展「幕末！若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」 関連イベント 「江戸の番付で良妻チェック」	阿部綾子（学芸員）	5月15日（日）	10
企画展「幕末！若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」 展示解説会	阿部綾子（学芸員）	5月15日（日）	20
企画展「幕末！若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」 関連イベント 「清光の挿絵で読む！メイドイン会津の教訓書」	阿部綾子（学芸員）	5月28日（土）	42
企画展「幕末！若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」 展示解説会	阿部綾子（学芸員）	5月28日（土）	28
企画展「幕末！若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」 展示解説会	阿部綾子（学芸員）	6月11日（土）	20
企画展「幕末！若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」 関連イベント 記念講演会『江戸城登城風景図屏風を読み解く—江戸の名所”下馬先”とはなにか？—』	岩淵令治（学習院女子大学教授）	6月12日（日）	77
特集展「南極の自然と南極観測」 展示解説会	相田 優他2名（学芸員）	7月23日（土）	2
特集展「南極の自然と南極観測」 展示解説会	相田 優他2名（学芸員）	7月30日（土）	7
特集展関連映画会 「大いなる南極大陸」	相田 優（学芸員）	7月31日（日）	45
特集展記念講演会 「南極観測と基地生活の思い出」	小元久仁夫（日本大学名誉教授・元南極観測隊員）	8月7日（日）	49
特集展「南極の自然と南極観測」 展示解説会	小元久仁夫（日本大学名誉教授・元南極観測隊員）	8月7日（日）	35
特集展関連映画会 「南極大陸の新たな幕開け」・「白い大陸からのメッセージ」	香内 修（学芸員）	8月13日（土）	30
特集展「南極の自然と南極観測」 展示解説会	相田・香内・猪瀬（学芸員）	8月14日（日）	7
特集展関連イベント 「アクアマリンふくしま移動水族館アクアラバン展示」	アクアマリンふくしま	8月21日（日）	548

サ 企画展関連行事（記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等）

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
特別展 『新たな国民のたから-文化庁購入文化財展-』 オープニングセレモニー	高橋満（学芸員）	9月3日（土）	22
特別展 『新たな国民のたから-文化庁購入文化財展-』 解説会	横須賀倫達（文化庁文化財 調査官）	9月3日（土）	60
特別展 『新たな国民のたから-文化庁購入文化財展-』 記念講演会 「〈上杉景勝御手撰三十五腰〉とは何か？」	角屋由美子（米沢市上杉博 物館学芸員）	9月3日（土）	92
特集展「収蔵庫からこんにちは-福島県立博物館収蔵名品展」リレ ー展示解説会	当館学芸員	10月15日（土）	10
特集展「収蔵庫からこんにちは-福島県立博物館収蔵名品展」記念 講演会『原山一号墳の発掘調査』	辻秀人（東北学院大学教授 ）	10月29日（土）	22
特集展「収蔵庫からこんにちは-福島県立博物館収蔵名品展」 関 連 食のイベント「祝いの器・寿ぎの食」	平出美穂子・中山晴奈・小 林めぐみ	10月30日（日）	17
特集展「収蔵庫からこんにちは-福島県立博物館収蔵名品展」 リ レー展示解説会	当館学芸員	11月3日（木・祝）	18
テーマ展関連講演会「カエルに惹かれる理由とカエルグッズを集め る楽しみ」	高山敬子・高山ビッキ（10 0年カエル館学芸員）	11月5日（土）	30
特集展「収蔵庫からこんにちは-福島県立博物館収蔵名品展」 リ レー展示解説会	当館学芸員	11月13日（日）	13
特集展「収蔵庫からこんにちは-福島県立博物館収蔵名品展」 関 連トークイベント 「絵馬が語る地域の歴史」	須賀川知る古会	11月26日（土）	41

シ ミュージアムイベント

テーマ	講師	担当者	期日	参加人数
玄如節と日本の民謡	玄如節頭彰会	内山・大里	6月25日（土）	105
夏休み子ども野外映画会「天空の城ラピュタ」		小林・竹谷・田 中伸一	7月18日（月・祝 ）	214
会津磐梯山・市民盆踊り	会津磐梯山盆踊り保 存会	内山・藤原・佐 治・江川	8月15日（月）	330
夏休みナイトミュージアム	当館学芸員	相田・栗原・大 里・高橋満・佐 藤	8月20日（土）	76
ハワイアン in けんぱく	モハル・ハワイアンズ	香内・塚本・猪 瀬	8月27日（土）	163
親子でやすらぐ子守唄コンサート	日本子守唄協会	江川・猪瀬・森	10月28日（金）	52
クリスマスクラシックライブ	f l. 市島徹 vio. 常光今日子 pia. 津 山博子 語り渡辺奈 菜	杉崎・高橋充・ 森	12月17日（土）	185

ス 30周年記念イベント

テーマ	講師	担当者	期日	参加人数
『のぞいてみよう！！けんぱくの裏側 ①』	荒木 隆	学芸員	4月16日（土）	15
『のぞいてみよう！！けんぱくの裏側 ②』	荒木 隆	学芸員	6月18日（土）	11
『のぞいてみよう！！けんぱくの裏側 ③』	荒木 隆	学芸員	8月20日（土）	17
『のぞいてみよう！！けんぱくの裏側 ④』	荒木 隆	学芸員	10月22日（土）	20
『けんぱく暗闇探検隊 ①』	荒木 隆	学芸員	5月7日（土）	17
『けんぱく暗闇探検隊 ②』	荒木 隆	学芸員	7月2日（土）	41
『けんぱく暗闇探検隊 ③』	荒木 隆	学芸員	9月3日（土）	30
『けんぱく暗闇探検隊 ④』	荒木 隆	学芸員	11月5日（土）	32
『探検！けんぱく七不思議』	荒木 隆	学芸員	7月～3月	1200
『けんぱく川柳～ひねってみました』	荒木 隆	学芸員	4月～3月	61
『おめでとう けんぱく！開館30周年記念式典』		総務課	10月15日（土）	185
対談 『ことばの力 文化の力 復興の力』	赤坂憲雄・やすみりえ	森幸彦・荒木隆	10月15日（土）	68
『けんぱく感謝祭1—東山芸妓さんと祝う けん ぱく30年』	東山芸妓組合	美術分野	10月15日（土）	150

ス 30周年記念イベント

テーマ	講師	担当者	期日	参加人数
『作って！見て！感じる！ふくしま技の世界』（実技・実演フェスティバル）	伝統技術保持者	民俗分野・歴史分野	10月16日（日）	133
『博物館でも読み聞かせ』	読み聞かせボランティア	荒木 隆	10月16日（日）	25
30周年記念 『会津鶴ヶ城太鼓 若駒会』祝賀公演	会津鶴ヶ城太鼓 若駒会	学習支援班	10月16日（日）	70
『けんぱく感謝祭2—博物館の新たな門出を獅子ステップで祝おう』（会津彼岸獅子）	会津彼岸獅子	佐治 靖・荒木 隆	3月12日（日）	175

セ 復興応援パートナー事業

テーマ	主催	講師・所属等	期日	参加人数
映画上映会&トークイベント 『福島桜紀行』	『福島桜紀行』上映実行委員会	映画監督 銚井 喬 浪江町商工会長 原田雄一 NPOはるなか理事長 佐藤 光信	4月23日（土）	46
2017ふくしま復興の集いinあいづ	福島県会津地方振興局		3月11日（土）	210

ソ 博学連携事業

テーマ	主催	担当	期日	参加人数
会津大学ソフトウェアスタジオ館内見学会	会津大学	高橋充・森	5月6日（金）	20
若松四中美術部コラボ「むかしの町とそこに生きた人々の様子を描こう」	会津若松市立第四中学校	江川・大里	5月31日（火）	27
若松四中美術部コラボ「ドキドキ土器作り」	会津若松市立第四中学校	江川・森	7月2日（土）	27
会津大学ソフトウェアスタジオ成果発表会	会津大学	高橋充・森	7月29日（金）	20
若松一中美術部コラボ「土偶作り」	会津若松市立第一中学校	江川・森	9月3日（日）	16

タ 共催事業

テーマ	主催	講師・所属等	期日	参加人数
東日本大震災復興祈念～東北新聞五社事業協議会連携企画～藤森武写真展関連講演会「藤森武が出会ったふくしまの伝像と文化」	東北新聞五社事業協議会	写真家 藤森 武	9月4日（日）	120
ポケモン映画上映会「ボルケニオンと機巧のマギアナ」	ポケモン映画製作委員会「ピカチュウプロジェクト」		2月26日（日）	302

チ 後援事業

テーマ	主催	講師・所属等	期日	参加人数
「奈良と会津1200年の絆」	奈良と会津1200年の絆」実行委員会		4月24日（日）	168
全会津公立小中学校事務職員研究協議会総会・研修会	全会津公立小中学校事務研究協議会		6月17日（金）	110
福島県自然史博物館設立推進協議会総会	福島県自然史博物館設立推進協議会		7月21日（木）	20
会津史学会歴史文化講演会「会津が生んだ炎の名僧・日什大正師」	会津史学会	教胤寺（千葉）小松正学氏	11月6日（日）	53
会津民俗学会公開講演「東山廃村に生きた女性の半生」	会津民俗学会	滝沢洋之・長郷寅二・吉田邦吉	11月20日（日）	145
会津史談会公開文化史講座「三十三観音のいま、むかし」	会津史談会	当館学芸員 塚本麻衣子	11月25日（金）	61
平成28年度土木学会選奨土木遺産の認定受賞式・記念フォーラム	土木学会	鉄道総合技術研究所 小野田 滋 他	12月10日（土）	64

ツ 企画展・特集展内覧会等（友の会）

テーマ	主催	講師・所属等	期日	参加人数
企画展 『幕末！若松！喜知松？ 大須賀清光の屏風絵と番付』内覧会	歴史分野	阿部綾子	4月22日（金）	50
特集展 『南極の自然と南極観測』内覧会	自然分野	相田 優	7月15日（金）	60
特別展 『新たな国民のたから-文化庁購入文化財展-』展示解説会	分野合同	当館学芸員	9月3日（土）	60
特集展『収蔵庫からこんにちは』内覧会	分野合同	当館学芸員	10月14日（金）	6
友の会イベント 会津室内楽団アンサンブル「Coder anni」コンサート	博物館友の会		9月18日（日）	170
友の会イベント 30周年記念イベント県博友の会映画祭 「ナイトミュージアム エジプト王の秘密」・「超高速！参勤交代」	博物館友の会		10月1日（土）	303
友の会イベント 30周年記念イベント 「化石発掘探検活動・鉱物ミニ展示会」	博物館友の会		10月2日（日）	40
友の会イベント 30周年記念イベント 「古文書愛好会 古文書解読学習会」	博物館友の会		10月2日（日）	30

(2) 学校・文化施設との連携

各種学校および文化施設との連携を図りながら、次の事業を展開した。

ア 展示室での自主学习

常設展示室における児童・生徒の学習活動が有意義なものとなるように、発達段階や見学の目的などに応じた2種類のワークシートを準備している。

(ア) 博物館見学のしおり（小・中学生用）

常設展示室の展示資料を見る際のポイントを与えるように設問形式で構成されており、書き込みながら学べるようになっている。児童・生徒は自分のペースで見学し、自由な考察ができる。個人および団体来館する小・中学生全員に受付で配布している。

(イ) ワークシート

小学校高学年から中学生向けに作成されていて、常設展示を構成する6つの大テーマに沿うかたちで、展示室内の主要な資料を題材に取り上げている。当館ホームページからダウンロードすることによって、学習の目的に応じて選択し利用できる。

イ 団体体験学習プログラム

児童・生徒が博物館の資料を用いながら体験をすることは、多様なものの見方や考え方を育む上で有効である。当館では入館団体の多様なニーズに対応すべく、事前

申込制による「原始・古代のワザに挑戦（考古分野）」「化石にふれてみよう（自然分野）」「紙すきハガキづくり（民俗分野）」「昔の道具体験（民俗分野）」「度量衡の統一と農民の暮らし（歴史分野）」の5つの団体体験学習プログラムを準備している。昨年度同様、小学3年生の授業と連動した内容となっている「昔の道具体験」は実施回数、人数とも増加した。

○体験学習プログラム実施状況

「原始・古代のワザに挑戦（考古分野）」8回 233名
 ・勾玉づくり 6回 197名
 ・石器で切ってみよう 2回 36名
 「化石にふれてみよう（自然分野）」1回 27名
 「紙すきハガキづくり（民俗分野）」0回 0名
 「昔の道具体験（民俗分野）」14回 405名
 「度量衡の統一と農民の暮らし（歴史分野）」2回 39名
 合計 25回 704名

ウ ゲストティーチャー

当館学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、学校等教育機関の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当している。

ゲストティーチャー実施一覧

月 日	講 師	分野	内 容	実施先	科目
6月1日	高橋 充	歴史	蒲生氏郷について	福島県立若松商業高等学校	総合的な学習の時間
6月8日	高橋 充	歴史	若松城下の町と商業	福島県立若松商業高等学校	総合的な学習の時間
7月5日	小林めぐみ	美術	会津の漆器	福島県立会津学鳳高等学校	総合的な学習の時間
7月20日	相田 優	自然	博物館資料論	福島大学	講義
10月5日	森 幸彦	考古	縄文時代の三島	三島町立三島中学校	総合的な学習の時間
10月21日	内山大介	民俗	まちの歴史と地域の宝～三島町の年中行事～	三島町立三島中学校	総合的な学習の時間
2月7日	内山大介 大里正樹 江川トヨ子	民俗	昔の道具	会津若松市立城北小学校	総合的な学習の時間

7 東日本大震災からの復興支援

平成23年3月11日午後2時46分、宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生した。震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西約200kmの広範囲に及んだ。福島県立博物館のある会津若松市は震度5強の揺れを被った。福島県立博物館では、建物の躯体そのものには被害はなかった。しかし、設備および資料に若干の被害があり展示室の安全性の確認と修繕工事のため当面のあいだ休館とした。再開したのは平成23年4月12日（火）である。

福島県域は地震とそれに伴う津波、そして東京電力福島第一原子力発電所の事故により甚大な被害を被った。当館では震災からの復興支援を目的として、平成24年度に新たに「ふくしまの文化・自然遺産の発掘と再生プロジェクト」を立ち上げた。これは次の3つの柱からなっている。

1 ふくしまの宝の発掘と保全

市町村や文化施設および大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・収集し、その価値を明らかにすることに努める。

2 ふくしまの宝の公開と活用

救出および新たに収集した文化財およびその研究成果をさまざまな形で県民に発信し、地域の誇りをとりもどすとともに、それらを教材として、ふくしまの未来を担う子供たちの育成を図る。

3 ふくしまの再生と活性化

文化施設や地域の文化団体、市民グループと連携し、文化資源を活用した地域おこし、文化的事業の開催など、文化の力を用いて地域の再生と活性化を図る。

このコンセプトに基づいて復興支援の事業を展開している。

また、東日本大震災の翌年あたりから浜通り地方の復興事業に伴う事前発掘調査が年々増大している。福島県教育委員会では発掘調査を担当できる職員に限りがあるため、他都道府県教育委員会に職員の派遣に関する協力を依頼し、毎年6名前後の職員を派遣していただいている。平成28年度は、当初計画よりも発掘調査が必要な事案が増え、既存の県教育委員会担当職員では対応が難しい状況となったため、当館考古分野の学芸員が急遽、発掘調査の実施について協力を行うことになった。

このような経過により、平成28年度は次の事業を実施した。

(1) 文化財・自然資料レスキュー

ア 平成28年度の活動

(ア) レスキュー作業の体制

前年度から継続して「福島県被災文化財等救援本部」（以下「救援本部、当館は副代表・幹事・事務局」に参画して活動した。幹事会1回、会議1回。

(イ) 被災資料への対応

大熊町・富岡町に続いて、双葉町歴史民俗資料館に収蔵されていた資料の搬出作業が、平成28年5月に終了した。3町の資料館の収蔵資料を保管する福島県文化財センター白河館（まほろん）の仮収蔵庫の環境調査については、今年度も継続して協力した。

警戒区域の再編や解除などが進み、住民の帰還が始まる中で個人所有の資料などの保全が、あらためて必要になってきた。当該市町村など関係機関と協力しながら、民俗資料など2件を当館で受け入れた。震災後から受け入れてきた資料については、整理作業を継続して行い、また資料の返還も3件あった。

(ウ) 救出された資料の展示公開

- a 当館テーマ展「ふるさとの考古資料6【飯館村】遺跡探訪」（平成27年度から継続）
- b 当館テーマ展「けんぱくの宝1」（7月5日～8月28日）
- c 当館特集展「南極の自然と南極観測」（7月16日～8月21日）
- d 当館特集展「収蔵庫からこんにちは」（10月15日～11月27日）

(エ) 研修会・研究会への参加

被災資料の保全に関する講演会やシンポジウムなどに参加した。

(オ) 5年間のレスキュー活動紹介パネル展示

昨年度の年報にまとめた震災後5年間の活動の内容を要約して、特集展「収蔵庫からこんにちは」（10月15日～11月27日）においてパネル展示し、パンフレットにも掲載した。また、平成29年3月4日からは当館展示室内の展示ロビーにおいてパネル展示を行った。

イ 今後の課題

(ア) 受け入れてきた文化財・自然資料への対応（継続）

(イ) 旧警戒区域からの文化財・自然資料の搬出・保全

（継続）

a 個人所有資料の保全

b 救出された文化財・自然資料の収蔵・公開施設についての検討

(ウ) 救出された文化財・自然資料の展示公開（継続）

(エ) 今後の災害に備えたしくみづくりや準備

8 次世代ミュージアム機能

第2期中期目標で目標設定している次世代ミュージアム機能に関して、東日本大震災による震災の共有と継承、福島県における新たな文化事業の創出と定着を達成するため、2件のプロジェクト活動を行った。

(1) はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト

平成23年3月11日の東日本大震災、その後の東京電力福島第一原子力発電所事故により福島県内には津波・地震による被害に加え放射線汚染被害、さらに、そこに由来するコミュニティの分断、風評被害が発生し、今なお多くの局面で復旧・復興が急がれている。

この状況から一歩でも前進するため、福島県立博物館と福島県下の各地域の博物館、文化事業に携わる大学、NPOなどの諸団体が連携し文化活動の支援を行うことを目的に、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトを平成24年にスタートした。

平成24年度は、地域への愛着を象徴するような文化財

の活用に配慮し復興につながる文化的事業の継続的な展開をめざした。

平成25年度は前年度の実績を踏まえ、事業をさらに発展させるとともに、福島県立博物館と地域との協働、他分野との連携・融合、地域へのアウトリーチを積極的に推進した。

平成26年度は、震災後4年目の福島に必要な文化的な事業を、各団体との協議の上で計画し、福島の文化の豊かさの再認識、福島の現状の共有と発信を柱に実施した。

平成27年度は、震災・原発事故からの時間の経過と共に際立つようになった県内各地域が抱える問題・課題の差異に留意しながら、それらの解決につながる文化的なアプローチとなることを目指した。

福島県を地理的に区分する「はま・なか・あいづ」は、それぞれの地域の文化や自然の特徴を生み、福島に多様な豊かさをもたらすものであり、福島県立博物館が開館以来その活動をもって調査、収集、記録、発信していくべきものである。平成23年以降は、その地理的区分は、同時に、震災と原発事故による影響の差異を生み出すものともなった。その差異もまた、歴史的な事象として当館が記録し、将来へ残すべき福島の記憶である。豊さと課題。福島が大事にし、向き合わなくてはならないそれらを多くの方と共有することを目的に、福島県立博物館ならではの調査、記録の技術、経験、文化拠点としてのネットワークを活用し、平成28年度は11のプロジェクト・プログラムを実施した。

(2) ふくしま震災遺産保全プロジェクト

東日本太平洋沖地震は県内に甚大な被害をもたらし、原発事故も引き起こした。これらにより多量の瓦礫、仮設住宅や汚染物質の保管施設など予想しなかった非日常の景観を新たに生み出した。本プロジェクトは、震災が発生させたこれらの遺産を次世代に震災の経験を伝える地域の重要な歴史資料と捉え、それらを保全し、防災教育等へ活かすための取り組みで、平成26年度から開始した。

事業は文化庁の文化芸術振興費補助金（地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業）の採択を受け、実行委員会を組織（実行委員会構成団体：相馬中村層群研究会・南相馬市博物館・双葉町歴史民俗資料館・富岡町歴史民俗資料館・いわき市石炭化石館・ふくしま海洋科学館・いわき自然史研究会・福島県立博物館）し、事務局を県立博物館内において以下の事業を実施した。なお平成27年度から博物館内に震災遺産保全プロジェクトチームを設置した。

9 開館30周年記念事業

福島県立博物館の開館30周年にあたり、福島県立博物館の30年間の活動のアウトプット、ニューアルに向けた試行・実験の2点をコンセプトに、平成28年度を通して、記念特集展、記念イベント、広報事業を行った

(1) 実施時期：平成28年4月～平成29年3月

(2) 担当者

山田英一（副館長）、板橋良英（総務課長）、田中敏（学芸課長）、荒木隆・小林めぐみ・阿部綾子・内山大介・大里正樹（学芸員）

(3) 内容

ア 特集展「収蔵庫からこんにちは」

詳細は第4節展示事業 特集展を参照。

イ 記念イベント

詳細は第6節教育普及事業 30周年記念イベントを参照。

ウ 広報事業

(ア) 30周年ロゴ、イメージポスター、イメージフラッグの作成

開館30周年のシンボルカラーを、県立博物館竣工記念として会津藩祖保科正之公ゆかりの地長野県高遠町（現伊那市）より贈られ、当館周辺に植樹された「小彼岸桜」の色に決定。30周年のロゴや当館周辺の外灯に設置したイメージフラッグ等で用いて、統一した広報イメージの作成を企図した。

また、福島県立博物館の30年間の活動と未来への目標を伝えるものとして30周年イメージポスターを制作。博物館のこれまでの成果と今後の使命を発信した。

30周年ロゴ、イメージフラッグ、イメージポスター デザイン：久家三夫

(イ) 福島県立博物館シンボルマーク原案の公募と決定
福島県立博物館開館30周年を記念し、さらに人々に親しまれる場を目指して間の魅力を分かりやすく伝えるためのシンボルマークの原案を募集。平成28年4月1日時点で18歳以下の全国の小、中学生、高校生を対象とし、福島県内を中心に全国から1,043点（県内1,038点、県外5点（埼玉・東京・滋賀・奈良・佐賀））の応募があった。

選考委員による選考を経て、奈良県にある関西文化芸術高等学校ヴィジュアルデザイン専攻デジタルデザインコース3年生の上平瑠菜さんの原案が大賞を受賞した。

上平さんの原案は、福島県いわき市で出土し、当館の部門展示室自然でも復元模型を展示している「フタバサウルス（通称：フタバズキリュウ）」をモチーフとしたもの。愛らしい姿と、これからの福島の未来を生みだすように卵を抱えたデザインが評価された。

選考結果は、開館30周年記念式典で公表された。

上平さんの原案を元に、福島大学の渡邊晃一教授（美術）と渡邊ゼミの学生がマークを整え、完成させた。決定したシンボルマークは、当館の広報物等で活用されている。

(ウ) 「けんぱくラヂオ」

福島県立博物館の平成28年度の活動の見どころ等をわかりやすく担当者からお伝えることを目的に、平成28年5月～平成29年2月の期間、毎月2回放送のラジオ番組「けんぱくラヂオ」（放送：FM会津）を実施した。30周年記念事業担当学芸員4名が2カ月ずつメイン担当者となり、その時々のお勧め事業の担当者等も交えながら事業の紹介を行った。

第15節 福島県自然の家

1 概要

(1) 沿革

昭和47年県内初の県立少年自然の家として、また、東北でも3番目の宿泊研修用の先導的施設として「福島県少年自然の家」(以下「自然の家」という。)を開設。

昭和50年海浜型の青少年社会教育施設として「福島県海浜青年の家」(以下「青年の家」という。)を開設。同年発足した「財団法人福島県海浜青年の家」が管理運営を行うこととなる。

昭和56年県立少年自然の家2施設目となる「福島県会津少年自然の家」を開設。これに伴い、「自然の家」の名称を「福島県郡山少年自然の家」に改める。

平成8年「福島県いわき海浜自然の家」を開設。これに伴い、「青年の家」の名称を「福島県相馬海浜自然の家」に改める。運営財団の名称を「財団法人福島県海浜自然の家」に変更し、海浜型2施設の管理運営を行うこととなる。

平成10年福島県教育庁の直営であった「福島県郡山少年自然の家」及び「福島県会津少年自然の家」の名称を「福島県郡山自然の家」及び「福島県会津自然の家」と改める。これにより財団の名称を「財団法人福島県自然の家」に変更し、県内4施設の管理運営を行うこととなる。

平成18年度から指定管理者制度を導入し、平成20年度までの3年間「財団法人福島県自然の家」が指定管理者となり4施設の管理運営を行うこととなる。

指定管理者であった財団が平成20年度末をもって解散したため、平成21年度から4施設とも県の直営による管理運営となる。

平成22年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」が「財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。なお、他3施設については検討会の条件を満たす団体がいないため直営による運営が継続されることとなる。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、「福島県会津自然の家」は同年7月2日まで「福島県郡山自然の家」は同年8月28日まで避難所として運営を行う。また「福島県いわき海浜自然の家」の指定管理は震災の影響により平成23年11月1日からの開始となる。なお「福島県相馬海浜自然の家」は地震・津波の甚大な被害を受け平成24年3月31日をもって公所廃止となる。

平成25年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」について平成26年度から平成30年度まで「財団法人いわき市教育文化事業団(平成26年度より公益財団法人に移行)」に指定管理することとなる。

(2) 所在地

ア 福島県郡山自然の家

福島県郡山市逢瀬町多田野字中丸山46

〒963-0213 TEL 024-957-2111

FAX 024-957-2112

URL <http://www.koriyama-nc.fks.ed.jp/>

イ 福島県会津自然の家

福島県河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山4495-1

〒969-6504 TEL 0242-83-2480

FAX 0242-83-2481

URL <http://www.aizu-nc.fks.ed.jp/>

ウ 福島県いわき海浜自然の家

福島県いわき市久之浜町田之網字向山53

〒979-0335 TEL 0246-32-7700

FAX 0246-32-7730

URL <http://www.iwaki-nc.fks.ed.jp/>

2 教育目標及び基本的視点

(1) 教育目標

恵まれた自然環境の中で、野外学習や集団宿泊活動など様々な活動を通して主体的に対応できる人々の育成を目指す生涯学習の推進のため、次の目標を設定する。

ア 自然の恩恵にふれ、自然に親しむ心や敬虔の念を育てる。

イ 集団宿泊活動を通して規律・協同・友愛及び奉仕の精神を養う。

ウ 自然体験活動を通して自ら実践し、創造する態度を育てる。

(2) 基本的視点

豊かな自然体験を楽しめる施設として、その機能を十分に発揮するために、施設・設備の整備や運営方法の確立・改善に努め、利用者が充実した活動を展開できるよう、次の基本的視点に基づきそれぞれの施設の運営にあたる。

ア 所員の英知と創意を結集し、施設の充実・整備を図り活気と魅力ある施設の運営に努める。

イ 利用者の多様なニーズや利用目的に応じた柔軟な運営を行うよう努める。

ウ 立地条件を生かした特色ある企画事業を展開するとともに、学校や地域に生きる活動種目やその指導方法の研究開発に努める。

エ 民間の指導者の協力や高校生・大学生等にボランティアとして参加していただけるように努める。

オ 現代的課題の解決に対応する事業を推進し、その情報発信に努める。

第 16 節 福島県郡山自然の家

1 概要

郡山自然の家は、昭和 47 年に「福島県少年自然の家」という名称で設立され、小・中学校の宿泊体験学習の場として開所して以来 44 年が経過し、平成 26 年 5 月には、延べ利用者数が 160 万人に達した。

本施設は、郡山駅より西へ約 11km、郡山南インターより車で約 8 分という交通の便に恵まれ、しかも豊かな自然環境に囲まれている都市近郊型の自然の家であり、心身共に健全な青少年と心豊かな社会人を育成することを目的とした教育施設である。

平成 20 年度まで 11 年間、県内 4 つの自然の家を運営してきた財団法人福島県自然の家が解散し、平成 21 年度から県直営としての運営形態に変わり 8 年目を終了した。

利用者は、これまで主体であった小・中学生のみならず、園児、高校生、一般社会人、家族など利用者層が多様多様になってきている。恵まれた自然環境の中で、「みどり・であい・感動」をキャッチフレーズに、野外活動や集団宿泊活動を通して、「自然に親しむ心や畏敬の念」「規律・協同・友愛・奉仕の精神」「自ら実践し、創造する態度」の育成を目指し、様々な活動を展開するとともに、生涯学習の拠点として、広く県民に利用していただけるような施設を目指し、施設の改築・改修や本館の段差を解消するなど障がい者にもやさしい施設づくりを進めてきた。

また、園児から高齢者までの幅広い年齢層に対応し、多くの人に利用していただけるよう、多種多様な企画事業の展開や、特色あるプログラムの開発に努めてきた。

さらに、放射線の影響を心配する利用者の声にこたえるため、毎月エリア内の放射線量を測定してホームページに載せたり、クラフト活動で使用する木材等については、放射線量の低い地域から採集したり、「みどりの宅配便」を利用して全国から取り寄せたりした。また、放射線量が比較的高い場所のこまめな除草や表土の除去、活動コース付近の落ち葉等の清掃を実施し放射線量の低減化に努めた。

年間の利用状況は、震災前の 9 割程度まで回復し、利用団体数 4 1 5 団体、延べ利用者数 2 3, 7 1 3 人となった。

(1) 職員組織

職員組織は、以下のとおりである。

職名	所長	次長	主査	専門員	主任 社 教 主 事	社 会 教 育 主 事	計
人員	1	1	1	1	1	2	7

(2) 平成 28 年度重点目標と成果

「復興加速の年」と位置づけ、利用者数を震災前の水準まで戻すために次の点に力を入れて取り組んだ。

ア 利用団体への効果的な支援の充実

(ア) 団体が主体的に活動できるようにするために、学校利用・社会教育団体利用ともに、利用団体の指導者との連携を密にしてきた。学校利用については、4 月と 7 月に「学校利用指導者研修会」を実施し、フィールドワークやアーチェリーなどの実技研修の他、施設の概要説明や活動計画の立案に対しての指導・援助を行った。また、事前打合せや実地踏査・下見等を奨励し、各利用団体が主体的に活動できるように支援した。

(イ) 社会教育団体の利用については、6 月と 7 月に「社会教育団体利用指導者研修会」を実施し、施設見学や活動計画の調整などを行った。また、各団体代表者との電話連絡を密にし、各団体の利用目的に応じた活動が展開できるよう努めた。

(ウ) 職員の技能及び資質の向上を図るために、各種研修会に積極的に参加するなど、職員の研修に力を入れた。また、利用団体の指導者及び利用者の声をアンケート等により集約・分析して、職員の対応や準備物、食事等の改善に努めるとともに、利用者の立場に立った施設の運営に努めた。

イ 特色ある企画事業の運営

(ア) 季節感を生かした魅力ある企画事業を計画するとともに、ボランティアを積極的に活用したり、地域や関係機関との連携を図ったりすることができた。

(イ) 前年度の反省や評価を踏まえ内容や方法等に工夫・改善を加え、参加者の満足度を高める運営に努めた。

(ウ) 利用者増を図るために新規の企画事業を立案し、幅広い年代に応じた特色ある企画事業を実施することができた。

ウ 広報の充実と利用促進

(ア) 多くの団体に利用してもらえよう、利用拡大に向けて、積極的に広報活動を行ってきた。学校利用の拡大については、各種企画事業の案内をその都度電子メールで送付するなど、より多くの学校に利用していただけるよう PR 活動を行った。また、未来キッズ生き生き事業については、中通り地区の全小学校・児童に案内を配付し募集を図った。

(イ) 企画事業案内や事業実施後の企画事業のあしあとをホームページに掲載するなど、ホームページの改善・充実に努めた。また、毎月エリア内 1 3 カ所の放射線量をホームページに掲載し、利用者が安心して利用できるよう配慮した。

(ウ) 企画事業では、報道機関を通じた周知活動や広報活動を積極的にを行い、利用拡大に努めた。また、新聞社

やタウン誌に企画事業に関する記事の掲載の依頼をすることで、多くの方の参加につなげることができた。

(エ) 利用促進を図るため、平成 25 年度から家族を対象とした会員登録制度を立ち上げ、名称を本所のマスコットキャラクターにちなんで「サザッピークラブ」とした。登録した会員には会員証を発行して入所手続きの簡略化を図ったり、企画事業の案内を送付したりして利用促進につなげた。また、利用回数に応じて、特製のシールやキーホルダーを贈呈した。125 家族、443 名が会員となっている。

エ 安全管理と保健安全指導の徹底

(ア) 「事故はどこでもいつでも起こり得る」という認識に立って、所員の安全意識の向上を図り、施設設備の日常点検及び定期点検の実施はもちろんのこと、利用者に対しても働きかけ、積極的に安全対策を行ってきた。

また、特に次の点に力を入れてきた。

- 各団体の活動前のコース点検や遊具点検の徹底
- 食中毒防止のための、手洗い・アルコール消毒の徹底
- 食物アレルギー対応のための、利用団体との連絡及び食堂との連携
- スズメバチ対策のための、捕虫装置の設置と点検
- 松食い虫による倒木防止のための計画的な伐採

(イ) 防災に関しては食堂等の委託業者にも参加してもらい、消火訓練や火災が起きたことを想定した避難訓練を実施するとともに、日常の点検を怠ることのないようにした。

さらに、不審者の侵入防止を図るためのマニュアルを作成して職員研修により理解を深めた。常に来所者に声をかけ、車止めや施設の施錠に万全を期すなどして、安全管理に努めてきた。

オ 施設・設備の整備

(ア) 利用者が快適に利用できるように、現在の施設環境のもとでできることは何かを考えながら、ハード面とソフト面の両面から改善を行ってきた。

また、安全対策として、利用者が利用する総合活動館やアスレチックなどの遊具全般の点検と併せて必要な補修整備に努めてきた。

(イ) 館内については、季節ごとの掲示に心がけたり、利用者から届いた写真や手紙を工夫して掲示したりするなど、変化のある計画的な掲示に努めた。

イ ロッジ 126 名 (9 棟)

ウ テント 120 名 (20 張)

(3) 敷地面積

237,587.59 m²

(4) 建物面積

○ 延床面積 3,806.08 m²

- ・本館 (管理棟・宿泊室・研修室・浴室)
- ・体育館、総合活動館、野外活動センター、東西炊飯場、ロッジ等

(5) 設備備品等

○ 野外活動設備

- ・みどりの広場アスレチック
※28 年度リニューアルオープン
- ・フィールドアドベンチャーコース
※29 年度リニューアルオープン予定
- ・アーチェリー場 (24 的)
- ・ナイトハイクコース (3 コース)
- ・スコアオリエンテーリングポスト (20)
- ・フィールドワークコース (赤・青)
- ・スタンプラリー (20)
- ・営火場 (4)

○ その他

- ・野外炊飯用具
- ・インラインスケート
- ・frisbee ゴルフ
- ・フロッカー
- ・キンボール
- ・ペタンク
- ・マウンテンバイク
- ・グランドゴルフ
- ・ターゲットバードゴルフ
- ・そり
- ・各種クラフト用具
- ・伝承遊びセット
- ・ピアノ
- ・双眼鏡
- ・液晶プロジェクター
- ・インターネット接続大型液晶テレビ等
- ・ジェットヒーター
- ・ブルーヒーター

2 施設・設備の概要

(1) 所在地

〒963-0213

郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46 番地

(2) 宿泊定員

ア 本館 166 名 (14 部屋)

3 企画事業

(1) 研修会事業

ア 学校利用指導者研修会（第1回、第2回）

(ア) 期日・対象校及び参加者数

a 第1回

期日 平成28年4月20日(水)

対象校 4月～7月まで利用の学校

参加者 43名

b 第2回

期日 平成28年7月26日(火)

対象校 8月～10月まで利用の学校

参加者 45名

(イ) 研修内容（第1回、第2回とも同じ内容）

- ・施設案内
- ・実技研修（アスレチック、フィールドワーク、スコアOL、室内アーチェリー、ニュースポーツなど）
- ・全体会
- ・施設の利用の仕方等
- ・活動プログラムの調整（所バス利用調整を含む）

イ 社会教育団体利用指導者研修会（第1回、第2回）

(ア) 期日・対象団体及び参加者数

a 第1回

期日 平成28年6月12日(日)

対象 6月～7月まで利用団体の指導者

参加者 17名

b 第2回

期日 平成28年7月3日(日)

対象 8月～9月までの利用団体の指導者

参加者 16名

(イ) 研修内容（第1回、第2回とも同じ内容）

- ・全体会
- ・施設の利用の仕方等
- ・活動プログラムの作成及び調整（所バス利用調整を含む）

(2) 利用拡大事業

ア サクラ・カタクリ週間

(ア) 期日・対象者及び参加者数

期日 平成28年4月3日(日)～24日(日)

対象者 どなたでも

参加者 53名

イ みどりの広場アスレチックオープニングセレモニー

(ア) 期日及び参加者数

期日 平成28年4月8日(金)

参加者 郡山市立多田野小学校（堀口分校含）

4年生と先生方45名

(イ) 内容 児童代表あいさつ・テーブルカット・自由活動

ウ さくらウォーク

(ア) 期日・対象者及び参加者数

期日 平成28年4月16日(土)

対象者 どなたでも

参加者 40名

(イ) 活動内容

- ・自然の家を出発し、約10kmのウォーキング
- ・みどりの広場アスレチック
- ・総合活動館開放

エ 五色沼ハイキング

(ア) 期日・対象者及び参加者数

期日 平成28年5月8日(日)

対象者 小学3～6年生

参加者 16名

(イ) 活動内容

- ・毘沙門沼周辺ハイキング（3.6km/エコガイド付）
- ・裏磐梯物産館、サイトステーション見学

オ 未来キッズ生き生き事業

(ア) 期日・対象者及び参加者数

期日 平成28年5月15日(日)、22日(日)

対象者 二本松市・本宮市・安達郡

参加者 1回目)88名 2回目)53名

期日 平成28年6月5日(日)、19日(日)

対象者 福島市・伊達市・伊達郡

参加者 1回目)121名 2回目)53名

期日 平成28年7月10日(日)、17日(日)

対象者 郡山市・田村市・田村郡

参加者 1回目)149名 2回目)99名

期日 平成28年8月21日(日)、28日(日)

対象者 白河市・西白河郡

参加者 1回目)69名 2回目)31名

期日 平成28年9月18日(日)、25日(日)

対象者 石川郡・東白川郡

参加者 1回目)23名 2回目)22名

期日 平成28年10月16日(日)、30日(日)

対象者 須賀川市・岩瀬郡

参加者 1回目)69名 2回目)13名

(イ) 活動内容

- ・スコアOL、ノルディックウォーキング
- ・活動館、みどりの広場アスレチック
- ・おうせ茶屋（出店/昼食）

カ 親子でチャレンジ

(ア) 期日・対象者及び参加者数

期日 平成28年6月11日(土)

対象者 親子または祖父母と孫

参加者 53名

(イ) 活動内容

- ・スコアOL、フィールドビンゴ（小学4～6年生）
- ・野外炊飯

キ 夢冒険キャンプ

(ア) 期日・対象者及び参加者数

期日 平成28年8月3日(水)～5日(金)

対象者 小学5、6年生

参加者 28名

(イ) 活動内容

a 第1日

- ・開講式・オリエンテーション
- ・サイクリング・ニジマスつかみ・沢遊び
- ・野外炊飯(カレーライス)・星空観測会

b 第2日

- ・安達太良登山
- ・野外炊飯(焼肉)・ナイトハイク

c 第3日

- ・スコアオリエンテーリング
- ・野外炊飯(冷やし中華)
- ・閉講式

ク 第14回郡山自然の家オープンデー

(ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業 夏期間)

(ア) 期日・対象者及び参加者数

期日 平成28年9月11日(日)

対象者 どなたでも

参加者 657名

(イ) 活動内容

- ・オープニングセレモニー(郡山自衛隊による和太鼓演奏・百花繚乱によるよさこい演舞)
- ・各種プログラム体験(アーチェリー・インラインスケート・缶バッジ製作・活動館開放など)
- ・イベント参加(ザリガニ釣り・似顔絵コーナー)
- ・公園の駅「おうせ茶屋」、郡山きのこファーム出店
- ・ステージ発表(天栄中学校吹奏楽部、他3団体)

ケ 手ぶらで、いも煮会

(ア) 期日・対象者及び参加者数

期日 平成28年10月15日(土)

平成28年10月23日(日)

対象者 家族またはグループ

参加者 1回目)54名 2回目)61名

(イ) 活動内容

- ・野外炊飯(いも煮会)
- ・みどりの広場アスレチック体験
- ・活動館開放

コ 蓬田岳登山

(ア) 期日・対象者及び参加者数

期日 平成28年11月5日(土)~6日(日)

対象者 一般

参加者 21名

(イ) 活動内容

- ・外部講師による講話(前日/前泊)
- ・蓬田岳登山

サ なすかしの森キンボール教室 in 郡山

(ア) 期日・対象者及び参加者数

期日 平成28年11月26日(土)~27日(日)

対象者 小学生を含む親子

参加者 23名

(イ) 活動内容

- ・キンボール教室(外部講師による)
- (プログラムⅠ~Ⅲ、ゲーム他)

シ メリークリスマス&ハッピーニューイヤー

(ア) 期日・対象者及び参加者数

期日 平成28年12月4日(日)

対象者 どなたでも

参加者 門松づくり 45名

アロマキャンドルづくり 20名

(イ) 活動内容

- ・アロマキャンドルづくり(本所職員による)
- ・門松づくり(外部講師による)

ス 親子スケート教室

(ア) 期日・対象者及び参加者数

期日 平成29年1月15日(日)

対象者 親子または家族

参加者 34名

(イ) 活動内容

- ・講師の指導による基本的な動き、自由滑走

セ わくわく!ファミリー冬のつどい

(ア) 期日・対象者及び参加者数

期日 平成29年1月28日(土)~29日(日)

対象者 小・中学生を含む家族

参加者 33名

(イ) 活動内容

- ・猪苗代スキー場でのスキー体験、そり滑り

ソ 冬の文化祭「クラフトまつり」

(ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業 冬期間)

(ア) 期日・対象者及び参加者数

期日 平成29年2月19日(日)

対象者 どなたでも

参加者 68名

(イ) 活動内容

- ・ビュンビュンリング
- ・万華鏡
- ・ウッドアクセサリー
- ・ビュンビュン飛ばし大会
- ・表彰式

タ サザンピーククラブ感謝デー

(ア) 期日・対象者及び参加者数

期日 平成29年3月5日(日)

対象者 サザンピーククラブ会員親子

参加者 20名

(イ) 活動内容

- ・いわき海浜自然の家でのクラフト体験
- ・いわき・ら・ら・ミュウ及びその周辺での自由散策

チ みどりの広場アスレチック&活動館開放します

- (ア) 期日・対象者及び参加者数
a 期 日 前期 平成28年4月9日(土)、23日(土)
対象者 特別支援学校、学級の幼児及び小学生と
その家族

- b 期 日 前期 平成28年4月10日(日)、24日(日)
対象者 幼児及び小学生とその家族

- (イ) 活動内容
・みどりの広場アスレチック(10基)
・体育館内で各種遊具を使った活動(ストラックアウト、竹馬、一輪車、縄跳びなど)
※ 11月～3月は、活動館の改修工事のため利用中止となった。

ツ 特別企画 自然の家でからだを動かそう

- (ア) 期日・参加者数
期 日 平成28年11月15日(火)～平成29年3月28日(火)までの平日、9:00～16:00までとする。

参加者 12園、総勢368名

- (イ) 活動内容
・体育館やアスレチックを利用した運動
・屋外での雪遊び、そり滑り

(3) 協力事業

ア 安積山登山

(安積アルプス出逢いプロジェクト実行委員会主催)

- (ア) 期日・対象者及び参加者数
期 日 平成28年5月28日(土)～29日(日)
対象者 どなたでも
参加者 241名

- (イ) 活動内容
・高篠山森林公園→御霊櫃峠→安積アルプス→熱海登山口→ユラックス熱海入口までの縦走トレッキング(総距離約15km)

イ ノルディックウォーキング大会

(県ノルディックウォーキング協会主催)

- (ア) 期日・対象者及び参加者数
期 日 平成28年6月5日(日)
参加者 105名(5km参加者数)

- (イ) 活動内容
・5kmコース(浄土松公園→八畳座敷→冒険の丘→本所(トイレ休憩)～きこの岩コースの所員による警備)

ウ 第29回浄土松公園まつり

(浄土松公園まつり実行委員会 主催)

- (ア) 期日及び参加者数
期 日 平成28年10月9日(日)
参加者 800名

- (イ) 活動内容
・クラフト体験(缶バッジ)

エ 子どもの祭典

(須賀川市明るいまちづくりの会連絡協議会主催)

- (ア) 期日及び参加者数
期 日 平成28年10月9日(日)
参加者 1,000名

- (イ) 活動内容
・クラフト体験(缶バッジ)

オ 会津の冬を満喫! ウィンターフェスティバル
(会津自然の家主催)

- (ア) 期日・対象者及び参加者数
期 日 平成29年1月21日(土)～22日(日)
参加者 63名(県中地区参加者)

- (イ) 活動内容
・スキー
・スノーシュー、そり滑り
・会津の民話

第 17 節 福島県会津自然の家

1 概要

福島県会津自然の家は、恵まれた自然環境の中で、自然に親しむ活動や集団宿泊生活、野外活動を体験することにより心豊かで心身ともに健全な県民を育成することを目的とした生涯学習施設である。

昭和 56 年 4 月に開所し、本年度末で 36 年になり、開所以来多くの方々にご利用いただいているところである。

本年度の利用者数は、4 万 3 千人強で、昨年度を 9 千人強上回った。これは、「ふくしまキッズフェスタ 2016 in 会津」「未来キッズ生き生き事業」や「ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業」の実施をはじめ、様々な企画事業や、企業など、新たな利用者層への利用促進に努めてきたことによるものと考えられる。

また、5 つの重点目標を掲げ、その達成に努めるとともに、誰もが利用しやすい魅力的な施設をめざして運営の改善を図り、時代や利用者のニーズに対応した生涯学習施設の役割に積極的に取り組んできた。

(1) 職員組織

職名	所長	主幹兼次長	主任	主任社教主事	社会教育主事	指導主事	体験活動指導員	嘱託運転手	計
人員	1	1	1	1	3	1	3	1	12

(2) 平成 28 年度重点目標と成果

年間利用者数 4 万人以上の成果目標を達成するために、次の点に力を入れて取り組んできた。

【 】の数値は職員による自己評価の平均値

ア 事故の絶無を期する安全管理と保健安全指導を徹底します。【3.09】

(ア) 日常（事前、事中、事後）及び定期の安全・確認の徹底【3.13】

定期安全点検だけでなく、労務員も含めた全所員による日常点検を徹底し、事故防止に努めることができた。

(イ) 利用者への適時的確な指導助言【3.34】

気象条件等、様々な状況の変化に対応し、所員の連携を図りながら、助言に努めることができた。

(ウ) 傷病、感染症（インフルエンザ、感染性胃腸炎等）防止【3.34】

食堂業者との連携も密にし、疾病や感染症防止に

努めることができた。

(エ) 施設の整備、修繕【3.18】

日常点検を大切にし、危険箇所を発見したらすぐに整備、修繕を行った。

イ 「好感度」の高い施設を目指す親切な接遇に努めます。【3.55】

(ア) 笑顔と元気なあいさつ、親切・ていねいな接遇

【3.64】

団体対応だけでなく、来客や電話対応など、相手の立場に立った対応に努め、好感度の高い施設を目指すことができた。

(イ) 利用者一人一人の立場に立った支援及び利用目的や目標達成のための支援【3.44】

利用者のねらい達成のために、必ず団体に担当所員がつき、積極的に支援を行った。

(ウ) 施設内・フィールド内ごみゼロ及び整理整頓

【3.04】

所員だけでなく、委託業者とも連携し、清潔な所内外の環境づくりに努めることができた。

ウ 教育目標を達成する研修プログラムを充実します。

【2.99】

(ア) 里山、堤及び周辺環境の活用、四季を通して体験できる野外活動の充実【2.58】

研修委員会を中心に新たなプログラム開発を行い、各団体のニーズに合った活動ができるように配慮した。

(イ) 新たなプログラム開発による閑散期の活用方法の工夫【2.85】

閑散期に利用者を受け入れることができるように、缶バッジやカラーキャンドルなど屋内活動のプログラムを充実させてきた。

(ウ) ボランティアの確保及び活用の充実【3.05】

ボランティアセミナーを年 4 回実施し、ボランティアの確保とともに、参加者のスキルアップに努めてきた。

(エ) 職員一人一人の絶えざる研鑽と修養【3.09】

お互いのプログラム指導を見合う場を設けたり、研修の場を設けたりして、所員全体のスキルアップに努めた。

エ 生涯学習施設の拠点として、独創的で多様な企画事業と研修会を充実します。【3.05】

(ア) 自然体験活動の促進及び歴史・文化に係る事業の工夫【3.35】

会津坂下町と連携した高寺山登山や東松峠ウォーキング大会などの企画事業をとおして、地元の歴史に触れる場を設定した。

(イ) 社会や利用者のニーズに応え、前年踏襲にとらわれ

ない事業の企画立案【3.09】

ボランティアセミナーを年4回の企画事業として設定したり、年6回の未来キッズ生き生き事業において市町村ごとにバスを出したりするなど、新たな試みをし、ニーズに応えるようにした。

(ウ) PDCAサイクルの確実な実施【3.04】

PDCAサイクルを確実に実施することにより、反省点を活かして、次の事業などの計画立案を進めることができた。

(エ) 地域及び生涯学習施設（自然の家、公民館、美術館、博物館、図書館等）との連携【3.00】

磐梯青少年交流の家や地元の公民館との連携事業を実施するなど、相互に高めあえる場の設定をした。

オ 利用者数、利用者層を拡大する効果的で多様な広報活動を充実します。【3.35】

(ア) ホームページの充実及び適時的確な更新【3.20】

タイムリーな話題を時期を逃さず、ホームページにアップできるように、担当だけではなく、全所員で声を掛け合った。

(イ) 情報発信の工夫【3.47】

新たな利用者層にアプローチするために、フェイスブックを立ち上げ、利用促進につなげることができた。

(ウ) 誘客活動の工夫【3.23】

学校、公民館など教育施設だけではなく、企業訪問を行い、利用者の拡大につなげることができた。

(エ) 記録の蓄積及びデータの確実な分析【3.34】

利用者アンケートや食堂アンケートなどの利用者の声を、確実に集計、分析し、改善につなげることができた。

2 施設・設備の概要

(1) 所在地

河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山 4495 番 1

(2) 宿泊定員

- ア 本館 26室 292名(うち1室障がい者用)
- イ ロッジ 10棟 150名
- ウ テント 10張 60名

(3) 敷地面積

249,654 m²

(4) 建物面積

- ア 延床面積 5,462.7365 m²
 - (ア) 管理研修棟(鉄筋造2階建)
 - (イ) 宿泊棟(鉄筋造2階建)
 - (ウ) プレイホール(鉄筋造)
 - (エ) アセンブリホール(鉄筋造)
 - (オ) 機械棟(鉄筋造3階建)
 - (カ) ロッジ(木造平屋建)
 - (キ) 野外活動管理センター(鉄筋造)
 - (ク) 炊飯場(鉄筋造)

(ケ) 薪置場(コンクリートブロック造)

(コ) 車庫(鉄筋造)

(サ) 野外便所(鉄筋造)

(5) 運動広場面積

8,500 m²

(6) 設備備品等

- ア フィールドアスレチック
- イ 野外活動用具、野外炊飯用具、運動用具
- ウ 双眼鏡、天体望遠鏡、テレビ、VTR
- エ 液晶プロジェクター、CDカセットプレーヤー
- オ ピアノ、オルガン
- カ 伝承遊びセット
- キ クラフト用具
- ク 各種オリエンテーリング用具
- ケ アルペンスキー
- コ 歩くスキー(クロスカントリースキー)
- サ そり
- シ スノーシュー
- ス 営火場(4箇所)
- セ 諸活動コース
- ソ その他

3 利用状況

(1) 当施設を利用可能対象者

- ア 学校団体(小学校、中学校、特別支援学校、高校、大学、高等専門学校、幼稚園等の構成員及びその指導者)
- イ 社会教育団体(公民館、子ども会、保育所、スポーツ少年団、老人会、勤労青少年団体等)の構成員及びその指導者
- ウ 教育長が適当と認めた者
- エ その他、家族などの一般人

(2) 平成28年度の利用団体数

- ア 618団体
- イ 実利用者数 30,479人
- ウ 延利用者数 43,083人

(3) 子どもたちへ体験活動機会提供

- ア 「ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業」(夏・冬各1回)
- イ 「未来キッズ生き生き事業」(6回)
- ウ 「ふくしまキッズフェスタ2016 in 会津」
- エ 企画事業の実施(21事業)

4 企画事業

(1) 研修会事業

- ア 学校団体指導者事前研修会
 - (ア) 目的
 - a 本所の設立の趣旨、教育目標、方針、利用のねらい及び運営方法を理解させる。

- b 児童生徒が安全に生活し充実した活動が行えるよう屋内外の施設環境を確認するとともに、各種プログラムのねらいや配慮事項を理解させ、効果的な活動計画が作成できるようにさせる。
- c 集団宿泊生活が円滑かつ効果的に進められるよう同じ時期に宿泊する他の学校団体との活動及び役割分担等について調整を図らせる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 第1回：平成28年4月20日（水）
5/17～6/18に利用する学校の教職員45名参加
- b 第2回：平成28年4月21日（木）
6/21～7/27に利用する学校の教職員36名参加
- c 第3回：平成28年4月27日（水）
8/18～10/7に利用する学校の教職員39名参加

(ウ) 研修内容

- a 利用の仕方及び利用日までの手続き準備物の確認
- b 活動計画の作成及び同時期利用団体との調整
- c プログラム及び活動内容、指導方法の理解
- d 施設及び避難経路の確認

イ 社会教育団体指導者事前研修会

(ア) 目的

- a 本所の設立の趣旨、教育目標、方針、利用のねらい及び運営方法を理解させる。
- b 社会教育活動が安全に充実したものになるよう屋内外の施設環境を確認するとともに、各種プログラムのねらいや配慮事項を理解させ、効果的な活動計画が作成できるようにさせる。
- c 集団宿泊生活が円滑かつ効果的に進められるよう、同じ時期に宿泊する他の社会教育団体との活動及び役割分担等について調整を図らせる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成28年6月12日（日）
- b 7/18～8/22に利用する社会教育団体の指導者
55名参加

(ウ) 研修内容

- a 利用の仕方及び利用日までの手続き準備物の確認
- b 活動計画の作成及び同時期利用団体との調整
- c プログラム及び活動内容、指導方法の理解
- d 施設及び避難経路の確認

ウ ボランティアセミナー

(ア) 目的

- a ボランティアに関する講話や実践例などを聞く機会とし、ボランティアの意識高揚を図る。
- b ボランティアメンバーの交流の場を設け、情報交換などを通してボランティアとしての意欲を高める。
- c プログラム体験の機会を設け、各種事業に協力する際に必要な体験活動に関わるスキルを身につけることができるようにする。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 第1回 平成28年5月15日（日）6名参加
- b 第2回 平成28年6月17日（金）138名参加
- c 第3回 平成28年7月17日（日）21名参加
- d 第4回 平成28年11月27日（日）5名参加

(ウ) 研修内容

- a ボランティア講座
- b プログラム研修
- c コミュニケーションアップ講座

エ キンボール教室 in 会津

(ア) 目的

那須甲子・磐梯・いわき海浜・郡山・会津の福島県内の国公立施設でキンボール教室を実施することにより、福島県内でのキンボールの認知度を高め、プレーを通して、家族や友人との交流を深め、他人を思いやる心や協調性、ルールを守ることの大切さなどを学び、子どもの豊かな人間性を育む。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成28年11月6日（日）28名参加
- b 小学生を含む親子（保護者が1名参加すれば、その子どもの友だちの参加も可）
- c 講師 齋藤大介氏（日本キンボールスポーツ福島県連盟理事長）

(ウ) 活動内容

- a 交流ゲームとルール説明
- b 実践練習
- c 練習試合とまとめ

(2) 教育研究事業

ア 高寺山歴史勉強会

(ア) 目的

高寺山山開き前日に歴史勉強会を開催し、いにしへのロマンと豊かな自然を有する高寺山及び周辺の歴史や文化を学び、興味を持って高寺山山開きに参加することができる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成28年4月9日（土）30名参加
- b 一般対象

(ウ) 活動内容

高寺山歴史勉強会

イ わくわくキャンプ

(ア) 目的

- a いわき海浜自然の家やいわき地方の浜辺や海での体験活動を通して、健全な心と体、自然に親しむ気持ちを養わせる。
- b 宿泊体験を通していわきと会津の参加者同士の交流を図らせる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成28年7月29日（金）～31日（日）
2泊3日
- b 県内の小学校4～6年生 33名参加

(ウ) 活動内容

- a 交流活動
- b 野外炊飯
- c ナイトハント
- d 海遊び
- e いわきデイクルーズ

ウ 通学キャンプ

(ア) 目的

- a 自然の家での集団生活や様々な体験活動を通して、子どもたちの自律的な生活態度やよりよい人間関係を形成するための社会性を育成する。
- b 中学校進学前に、他校との交流を図ることによって中学校進学の不安を取り除く。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 地区別実施期日
 - (a) 喜多方市立第二中学校地区 22名参加
平成28年11月1日(火)～3日(木)2泊3日
 - (b) 会津坂下町立坂下中学校地区 50名参加
平成28年11月17日(木)～19日(土)2泊3日
 - (c) 会津若松市立北会津中学校地区 20名参加
平成28年11月24日(木)～26日(土)2泊3日
- b 当該中学校区の小学校4～6年生

(ウ) 活動内容

- a 信頼関係づくりゲーム
- b 学習(宿題、自主学習、読書等)
- c 木工クラフト、キンボール、缶バッジ
- d 室内ゲーム

エ 冬休み楽習宿

(ア) 目的

- a 児童に冬季休業中の学習課題等に効果的に取り組む場を設定する。
- b 自主性や創造性を育みながら、学習の仕方や基本的な生活習慣を身に付けさせる。
- c 児童のふれあいの場を設定し、参加者相互の交流を図る。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成28年12月26日(月)～28日(水)
2泊3日 62名参加
- b 県内の小学校4～6年生

(ウ) 活動内容

- a お楽しみ交流会
- b 学習(国語、社会、算数、理科)
- c 体力づくり

(3) 利用促進事業

ア 第12回高寺山山開き(会津坂下町との共催)

(ア) 目的

- a いにしへのロマンと豊かな自然を有する高寺山の山開きを行い、登山者の安全を願うとともに、町の教育観光資源を広く内外に広報し、地域振興に資する。
- b 参加者同士が共に汗を流し登山することにより、

健康づくりと温かい心の交流の機会を提供する。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成28年4月10日(日)395名参加
- b 一般対象

(ウ) 活動内容

- a 山開き式典
- b 高寺山登山
- c お楽しみ抽選会、さくら汁サービス

イ 春のオープンデー

(ア) 目的

- a 自然の家オープンデーを実施することにより、県民に会津自然の家内外の環境やプログラムについて公開する。
- b 子どもたちに、心身ともにリラックスできる環境とプログラムを体験する機会を提供し明るく楽しい活動をさせる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成28年5月29日(日)809名参加
- b 県内の幼児、小・中学生とその家族対象
- c ボランティア15名

(ウ) 活動内容

- a プログラム体験コーナー(無料)
カヌー体験、アスレチック(種目を限定)、森遊び、火おこし体験、ビンゴOL、UFOゴルフ、クラフト、ピザ(デモンストレーション)

ウ お月見コンサート2016

(ア) 目的

- a 中秋の名月の時期に天体望遠鏡で月面を観賞し、年中行事としての「月見」の体験をさせる。
- b 「月見」にふさわしい音楽や民話の語りを聴き、世代を越え、共に秋の夜長を楽しむ。

(イ) 期日、対象、参加者数、出演者数

- a 平成28年9月17日(土)201名参加
- b 一般対象
- c 講話講師、ピアノ演奏、民話の出演者9名

(ウ) 活動内容

- a 月面観賞～天体望遠鏡による月面観察、講話
- b 音楽コンサート
- c 会津の民話

エ 東松峠ウォーキング大会2016

(ア) 目的

- a 「旧越後街道」は、古くから会津若松と新潟県新発田市を結ぶ重要な街道であり、文化庁が選定する「歴史の道百選」に選定されており、地域の歴史的文化遺産である「東松峠」の再確認と継承・維持と保護の一環とする。
- b 東松峠ウォーキング大会に、地区外から参加を集うことにより、交流・地域の活性化を図る。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成28年10月22日(土)84名参加

b 一般対象

(ウ) 活動内容

<コース>

高寺コミュニティーセンター→天屋・本名→三本松→旧道→里檀→束松洞門→峠の茶屋跡→新道→三本松→天屋の阿弥陀様（希望者）→高寺コミュニティーセンター ※片門薬師堂（希望者）

オ 新そばにチャレンジ

(ア) 目的

そば打ち体験を通して、郷土の食生活、食の大切さを理解し、参加者同士の交流を深める。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 第1回：平成28年11月12日（土）
64名参加、講師3名
第2回：平成28年11月13日（日）
71名参加、講師3名
第3回：平成28年11月20日（日）
56名参加、講師3名

b 一般対象

(ウ) 活動内容

- a そば打ち実演
b そば打ち体験
c そば茹で実演
d そば茹で体験
e 試食

カ 手作り森のクリスマス

(ア) 目的

クリスマスケーキ、クラフトづくりを通して、楽しみながらケーキを作ったり、自然素材を工夫したりすることにより、家族やグループ間の交流、親睦を深める。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 第1回：平成28年12月3日（土）
47名参加、講師1名
第2回：平成28年12月4日（日）
48名参加、講師1名
b 県内の小・中学生とその家族対象

(ウ) 活動内容

- a クリスマスケーキ作り
(a) 講師の実演
(b) 生地づくり、ロールの仕方、デコレート
b クリスマスクラフト作成
c 試食

キ ウィンターフェスティバル

(ア) 目的

会津自然の家での宿泊、雪国ならではの冬を楽しむ活動などを通して、会津の冬や伝統文化のすばらしさを体験するとともに、参加者相互の交流を深めさせる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成29年1月21日（土）～22日（日）1泊2日

159名参加

b 県内の小・中学生とその家族対象

(ウ) 活動内容

- a 1日目：そりすべり、木工クラフト、スノーシュー体験、雪灯籠作り、会津の民話
b 2日目：猪苗代スキー場（スキー、スノーボード、そり、エアボード）

ク そりチャレンジデー

(ア) 目的

県民にそりゲレンデを開放することにより、会津の冬の楽しさを感じさせるとともに、冬の自然体験を備えた本所への理解を深めさせ、今後の集客につなげる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 第1回：平成29年1月29日（日）299名参加
第2回：平成29年2月12日（日）135名参加
第3回：平成29年2月19日（日）128名参加
第4回：平成29年2月26日（日）126名参加
b 県内の幼児、小・中学生とその家族対象

(ウ) 活動内容

そりすべり、チューブすべり、エアボードすべり

ケ クラフトキッズフェア

(ア) 目的

- a 親子で工夫し、楽しみながらクラフト作成を行うことにより、子どもの発想力や創造力を高めたり、親子の絆を深めたりする。
b クラフト作成の場を提供することにより、本所のプログラムについて理解を深める機会とする。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成29年3月5日（日）229名参加
b 県内の幼児、小・中学生とその家族対象
c ボランティア5名

(ウ) 活動内容

- a 木工クラフト
b かさ袋ロケット
c 割りばし鉄砲
d プラバン作成
e カラーキャンドル
f 新聞エコバック

(4) その他の企画事業

ア ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業

<会津自然の家サマーフェスタ>

(ア) 目的

自然の中での冒険体験等を通して、幼児、児童、生徒に対し、自立心や忍耐力、協調性を養わせるとともに、自然と調和することの大切さを感じさせる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成28年8月7日（日）254名参加
b 県内の幼児、小・中学生とその家族対象
c 派遣支援員4名、ボランティア10名
協力団体27名

(ウ) 活動内容

- a プログラム体験コーナー
アスレチック、カヌー体験、UFO ゴルフ、ミニ
樹木オリエンテーリング、森遊び、クラフト
- b 野外クッキング体験コーナー
バウムクーヘン
- c 協力団体コーナー
水辺の生き物観察コーナー、会津の民話、よさこ
い、チアリーダー、ヒップホップダンス

イ ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業

<会津自然の家スノーフェスタ>

(ア) 目的

冬の会津での自然体験活動を通して、自立心や忍耐力、協調性を養うとともに、自然と調和することの大切さを知る。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成 29 年 2 月 5 日 (日) 171 名参加
- b 県内の幼児、小・中学生とその家族対象
- c 派遣支援員 4 名、インストラクター 10 名

(ウ) 活動内容

猪苗代スキー場でのスキー、そりすべり、エアボードすべり体験

ウ 未来キッズ生き生き事業

(ア) 目的

県内の子どもたちとその家族を自然の家へ招待し、プレイリーダーの協力も得ながら、一日を通して、自然の家でのプログラムに基づき、心身の健康や運動不足解消や体力増進となる取組を実施する。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 第 1 回：平成 28 年 5 月 29 日 (日) 809 名参加
第 2 回：平成 28 年 6 月 19 日 (日) 218 名参加
第 3 回：平成 28 年 7 月 3 日 (日) 110 名参加
第 4 回：平成 28 年 8 月 21 日 (日) 218 名参加
第 5 回：平成 28 年 9 月 11 日 (日) 292 名参加
第 6 回：平成 28 年 10 月 16 日 (日) 233 名参加
- b 会津地方の 12 歳以下の子供たちとその家族対象

(ウ) 活動内容

フィールドアスレチック、森遊び、UFO ゴルフ、草すべり、的あて、オリエンテーリング

エ ふくしまキッズフェスタ 2016 in 会津

(ア) 目的

アスレチック、スポーツ、レクリエーション、コンサート、宿泊キャンプ等、様々な分野のイベントを開催し、子供たちやその家族の心身のリフレッシュと自然の家の活動への理解を深めさせる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成 28 年 10 月 1 日 (土) ~2 日 (日)
1580 名参加
- b 一般対象

(ウ) 活動内容

カヌー、アスレチック、草すべり、森遊び、UFO ゴルフ、もっくんキーホルダー、ニュースポーツチャレンジランキング、野外クッキング、屋外・屋内イベント

第18節 福島県いわき海浜自然の家

1 概要

福島県いわき海浜自然の家は、海と山の豊かな自然環境の中で様々な活動や集団宿泊体験を通して、心身ともに健全な青少年を育成することを目的とした社会教育施設として平成8年7月に開所した。

開所以来、学校の利用はもとより、スポーツ少年団、子ども会などの社会教育団体や家族などのあらゆる年齢層に利用されてきた。

しかし、平成23年3月11日の東日本大震災により休所を余儀なくされ、同年11月1日から財団法人いわき市教育文化事業団を指定管理者として一部再開をした。以降、利用者が少しでも安心して利用できる環境を創出するため、活動エリアの放射線量測定及びデータの公開を行うとともに、低減措置を講じている。

平成23年度には本館周辺、平成24年度にはつどいの広場やいこいの広場、及び第5営火場周辺の芝生張替等による線量低減措置、平成25年度にはトリムランドの除染、野営場入り口付近の崩落現場の復旧工事を実施した。平成26年度には野営場の表土入替作業や営火場のレンガ交換など除染作業を行い安全安心な活動エリアの拡大・復旧に努めた。なお、復旧工事等により平成25年度まで使用できなかったロッジ・野外炊飯場等については、除染終了後の平成26年7月より使用を再開した。しかし、山林部分の放射線対策は進まずフィールドアスレチックや冒険の森などの山での活動プログラムの再開はできていない。しかしながら、四倉海岸の海水浴の再開に合わせて、砂の芸術や磯遊びなどの本施設の目玉である海浜活動の一部を再開した。また、いかだ活動は、海での再開が困難な状況であるため平成28年度から川での活動として再開した。

平成28年度の利用状況は、543団体、延べ利用者数40,566人で、震災前の平成22年度（546団体 66,611人）に比して61%ほどであった。、学校教育団体の利用は、153団体延べ12,778人（平成22年度は342団体、延べ50,576人）と、団体数では44%、延べ人数では3割にも満たない状況である。しかしながら、全体的な団体数は、ほぼ同数に戻ってきている。これは、震災以降に公民館などに積極的に広報活動を行い社会教育団体の利用の増加に努めたためであり、平成22年度142団体、延べ13,444人の利用から平成28年度は、団体数247%増の351団体、延べ人数166%増の22,400人へと大きく利用者増に結びついている。

(1) 平成28年度重点目標と成果

震災によって、これまでの自然体験活動が制限される中、少しでも多くの利用者が、新たな発見や感動、満足感・充実感を味わうことにより、本来の活動目的が達成されるよう次の目標に取り組んだ。

ア 本施設の設置目的の明確化とその周知及び利用促進を図る。

(ア) 自然体験活動が制限される中で教育施設として、青少年健全育成を目的とした利用のあり方などを考えながら受け入れを実施。野外での活動内容が制限されていることから、クラフト活動、歴史講座などの出前講座の充実を図った。

(イ) オープンデーやクラフトのつどいなどの企画事業を充実させ、利用の促進・広報につなげることができた。

(ウ) 小・中学校等への利用促進のための情報提供、PR活動に努めるとともに、生涯学習施設としての役割に鑑み、教育文化施設や公民館への広報活動を行い、史跡・文化財めぐり、健康体操、ニュースポーツなどを実施。さらには、公民館等との連携事業を展開するなど、新たな利用者開拓を行った。

イ 利用者のニーズに対応した施設運営に努める。

(ア) 幼児から高齢者まで、多様なニーズに対応した幅広いプログラムの開発とクラフト活動に努めた。

(イ) 企画事業を通してアンケート調査を実施し、利用者のニーズについての調査・研究を行い、ニーズに応じた支援を実施した。また、利用者の自主性・主体性を助長できるよう、工夫・改善に努めた。

ウ 事故の未然防止、危機管理体制の充実に努める。

(ア) 受付やオリエンテーション、活動支援において安全のための適切な助言や指導を行った。

(イ) 学校・社会教育団体ともに事前研修会を実施し、安全で有効かつ適切な施設の活用について周知徹底するとともに、利用団体の指導者に対して適切な助言を行い安全教育の充実を図った。

(ウ) 東日本大震災を教訓として、事故発生時の緊急対応及び連絡体制を明確にし、情報の共有化を徹底し危機管理体制の充実に努めた。

無線アンテナ設備の設置による海浜活動時等の情報通信網の整備や自然災害等での避難方法のマニュアル化など、利用者の安全と被害防止に努めた。

(エ) 本年度も利用不可であったが、フィールドアスレチックコース等の安全点検を定期的に行うとともに、利用可能な遊具等の安全管理に努めた。

また、施設全体と活動エリアである海岸、さらに非活動エリア内山間部の放射線量の測定を定期的実施して公表した。

エ 定期的な業務内容の点検と改善に努める。

(ア) 計画的かつ定期的な評価により、改善点の明確化を図り、密度の高い施設運営に努めた。

(イ) 多面的かつ多角的な視点から、業務遂行の在り方について検討し、開かれた施設運営に努めた。

(ウ) 利用者へのアンケート結果を参考に、業務遂行の在り方を検討し、利用者の目線に立った支援や管理運営に努めた。

オ 地域との連携を深め、生涯学習実践の場として機能する施設運営に努める。

- (ア) 環境ボランティアを中心に地域との関係を密接にし地域に根ざした施設づくりに努めた。
- (イ) 支援ボランティアが企画事業の一端を自主運営するなど、ボランティア活動の場の充実に努めた。
- (ウ) 公民館、支所、消防署、交番、教育文化施設等のほか、地域の各種団体など、関係機関との連携強化に努めた。
- (エ) オープンデーやクラフトのつどいなどの利用促進事業を地域の連携、協力を得て開催した。

バドミントンコート2面、卓球台3台、ピアノ1台 キンボール 他)

- 野営場 (野外炊飯、キャンプ用品一式、冷蔵庫 他)
- 野外活動設備 (フィールドアスレチックコース、冒険の森歩道、トリムランド、営火場5ヵ所、各種オリエンテーリングコース、ナイトハイキングコース、ウォークラリーコース、ロープコース、マウンテンバイクコース 他)
- 多目的広場 (ソフトボール、マウンテンバイクコース、サッカーゴール 他)
- その他 (視聴覚機器、無線機 天体望遠鏡、双眼鏡、七宝焼窯、マウンテンバイク、釣り用具一式、海浜用具一式、大型バス 他)

(2) 職員組織

所長	次長	事務主任	副主任	指導員	教員	学芸員	調理師	事務員	臨時労働者	計
1	1	1	1	3	1	4	1	1	1	17

2 施設・設備の概要

(1) 所在地

いわき市久之浜町田之網字向山53

(2) 宿泊定員

- 本館定員 300名 (和室28室)
- ロッジ定員 160名 (10棟)
- テント定員 100名 (25張)

(3) 敷地面積

- 350,171㎡

(4) 建物面積

- 6,696.97㎡
- 中心施設

本館 (宿泊室、オリエンテーションホール、研修室、野外学習室、事務室、食堂、浴室等)

体育館

- 野外施設
管理棟、ロッジ、便所等

(5) 野外活動施設面積

- つどいの広場 7,000㎡
- 多目的広場 8,890㎡
- 自然観察園 4,050㎡
- みんなの広場 4,700㎡

(6) 設備品等

- 体育館 (バレーボールコート2面、バスケットボールコート1面(バスケットボールリング、ミニバスケットボールリング)、

3 利用状況

(1) 平成28年度利用者数

延べ利用者数 40,566人

内訳	学校教育団体	153団体	12,778人
	社会教育団体	351団体	22,400人
	ファミリー	6団体	76人
	企画事業		5,312人

4 企画事業

(1) 研修会事業

ア 学校団体指導者事前研修会

(ア) 目的

本所の利用にあたって、自主的、主体的な活動を展開するため、施設見学や実技研修を行い、研修計画の立案やその実施についての理解を深める。また、学校間で調整を図り、宿泊体験活動が円滑に実施できるようにする。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成28年4月20日(水)～21日(木)
- ・対象 平成28年度利用の学校団体
- ・参加者数 59名

(ウ) 研修内容

- ・施設紹介と利用の仕方について
- ・本所プログラム活動の紹介
- ・活動プログラムの作成・調整

イ 社会教育団体指導者事前研修会

(ア) 目的

施設見学や実技研修を通して、自主的、主体的な活動の進め方や研修計画の立て方の理解を深め、活動が円滑に実施できるようにする。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成28年5月27日(金)

- ・対象 平成28年7月1日以降の利用団体及び参加希望団体

- ・参加者数 59名

(ウ) 研修内容

- ・施設紹介と利用の仕方について
- ・本所プログラム活動の紹介
- ・海浜活動(磯遊び)

ウ ボランティア養成講座

(ア) 目的

自然体験活動を支援する上で、必要な知識と技術を習得するとともに、本所のボランティアとしての活動方法を学ぶ。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成28年5月8日(日) 参加者数 13名
- 平成28年7月10日(日) 参加者数 11名
- 平成28年10月23日(日) 参加者数 13名
- 平成28年11月27日(日) 参加者数 9名

- ・対象 高校生 大学生 一般

(ウ) 内容

実施予定の自然体験活動・企画事業支援についての研修を行った。

(2) 利用促進事業

ア 春のオープンデー

(ア) 目的

施設を地域の人々に広く開放し、本所への理解を深め、地域の中での自然の家の役割を認識し、多くの方々の協力及び参加を得ながら地域づくりやまちづくりに貢献する。さらに、ボランティアスタッフとのつながりを深め、生涯学習活動や施設運営の充実を図る。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成28年5月22日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 1,632名

(ウ) 内容

スポーツ体験(グラウンドゴルフ、マウンテンバイクなど)、餅つき、チアリーディングショー、太鼓演奏、クラフト体験(下敷き・缶バッジ作り、ハンカチ作り)、野外炊飯、消防車・救急車展示、海浜レストラン、海浜風呂などで楽しんだ。

イ 遊ぼう!初夏の海で〜釣り・磯遊び〜

(ア) 目的

海での釣りや磯遊びを楽しみながら家族の絆を深める。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成28年6月26日(日)
- ・対象 小学生とその家族
- ・参加者数 47名

(ウ) 内容

家族が防波堤や磯などでさまざまな魚を釣ったり、

磯遊びなどを楽しみながら海への理解を深めた。

ウ 秋のオープンデー(ふくしまっ子自然の家体験応援事業)

(ア) 目的

施設を地域の人々に広く開放し、本所への理解を深め、地域の中での自然の家の役割を認識し、多くの方々の協力及び参加を得ながら地域づくりやまちづくりに貢献する。さらに、ボランティアスタッフとのつながりを深め、生涯学習活動や施設運営の充実を図る。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成28年9月25日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 1,397名

(ウ) 内容

スポーツ体験(グラウンドゴルフ、マウンテンバイクなど)、魚つかみ取り、火おこし体験、フラダンスショー、太鼓演奏、七福神、クラフト体験(缶バッジ、木のペンダント作りなど)、ダンボール迷路などを楽しんだ。

エ 親子のつどい

(ア) 目的

親子での共同作業を通して、家族の絆を深めるとともに、他の家族との交流の促進を図る。

地域の人々やボランティアへ活動の場を提供し、交流の推進を図る。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成28年10月15日(土)
- ・対象 幼児から小学生とその家族
- ・参加者数 171名

(ウ) 内容

家族で伝承遊び(竹馬、けん玉)、クラフト(キーホルダー作り)、野外炊飯(カレー作り、流しそうめん作り)、ダンボール迷路などで楽しんだ。

オ ふれあいウォーキング

(ア) 目的

ウォーキングを通して健康の大切さや本所周辺の歴史・文化、自然環境を学ぶ。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成28年10月30日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 77名

(ウ) 内容

浜菊などの花を見たり、アケビや栗など秋の自然を感じながらウォーキングを行った。

カ ふれあいオータムキャンプ

(ア) 目的

自然の素晴らしさや人とふれあう喜びを体得し、協調性・社会性を身につけ、自立心を養う。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成28年11月12日(土)〜13日(日)

- ・対象 小学生
- ・参加者数 25名

(ウ) 内容

交流ゲームや野外炊飯（豚汁うどん）、キャンドルファイア、夏井川溪谷でのハイキングなどを行い参加者同士の親睦を深めた。

キ 冬を楽しもう！～スキー教室～

(ア) 目的

雪で遊ぶことの少ないいわきのこどもを対象に、県内の自然や冬の自然体験活動を学ぶ。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成29年1月8日(日)
- ・対象 小学生とその家族
- ・参加者数 40名

(ウ) 内容

猪苗代スキー場でスキーやそり遊びなどのウィンタースポーツを体験した。

ク クラフトのつどい（ふくしまっ子自然の家体験応援事業）

(ア) 目的

創作活動の場を提供し、ものづくりの楽しみや生涯学習の振興に寄与することを目的とする。併せて、本所への理解、利用促進を図る。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成29年2月19日(日)
- ・対象 幼児から中学生とその家族
- ・参加者数 454名

(ウ) 内容

コースター作り、缶バッジ、竹細工（竹とんぼ、ぼっくり）、昔遊び、おしる粉振る舞いなどを楽しんだ。

ケ 森の音楽会

(ア) 目的

普段、あまり聴くことのない演奏を身近で鑑賞することにより、日本の伝統音楽に対する関心を高めるとともに本所の利用促進を図る。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成29年3月5日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 155名

(ウ) 内容

ディナーバイキング料理と太鼓や箏などの和楽器演奏を堪能した。

(3) その他の企画事業

ア 公民館等連携講座（全30件）

(ア) 目的

いわき市立公民館等と連携し、史跡見学・歴史講座、ニュースポーツ、クラフト体験などを行い、社会教育団体等の利用促進を図った。

(イ) 期間・対象及び参加者数

- ・期日 平成28年4月1日(金)～平成29年3月31日(木)

・対象 成人

- ・参加者数 703名

(ウ) 内容

歴史講座、クラフトやニュースポーツ体験、健康体操などを体験した。

イ 出前講座（全6件）

(ア) 目的

自然の家の活動内容の紹介と学校及び社会教育団体等への利用促進を図るために、また、生涯学習教育の一環として出前講座を行う。

(イ) 期間・対象及び参加者数

- ・期日 平成28年4月1日(金)～平成29年3月31日(木)

・対象 学校、市内公民館など

- ・参加者数 346名

(ウ) 内容 歴史講座、ニュースポーツ、クラフト体験など。

(4) 連携事業

ア 未来キッズ生き生き事業（主催：福島県社会教育課）

(ア) 目的

身体を動かすプログラムを提供し、県民の体力向上の促進を目的とする。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- | | |
|------------------|----------|
| ・期日 平成28年5月1日(日) | 参加者数 93名 |
| 平成28年6月12日(日) | 参加者数 79名 |
| 平成28年7月10日(日) | 参加者数 63名 |
| 平成28年7月17日(日) | 参加者数 64名 |
| 平成28年8月28日(日) | 参加者数 15名 |
| 平成28年9月11日(日) | 参加者数 9名 |

・対象 一般

(ウ) 内容

ニュースポーツや竹馬やけん玉などの昔遊び、ロープを使つての冒険遊びなどで楽しみながら身体を動かした。

イ ふれあいサマーキャンプ（共催：会津自然の家）

(ア) 目的

海での活動を通して自然や人とふれあう喜びを体得するとともに、協調性・社会性を身につける。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成28年7月29日(金)～31日(日)

・対象 小学生

- ・参加者数 64名

(ウ) 内容

海浜活動(砂の芸術 ボディーボード)、交流ゲーム、野外炊飯、すいか割り、水族館見学などを行い参加者同士の親睦を深めた。

ウ 体験の風リレーションシップ事業

なすかしの森キンボール教室inいわき

(ア) 目的

福島県内でのキンボールの認知度を高めることを目的とし、プレーを通して家族や友達との交流を深める。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成28年12月10日(土)～11日(日)
- ・対象 小学生とその家族
- ・参加者数 43名

(ウ) 内容

プレーを通して家族や友達との交流を深め、他人を思いやる心や協調性、ルールを守ることの大切さなどを学んだ。

エ 福島の冬！ウィンターフェスティバル

(主催:会津自然の家)

(ア) 目的

福島の冬の風情や伝統文化のすばらしさを発見させるとともに参加者相互の交流を図った。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成29年1月21日(土)～22日(日)
- ・対象 小・中学生とその保護者
- ・参加者数 41名(当所からの参加者)

(ウ) 内容

会津自然の家に宿泊し、スキーや雪遊びなどの冬の自然体験活動を満喫した。

(5) その他

ア タイ青少年日本語研修(タイ王国カインドエンジェル)

(ア) 期日 平成29年3月11日(土)～4月30日(日)

(イ) 内容

36名のタイ青少年が50日間にわたり日本語学習と観光施設見学、茶道などを体験して国際交流、日本文化への理解を深めた。